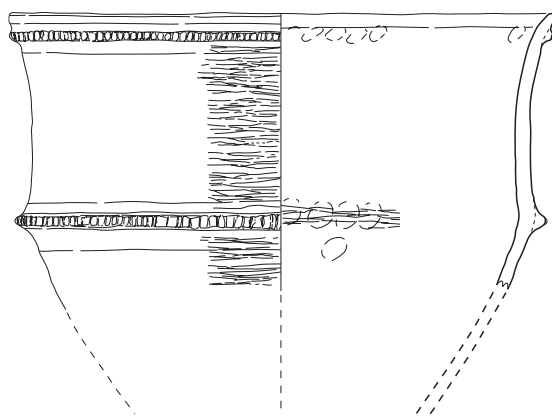


大分市埋蔵文化財調査概要報告2011

平成22年度版



馬場条里跡第1次調査 SX009 出土土器

大分市教育委員会

序 文

本書は、平成 22 年度に大分市教育委員会が実施いたしました埋蔵文化財発掘調査と関連事業の概要を収録したものであります。

大友氏遺跡におきましては、昨年度に引き続き大友氏館跡と「御蔵場」推定地の確認調査を実施いたしました。この調査により、「御蔵場」推定地の外郭施設と考えられます遺構や掘立柱建物跡を確認することができました。前年度の調査成果と合わせ、大友氏館周辺の都市景観を考える上で重要な成果となりました。

また、本書には 5 地点の小規模発掘調査成果を正式報告として収録しております。中でも、大分市東部の馬場地区に所在する馬場条里跡では、弥生時代前期の土器がまとまって出土しました。市東部地域における初期稲作農耕文化の様子を窺い知ることができる重要な発見といえます。

平成 22 年度は文化財の普及・活用について、市民との協働を始めた年度でもあります。これからの大友氏遺跡の整備・活用・管理等について、行政とともに活動していただける市民組織の必要性を強く感じ、ボランティアを募りましたところ、100 名を越える個人・団体に応募をいただきました。平成 23 年 1 月に「おおいた応援隊 大友歴史保存会」と称する組織として正式に発足され、大友氏遺跡の普及・啓発を目的に様々な活動が行われております。また、開館 3 年目となる大友氏遺跡体験学習館では、体験学習や各種イベントの充実に取り組んでおり、家族連れや児童、生徒の来館が昨年度以上に増えてまいりました。

これからも、市民の皆様のご意見をいただきながら、史跡の保護、保存ならびに活用を進めてまいりたいと存じます。

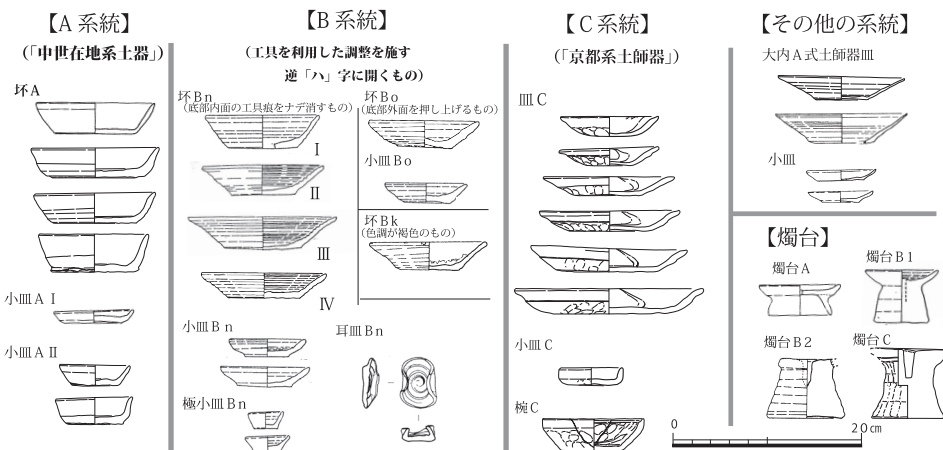
最後になりましたが、本書が市民の皆様に広く活用されますよう祈念いたしますとともに、本市文化財行政に対しましても、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成 23 年 12 月 28 日

大分市教育委員会 教育長 足立一馬

例 言

1. 本書は、大分市域において大分市教育委員会が平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日の間に行った埋蔵文化財に関する発掘調査およびこれに関連する事業の内容についてまとめた概要報告書である。
2. 平成 22 年度における調査地点は、第 2 図および第 1 表に示している。
3. 本書の執筆は、担当者が分担して行い、文末に執筆者名を記している。
4. 第 5 章の受贈図書一覧は、平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日の間に大分市教育委員会文化財課に受贈された書籍等を掲載した。なお、受贈図書一覧の作成は、石川ゆかりによる。
5. 本書に掲載された遺跡調査の資料整理は、調査担当者をはじめ、下記の大分市教育委員会嘱託職員が行ったものである。稗田智美、奥村義貴、羽田野裕之、廣瀬育子、松木晴美、小野千恵美、佐藤孝則、佐藤麻理子、佐藤良子、倉増美智代
6. 本書に掲載した本調査報告の 5 地点中、中世大友府内町跡第 94 次の掘削埋戻作業においては、大分市教育委員会文化財課の委託を受け九州文化財総合研究所が行った。
7. 本書に用いた方位はすべて座標北（G.N.）である。掲載図中の座標は、下郡遺跡群第 147 次・中世大友府内町跡第 94 次を除き世界測地系の平面直角座標 2 系の X・Y 座標を基点として表記している。
8. 本文中に掲載した現場写真は、各調査担当者が撮影したものである。
9. 本書の編集・構成は、松木晴美、佐藤道文、長直信および各調査担当者が行った。
10. 出土遺物および調査の記録・資料は大分市教育委員会文化財資料室に保管している。
11. 大友氏館跡・中世大友府内町跡で用いた出土遺物の分類及び年代観は以下の図及び文献を参考に行っている。



陶磁器類：太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊X V－陶磁器分類編－』小野正敏 1982「15～16 世紀の染付碗・皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No. 2（染付は青花に読み替える）上田秀夫 1982「14～16 世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No. 2 森田勉 1982「14～16 世紀の白磁の分類について」『貿易陶磁研究』No. 2 備前：乗岡実 2005『備前』『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年 資料集』焼締陶器：吉田寛 2003「中世大友府内町跡出土の産地不明焼締陶器について」『貿易陶磁研究』No. 28 瓦質・土師質土器火鉢：山村信榮 1990「太宰府出土の瓦質土器」『中近世土器の基礎的研究』VI 京都系土師器・土師質土器鍋：河野史郎 2002「出土土師器環・皿類及び瓦質土器雑器の分類と編年」『大友府内 4』大分市教育委員会 大内系土師器：北島大輔 2010『IX 章 大内式の設定』『大内氏館跡 X I』山口市教育委員会 在地系土師器：長直信 2011「豊後府内における京都系土師器導入 前後の土器様相」『古文化談叢』第 65 集（4）

本文目次

第 1 章	大分市教育委員会教育部文化財課概要	1
1	沿革	1
2	組織	1
3	大分市教育委員会事務局組織規則（抜粋）	2
第 2 章	平成 22 年度埋蔵文化財発掘調査の概要	3
第 3 章	主要な埋蔵文化財発掘調査概要及び調査報告	6
①	大友氏館跡第 23・24 次調査（概要）	6
②	中世大友府内町跡第 89 次調査（概要）	7
③	中世大友府内町跡第 94 次調査（報告）	9
④	下郡遺跡群第 147 次調査（報告）	16
⑤	猪野遺跡第 4 次調査（報告）	17
⑥	葛木遺跡第 6 次調査（報告）	18
⑦	馬場条里跡第 1 次調査（報告）	24
第 4 章	平成 22 年度 of 教育普及活動	32
①	大友氏遺跡フェスタ 2010	32
②	大分市文化財たより 2010 年度号の発行	32
③	大友氏遺跡体験学習館（平成 22 年度の活動）	32
④	大友氏遺跡 PR 活動 in 大分空港	33
⑤	大友氏遺跡ボランティアの募集	33
⑥	「築市築座 大おもて会」の開催	33
⑦	遺跡説明会（府内城・城下町跡第 19 次調査）	33
第 5 章	受贈図書目録	34

第1章 大分市教育委員会教育部文化財課概要

1. 沿革

昭和 51 年 4 月 1 日 大分市教育委員会社会教育課内に文化財係を設置
昭和 59 年 6 月 28 日 大分市教育委員会社会教育課文化財係を大分市教育委員会社会教育課文化財室に改組
平成 5 年 4 月 1 日 大分市教育委員会文化振興課文化財室に改組
平成 10 年 4 月 1 日 大分市教育委員会生涯学習課文化財室に改組
平成 12 年 4 月 1 日 大分市教育委員会文化財課に改組
平成 13 年 4 月 1 日 大分市教育委員会教育総務部文化財課に改組
平成 21 年 4 月 1 日 大分市教育委員会教育部文化財課に改組

2. 組織

教育部参事兼課長 玉永光洋

大分市歴史資料館

参事 福田誠一 塔鼻光司（平成 23 年 5 月～）

参事兼館長 讃岐和夫

主幹兼副館長 久多羅岐明 武富雅宣

管理普及担当班

主査 秋吉えつ子

主幹（班長） 坪根伸也（平成 23 年 4 月～）

指導主事 後藤真治

指導主事 植木和美 小野富広

岩本浩典（平成 23 年 4 月～）

専門員 河野史郎

専門員 中西武尚

主査 神崎小由美 栗田博之

主任 金丸英治（平成 23 年 4 月～）

主任 永松正大 竹中智美

嘱託職員 佐藤孝則 羽田野裕之 廣瀬育子 仲町憲治

研修教諭 高野宏行（平成 23 年 4 月～）

臨時職員 井上 琴（平成 23 年 4 月～6 月）

嘱託職員 古瀬美鈴 大平直子

玉井 絢（平成 23 年 7 月～）

細井雅希 阿南希依

其田満男 阿部和広

神志那潔

史跡整備担当班

主査（班長） 筒井和信

齊藤慎悟 渡辺政雄

臨時職員 小野利恵（～平成 23 年 9 月）

藤澤信之（平成 23 年 4 月～）

中山琴葉（平成 23 年 10 月～）

専門員 高畠 豊

主任 五十川雄也 宮崎 勲 山上洋二郎 麻生重徳

主事 石川ゆかり

嘱託職員 佐藤良子 倉増美智代

埋蔵文化財担当班

専門員（班長） 池邊千太郎

専門員 塩地潤一

主任 佐藤道文

主事 長 直信 松浦憲治 朝川貴俊

嘱託職員 稗田智美 奥村義貴 松木晴美

小野千恵美

小野知恵 小野綾夏（平成 23 年 4 月～）

佐藤麻理子 永井美香（平成 23 年 4 月～）

3. 大分市教育委員会事務局組織規則（抜粋）

文化財課

- (1)文化財の調査、保存及び整備に関すること。
- (2)文化財保護思想の普及啓発に関すること。
- (3)文化財保護審議会に関すること。
- (4)歴史資料館、海部古墳資料館、毛利空桑記念館、池見家住宅その他文化財施設の管理に関すること。

1. 大分市文化財保護審議会

大分市文化財保護審議会委員（平成 22 年 4 月 1 日現在）

氏名	勤務先	担当
北野 隆	熊本大学・名誉教授（会長）	建築
豊田 寛三	別府大学学長（副会長）	近世
下村 智	別府大学・教授	考古埋蔵
西別府 元日	広島大学・教授	古代
鹿毛 敏夫	新居浜工業高等専門学校・准教授	中世
宗像 健一	大分市美術館・顧問	美術
吉田 稔	大分生物談話会会長	植物
渡辺 文雄	別府大学・教授	工芸
段上 達雄	別府大学・教授	民俗
渡邊 ひろ美	大分県立大分舞鶴高等学校・教諭	動物

大分市文化財保護審議会条例（平成 11 年 12 月 15 日条例第 42 号）

（設置）

第 1 条 文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 190 条第 1 項の規程に基づき、大分市教育委員会（以下「教育委員会」という。）に大分市文化財保護審議会（以下「審議会」という）を置く。（平 17 条例 13・一部改正）

（組織）

第 2 条 審議会は、委員 10 人以内をもって組織し、学識経験者のうちから教育委員会が委嘱する。

（任期）

第 3 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする。

（会長及び副会長）

第 4 条 審議会に会長及び副会長 1 人を置き、委員の互選により選出する。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総括する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第 5 条 審議会の会議（以下「会議」という。）は会長が召集し、会長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

3 会議の議事は、出席議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明、又は意見を聴くことができる。

（部会）

第 6 条 審議会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。

（庶務）

第 7 条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

（委任）

第 8 条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附則

（施行期日）

1 この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

（大分市文化財調査委員会条例の廃止）

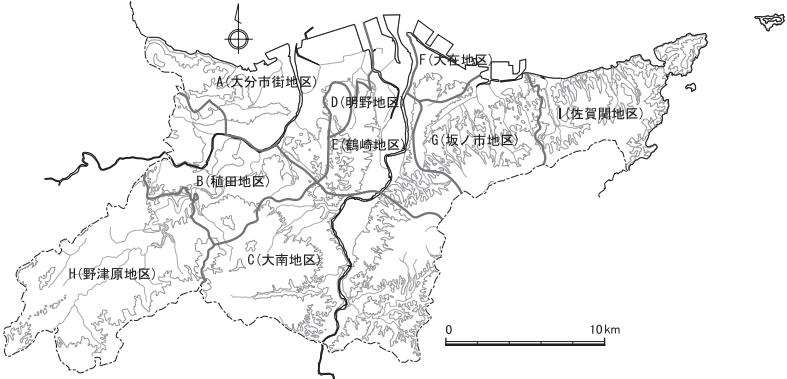
2 大分市文化財調査委員会条例（昭和 51 年大分市条例第 4 号）は廃止する。

附則（平成 17 年条例第 13 号）

この条例は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

第2章 平成22年度埋蔵文化財発掘調査の概要

平成22年度に、大分市教育委員会が実施した発掘調査（本調査）は25件、合計の調査面積は16105.9㎡である。このうち、大分市の公共事業によるものが13件13259.7㎡、国庫補助による市内遺跡確認調査が5件1643.3㎡、民間開発に伴う事業が7件で1202.9㎡であった。市内の地域区分でみると、横尾遺跡143次～



第1図 大分市内地域区分図

146次、猪野遺跡4次、葛木遺跡6次、米竹遺跡4・5・6次が鶴崎地区（地域E）、城原・里遺跡13次、丹生川坂ノ市条里跡13次が坂ノ市地区（地域G）、馬場条里跡1次が佐賀関地区（地域I）である他はすべて大分地区（地域A）であった。

一方、開発事業に伴う試掘・確認調査・立会調査は119件であった。試掘・確認調査が32件、立会調査が87件である。試掘・確認調査では8件40％が公共事業に伴うものである。立会調査については、大半が個人住宅の浄化槽設置に伴う立会調査である。地域別件数では、開発件数の集中を反映して大分地区（地域A）が45

第1表 平成22年度発掘調査一覧

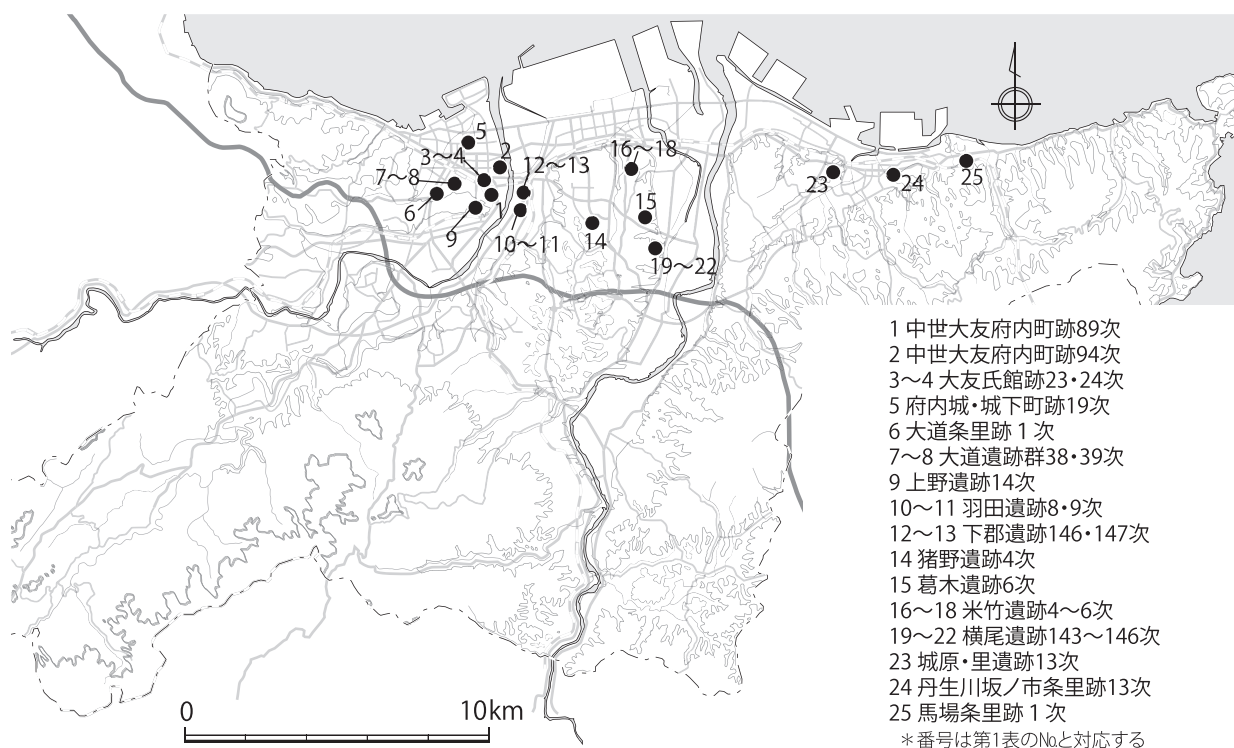
NO.	調査名	所在地／地域	調査担当者	調査要因	調査面積	調査期間	調査内容	報告予定
1	中世大友府内町跡89次	六坊北町 A	長・松浦	市内重要遺跡確認調査	911.5	100506～0615	戦国期の南北溝・掘立柱建物跡・南北方向の積土遺構・ピット群「御蔵場」内部推定地	平成22年度 （概報）
2	中世大友府内町跡94次	錦町2丁目 A	松浦	個人住宅	69	100819～0913	16世紀前葉代の井戸・土坑	本書所収
3	大友氏館跡23次	顕徳町3丁目 A	長	市内重要遺跡確認調査	534.8	100913～1110	16世紀前葉の大型土坑 16世紀後葉～末の南北溝	平成22・23年度 （概報）
4	大友氏館跡24次	顕徳町3丁目 A	長	市内重要遺跡確認調査	28	110111～0121	16世紀前葉の大型土坑 16世紀後葉～末の南北溝	平成23年度 （概報）
5	府内城・城下町跡19次	荷揚町 A	松浦	学校体育館建設	728.3	101108～110326	府内城三ノ丸武家屋敷地内 上原氏・手島氏等屋敷所有者を示す陶磁器の焼継ぎ文字を確認	平成23年度
6	大道条里跡1次	大道町2丁目 A	松浦・佐藤	大道小学校校舎建設	1859.4	100614～0805	古墳時代～近世の土坑・ピット	平成23年度
7	大道遺跡群38次	東大道1丁目 A	長	大分駅南土地区画 整理事業	837	100702～0915	古墳時代前期の土坑・谷地形	平成24年度 以降
8	大道遺跡群39次	東大道2丁目 A	長	駅南区画整理事業	1438.3	100702～0915	中世の東西溝・古代の土坑	平成24年度 以降
9	上野遺跡群14次	大分市上野丘東 A	五十川・奥村	共同住宅建築	131.1	100726～0730	古代の土坑 大型硯出土	平成24年度
10	羽田遺跡8次	大字羽田 A	五十川	街路建設（下郡羽田線）	801.5	101014～110310	中世の鋳造関連遺構 弥生時代～古墳時代の集落	平成23年度
11	羽田遺跡9次	大字羽田 A	五十川	街路建設（下郡羽田線）	213.9	101206～1228	中世後期の溜井状遺構	平成23年度
12	下郡遺跡群146次	下郡南3丁目 A	五十川	共同住宅建築	233.9	100426～0525	中世の井戸	平成22年度
13	下郡遺跡群147次	下郡南3丁目 A	高畠	事務所建設	9.8	101124	古代の井戸	本書所収
14	猪野遺跡4次	大字猪野字新土井 E	佐藤道文	宅地造成	115	100518	ピット群	本書所収
15	葛木遺跡6次	大字葛木字西上 E	五十川・長・高畠	宅地造成	188.1	110223～110331	弥生中期と7～9世紀の土坑群	本書所収
16	米竹遺跡4次	大字千歳字花畑 E	松浦	老人福祉施設建設	424.6	101004～1029	弥生時代中期の貯蔵穴群	平成22年度
17	米竹遺跡5次	大字千歳字花畑 E	松浦	宅地造成	100.4	100927～1013	弥生時代中期の貯蔵穴群	平成22年度
18	米竹遺跡6次	大字千歳 E	池邊・羽田野	街路建設	197.8	110131～110224	弥生時代中期の貯蔵穴群	平成23年度
19	横尾遺跡143次	大字横尾 E	塩地	横尾土地区画 整理事業	3070.7	100531～1029	弥生時代環壕集落跡	平成23年度
20	横尾遺跡144次	大字横尾 E	塩地・羽田野	横尾土地区画 整理事業	880.8	101026～110204	古墳時代焼失竪穴建物跡	平成24年度
21	横尾遺跡145次	大字横尾 E	塩地潤一・羽田野	横尾土地区画 整理事業	579	101026～110204	古墳時代竪穴建物群	平成24年度
22	横尾遺跡146次	大字横尾 E	塩地潤一・羽田野	横尾土地区画 整理事業	1168.8	101026～110204	中世掘立柱建物跡	平成24年度
23	城原・里遺跡13次	大字城原 G	長	市内重要遺跡確認調査	100	101129～1216	8世紀代の海部郡衙推定地 古代のピット群	平成22年度 （概報）
24	丹生川坂ノ市条里跡13次	坂ノ市中央5丁目 G	五十川	校舎建設	1384.2	100802～1013	弥生時代後期の石棺墓群	平成23年度
25	馬場条里跡1次	大字馬場字横枕 I	高畠	水道ポンプ場建設	100	101108～1010	弥生前期の土坑・溝	本書所収

※濃いトーン：公共事業調査 ／ 薄いトーン：国庫補助調査

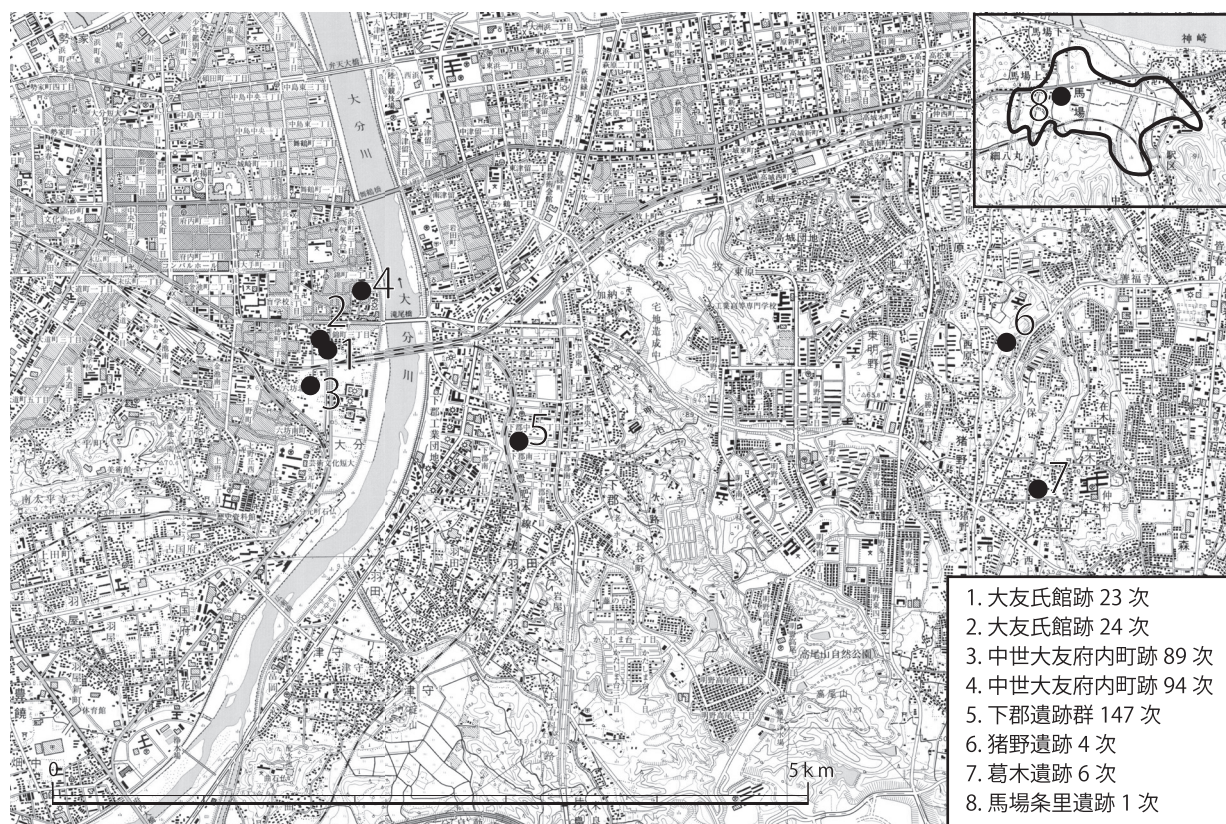
第2表 平成22年度確認調査・立会調査一覧

番号	調査 種別	周知道跡名	調査実施日	所在地	調査原因	事業種別	調査 面積	担当者	調査結果	措置
1	立会	玉沢地区条里跡	平成22年4月6日	大字木上字鎌手20番地	集合住宅	民間開発	24.0	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
2	立会	下郡遺跡群	平成22年4月6日	下郡中央2丁目284-2	個人住宅	公共事業	2.4	五十川 松木	遺跡なし	工事着工
3	確認	下郡遺跡群	平成22年4月13日	下郡北3丁目413-416	共同住宅	民間開発	51.8	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
4	立会	羽田遺跡	平成22年4月14日	大字羽田字下812他7筆	宅地造成	民間開発	35.0	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
5	立会	中世大友府内町跡	平成22年4月15日	錦町1丁目3220番5他	個人住宅	民間開発			遺跡なし	工事着工
6	確認	丹生川坂ノ市条里跡	平成22年4月23日	大字丹生川字水々本363番1他	幼稚園・保育園建設	民間開発	70.0	五十川 長 松浦	遺跡なし	工事着工
7	立会	下郡遺跡群	平成22年4月26日	下郡南5丁目218番、219番	その他建物	民間開発	6.0	佐藤	遺跡なし	工事着工
8	確認	大道遺跡群	平成22年4月26日	東大道2丁目2413-30他	大分駅南土地区画整理事業	公共事業	68.0	高畠 廣瀬	遺跡あり	本調査
9	確認	鷺木遺跡	平成22年4月28日	大字森字北原1234番1 他3筆	老人ホーム建設	民間開発	40.8	高畠 廣瀬	遺跡あり	協議中
10	立会	府内城ノ城下町	平成22年4月21日・26日	荷越町74-1	車庫・仮設	公共事業	2.4	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
11	立会	佐柳遺跡	平成22年5月24日	大字中戸次4339番6	倉庫建設	民間開発	11.5	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
12	立会	上野遺跡群	平成22年5月31日	上野北西250番2	個人住宅	民間開発	17.2	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
13	確認	上野遺跡群	平成22年6月4日	上野北東267-3,4,5,6	集合住宅	民間開発	6.0	高畠 廣瀬	その他	本調査
14	確認	大道条里跡	平成22年4月28日・30日	大道町2丁目9番57号	学校建設	公共事業	40.0	佐藤	遺跡あり	本調査
15	立会	東田家遺跡	平成22年6月7日・22日	田家町124-7番地他	下水道敷設	公共事業	20.0	高畠 佐藤 廣瀬	遺跡なし	工事着工
16	確認	羽屋園遺跡	平成22年6月8日	大字羽屋字草木田116番5	個人住宅	民間開発	5.4	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
17	試掘	羽田遺跡	平成22年5月26日	大字羽田東ノ木589-2	宅地造成	民間開発	15.4	高畠 五十川 廣瀬	遺跡あり	協議中
18	立会	羽田遺跡	平成22年6月10日	大字羽田字前田791番1	個人住宅	民間開発	3.9	佐藤 廣瀬	遺跡あり	工事着工
19	立会	羽田遺跡	平成22年6月10日	大字羽田字下869番5	個人住宅	民間開発	4.2	長 松浦	遺跡あり	工事着工
20	確認	二川遺跡	平成22年6月21日	大字横尾字藤田3733番1他	事務所建設	民間開発	15.9	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
21	確認	玉沢地区条里跡	平成22年6月22日	大字上宗方字大坪507番1他	集合住宅	民間開発	16.7	五十川 廣瀬	遺跡なし	工事着工
22	確認	下郡遺跡群	平成22年6月25日	下郡北2丁目189番の一部份	貸家建設	民間開発	52.9	高畠 佐藤 廣瀬	遺跡あり	竣工後点検
23	立会	下郡遺跡群	平成22年6月25日	下郡中央2丁目185番	個人住宅	民間開発	3.5	佐藤	遺跡なし	工事着工
24	立会	東田家遺跡	平成22年6月29日	田家町181番4	集合住宅	民間開発	20.0	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
25	立会	羽田遺跡	平成22年7月1日	大字羽田東ノ木589-2	建築確認	民間開発	42.5	高畠 五十川 奥村 廣瀬	遺跡あり	工事着工
26	確認	上野遺跡群	平成22年7月2日・20日	上野北ノ13-12	立売・再開発	民間開発	34.1	高畠 五十川 長 廣瀬	遺跡あり	協議中
27	立会	横尾遺跡	平成22年7月5日	大字横尾D-22⑤、⑥	個人住宅	民間開発	3.4	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
28	立会	津守遺跡	平成22年7月6日	大字津守字鳥越977番3	個人住宅	民間開発	2.2	五十川 廣瀬	遺跡なし	工事着工
29	確認	丹生遺跡	平成22年7月6日	丹生297-6他	口締結対策	公共事業	8.0	高畠	遺跡なし	現状保存
30	立会	羽田遺跡	平成22年7月20日	片島字山崎1066-2	個人住宅	民間開発	2.5	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
31	立会	古国府遺跡群	平成22年7月27日	大字羽屋字八幡前924番2他	集合住宅	民間開発	高畠 廣瀬		遺跡なし	工事着工
32	立会	玉沢地区条里跡	平成22年7月28日	大字戸戸字岩サキ677番2他	専用住宅用地造成	民間開発	21.0	廣瀬	遺跡なし	工事着工
33	立会	丹生川坂ノ市条里跡	平成22年7月26日	小佐井3丁目1番18号	仮設校舎	公共事業	4.0	廣瀬	遺跡なし	工事着工
34	立会	古国府遺跡群	平成22年7月28日	大字古国府字南306番5	個人住宅	民間開発	2.0	佐藤	遺跡なし	工事着工
35	立会	久原遺跡	平成22年7月28日	久原中央3丁目116番1他	個人住宅	民間開発	5.0	高畠	遺跡なし	工事着工
36	確認	久原家遺跡	平成22年7月4日	須賀2丁目157番地	個人住宅	民間開発	25.8	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
37	立会	下郡遺跡群	平成22年8月10日	下郡南5丁目267-3	個人住宅	民間開発	8.1	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
38	立会	横尾遺跡	平成22年8月12日	横尾D-5⑥・⑦	個人住宅	民間開発	4.6	廣瀬	遺跡なし	工事着工
39	立会	賀来西遺跡	平成22年8月19日	大字賀来4081番地	集合住宅	民間開発	6.2	廣瀬	遺跡なし	工事着工
40	立会	久原第2遺跡	平成22年8月17日	久原北173番	個人住宅	民間開発	3.5	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
41	立会	宮苑井ノ口遺跡	平成22年8月25日	大字宮苑1119番	個人住宅	民間開発	2.2	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
42	立会	横尾遺跡	平成22年8月23日	大字横尾D-23⑤・⑥	個人住宅	民間開発	6.1	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
43	立会	末広遺跡	平成22年7月29日	末広町2丁目19番1他	店舗	民間開発	10.0	廣瀬	遺跡なし	工事着工
44	立会	横尾遺跡②	平成22年8月19日	戸ノ瀬1丁目229番	個人住宅	民間開発	2.0	五十川	遺跡なし	工事着工
45	確認	米竹遺跡	平成22年8月24日	大字千歳字中1944番1,2,3他	高齢者専用賃貸住宅	民間開発	68.4	高畠 廣瀬	遺跡あり	協議中
46	確認	横尾遺跡	平成22年8月30日～9月2日	大字横尾A-1街区他	土地区画整理	公共事業	177.0	塩地	遺跡あり	協議中
47	立会	二日川遺跡	平成22年9月6日	大字横尾字芝尾3626番6,7他	集合住宅	民間開発	12.0	高畠	遺跡あり	工事着工
48	確認	馬場条里跡	平成22年10月26日、11月9日・10日	大字馬場字横枝656-1他	水辺遊歩道施設	公共事業	100.0	高畠 廣瀬	遺跡あり	工事着工
49	立会	下郡遺跡群	平成22年9月9日	下郡南5丁目239番地	個人住宅	民間開発	3.9	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
50	立会	上野遺跡群	平成22年9月6日	上野北東263番3、9	個人住宅	民間開発	7.7	佐藤 廣瀬	遺跡なし	工事着工
51	立会	下郡遺跡群	平成22年9月8日	下郡中央1丁目123番	個人住宅	民間開発	3.0	高畠 廣瀬	遺跡あり	工事着工
52	立会	丹生川坂ノ市条里跡	平成22年9月13日	坂ノ市南3丁目327番地	個人住宅	民間開発	3.4	廣瀬	遺跡なし	工事着工
53	立会	古国府遺跡群	平成22年9月21日	大字羽屋字園1120番地	個人住宅	民間開発	1.7	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
54	立会	古国府遺跡群	平成22年9月24日～11月11日	大字古国府465-3他	下水道建設	公共事業	18.0	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
55	確認	府内城ノ城下町	平成22年10月5日	荷越町3番49号	体育館建設	公共事業	37.5	高畠 廣瀬	遺跡あり	発掘調査
56	立会	地蔵原遺跡	平成22年10月5日	片島原字地蔵原303-1	デパート放送中継局	民間開発	42.0	高畠	遺跡なし	工事着工
57	立会	横尾遺跡	平成22年10月18日	大字横尾D-22⑦	個人住宅	民間開発	3.5	廣瀬	遺跡なし	工事着工
58	立会	下郡遺跡群	平成22年10月14日	下郡中央2丁目284番1	個人住宅	民間開発	3.8	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
59	確認	二川遺跡	平成22年10月15日	大字横尾字土橋3803番の一部份	集合住宅宅地造成	民間開発	30.0	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
60	立会	鷺木遺跡	平成22年10月15日	大字鷺木字中塚423番5	個人住宅	民間開発	4.3	廣瀬	遺跡なし	工事着工
61	確認	古国府遺跡群	平成22年10月20日	大字奥田772-1	学校体育館建設	公共事業	20.8	高畠 池邊 廣瀬	遺跡あり	協議中
62	立会	羽田遺跡	平成22年10月25日	大字羽田字岩屋420番地	公園利用改修	公共事業	9.0	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
63	立会	下郡遺跡群	平成22年10月26日～平成23年3月2日	下郡中央1丁目124番	個人住宅	民間開発	16.4	高畠	遺跡なし	工事着工
64	確認	鶴崎町遺跡群	平成22年10月28日		校舎建設	公共事業	0.0	池邊 高畠 廣瀬	遺跡あり	協議中
65	立会	門前遺跡	平成22年11月1日	大字松岡5386番地	無縁墓地周建設	民間開発	6.8	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
66	立会	横尾遺跡	平成22年10月8日	横尾D-22⑧	個人住宅	民間開発	廣瀬		その他	工事着工
67	立会	古国府遺跡群	平成22年11月9日	大字羽屋字八幡前905-2	個人住宅	民間開発	2.3	佐藤(道)	遺跡なし	工事着工
68	立会	横尾遺跡	平成22年11月11日	大字横尾D-7⑤	個人住宅	民間開発	5.2	高畠	遺跡あり	工事着工
69	立会	末広遺跡	平成22年11月16日	末広町1-2②	事務所ビル	民間開発	50.0	河野	遺跡なし	工事着工
70	確認	上野遺跡群	平成22年11月16日	上野北東268番1他	宅地造成	民間開発	72.8	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
71	立会	鷺木遺跡	平成22年11月19日	大字鷺木423番4	個人住宅	民間開発	4.0	廣瀬	遺跡なし	工事着工
72	確認	下郡遺跡群	平成22年11月24日	下郡南3丁目121番地	事務所	民間開発	9.8	高畠 廣瀬 五十川	遺跡あり	工事着工
73	立会	横尾遺跡	平成22年12月1日	大字横尾D-19⑨	個人住宅	民間開発	2.5	羽田野	遺跡なし	工事着工
74	立会	丹生川坂ノ市条里跡	平成22年12月1日	坂ノ市南4丁目290番	個人住宅	民間開発	3.8	廣瀬	遺跡なし	工事着工
75	立会	猪野遺跡	平成22年12月6日	大字猪野字松原871番2	個人住宅	民間開発	3.8	高畠 廣瀬	遺跡あり	工事着工
76	立会	猪俣寺遺跡	平成22年12月7日	大字森町554-1、2、3	店舗	民間開発	17.5	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
77	立会	丹生川坂ノ市条里跡	平成22年12月14日	坂ノ市西2丁目148番3	個人住宅	民間開発	1.8	佐藤	遺跡なし	工事着工
78	立会	中世大友府内町跡	平成22年11月10日	大字大分字中前田4705-2他	広さ格	民間開発	4.0	高畠	その他	工事着工
79	確認	羽田遺跡	平成22年12月14日	大字羽田字岩屋431	集合住宅	民間開発	14.5	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
80	確認	上野遺跡群	平成22年12月14日	上野北2丁目695番1	宅地造成 雑売住宅	民間開発	10.2	塩地 羽田野	遺跡なし	工事着工
81	立会	中世大友府内町跡	平成22年12月18日	長成町3丁目3796-7他	セーリングビル	民間開発	300.0	高畠	その他	工事着工
82	立会	玉沢地区条里跡	平成22年12月17日	大字上宗方字七反田1141-1他	店舗	民間開発	16.8	高畠 廣瀬	その他	工事着工
83	立会	下郡遺跡群	平成22年12月20日～平成23年1月18日	下郡南5丁目160番	宅地造成	民間開発	55.0	高畠 廣瀬	その他	工事着工
84	確認	野田遺跡	平成22年12月22日	大字野田字原1027番10他	道路建設	民間開発	44.2	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
85	立会	古国府遺跡群	平成22年12月24日	大字羽屋字八幡前	個人住宅	民間開発	4.3	廣瀬	遺跡なし	工事着工
86	立会	中世大友府内町跡	平成22年12月27日	元町5番54号	個人住宅	民間開発	2.1	高畠 廣瀬	その他	工事着工
87	立会	横尾遺跡	平成23年1月7日	大字横尾C-20③-2	個人住宅	民間開発	3.8	廣瀬	遺跡あり	工事着工
88	立会	佐柳遺跡	平成23年1月11日	大字中戸次字志木1090番1	集合住宅	民間開発	8.0	高畠	その他	工事着工
89	確認	勢家遺跡	平成23年1月12日	勢家町1丁目4番24号	集合住宅	民間開発	10.2	高畠 廣瀬	遺跡あり	協議中
90	立会	津守遺跡	平成23年1月26日	大字津守字田端1125-2	個人住宅	民間開発	2.9	佐藤 廣瀬	遺跡なし	工事着工
91	確認	上野遺跡群	平成23年1月28日	上野北1丁目10-15	店舗	民間開発	2.8	高畠	遺跡なし	工事着工
92	確認	鷺木遺跡	平成23年1月31日	大字鷺木字西ノ303番4他	宅地造成	民間開発	33.1	高畠 廣瀬	遺跡あり	協議中
93	立会	石倉原遺跡	平成23年2月3日	大字今市字石倉原1099番3	携帯電話無線基地局	民間開発	6.0	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
94	立会	賀来西遺跡	平成23年2月4日	大字賀来字九反田4082他	事務所建設	民間開発	15.0	廣瀬	その他	工事着工
95	立会	鷺木遺跡	平成23年2月7日・9日	大字鷺木字御堂926他	集合住宅	民間開発	29.6	高畠 廣瀬	遺跡あり	工事着工
96	立会	津守遺跡	平成23年2月6日	大字津守字木ノ上947番2他	個人住宅	民間開発	3.5	高畠	遺跡あり	工事着工
97	確認	鷺木遺跡	平成23年2月8日	大字鷺木字今在木815番地	宅地造成	民間開発	83.2	高畠 廣瀬	遺跡あり	協議中
98	立会	横尾遺跡	平成23年2月9日	大字横尾B-12③・④	個人住宅	民間開発	4.8	高畠	遺跡なし	協議中
99	立会	米竹遺跡	平成23年2月10日	大字千歳1803-5	個人住宅	民間開発	3.2	高畠	遺跡あり	工事着工
100	立会	久原遺跡	平成23年2月14日	久原中央3丁目203番2	個人住宅	民間開発	3.6	高畠	遺跡なし	工事着工
101	立会	丹生川坂ノ市条里跡	平成23年2月14日	久原南1丁目134番	個人住宅	民間開発	5.0	廣瀬	その他	工事着工
102	立会	羽田遺跡	平成23年2月15日	大字羽田字下812-4	個人住宅	民間開発	4.2	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
103	立会	羽田遺跡	平成23年2月15日	大字羽田字下812-3	個人住宅	民間開発	4.1	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
104	立会	中世大友府内町跡	平成23年2月16日	大字大分字上井東4301-1	養子施設	公共事業	19.0	高畠 廣瀬	その他	工事着工
105	立会	中世大友府内町跡	平成23年2月17日	錦町3丁目434-9	個人住宅	民間開発	3.0	高畠 長 廣瀬	遺跡あり	工事着工
106	立会	佐柳杉下遺跡	平成23年2月17日	大字佐柳字藤部698番3	事務所建設	民間開発	4.2	高畠	遺跡なし	工事着工
107	確認	猪野遺跡	平成23年2月18日	大字猪野字木ノ下339番1他	宅地造成	民間開発	26.5	高畠 廣瀬	遺跡なし	工事着工
108	立会	米竹遺跡	平成23年2月24日	大字千歳字花畑1770番1	個人住宅	民間開発	3.9	高畠 廣瀬	遺跡あり	工事着工
109	立会	丹生川坂ノ市条里跡	平成23年2月28日	坂ノ市西2丁目127	個人住宅	民間開発	4.8	廣瀬	その他	工事着工
110	立会	米竹遺跡	平成23年2月28日	大字千歳字花畑1770番9	個人住宅	民間開発	3.6	高畠	遺跡あり	工事着工
111	立会	丹生川坂ノ市条里跡	平成23年3月1日	坂ノ市西2丁目140-2	グループホーム	民間開発	5.8	廣瀬	遺跡なし	工事着工
112	立会	鷺木遺跡	平成23年3月3日	大字鷺木字猪野向741-5、6	個人住宅	民間開発	高畠 廣瀬		その他	工事着工
113	立会	下郡遺跡群	平成23年3月14日	下郡南2丁目126番1、126番3	個人住宅	民間開発	3.3	高畠	遺跡あり	工事着工
114	立会	羽田遺跡	平成23年3月15日	大字羽田字下812番10	個人住宅	民間開発	3.4	高畠	遺跡なし	工事着工
115	確認	猪野遺跡	平成23年3月18日	大字猪野字東角363番1、2、3	宅地造成	民間開発	29.8			

件 52%と全体の半数を、横尾区画整理地区を含んだ、中小規模の民間開発も多い鶴崎地区（地域 E）は 22 件 25%に達し、11 件 13%の坂ノ市地区（地域 G）が続く。その他は植田地区（地域 B）で 6 件、大南地区（地域 C）で 2 件、野津原地区（地域 H）で 1 件となっている。



第2図 平成22年度発掘調査位置図（1/250,000）



第3図 本書で報告する調査の位置図（1/50,000）

中世大友府内町跡第 89 次調査概要

調査面積 911.5 m²

調査期間 10.05.06 ~ 10.06.15

地 域 A

調査担当 長・松浦

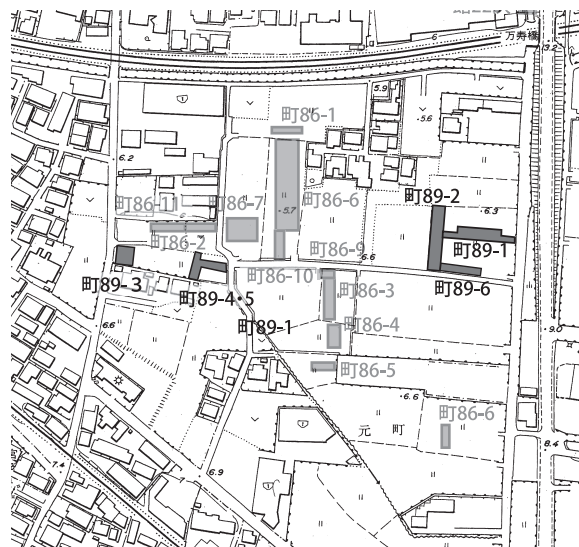
推定御蔵場跡の確認調査の2カ年目として昨年度の町86次に引き続き町89次調査を実施した。今回の調査では、①東外郭の確認②南外郭の確定③西外郭の確定を目的に6地点(町89-1~6)の調査区を設定し調査を行った。2カ年の調査結果として、16世紀後半~末の掘立柱建物跡や火災処理土坑、北・東・南を画する溝や積土状遺構などをはじめ、15世紀頃~16世紀中頃の多様な遺構を検出した。以下では、第7図を元に、昨年度の町86次調査及び周辺の調査事例を含めて推定御蔵場跡周辺の遺構変遷を述べる(第1段階~3段階の様相は第7図参照)。

第4段階：(16世紀後半 厚手の皿C主体の時期) この時期は外郭が明確に整備される時期であり、四方に溝が巡る景観

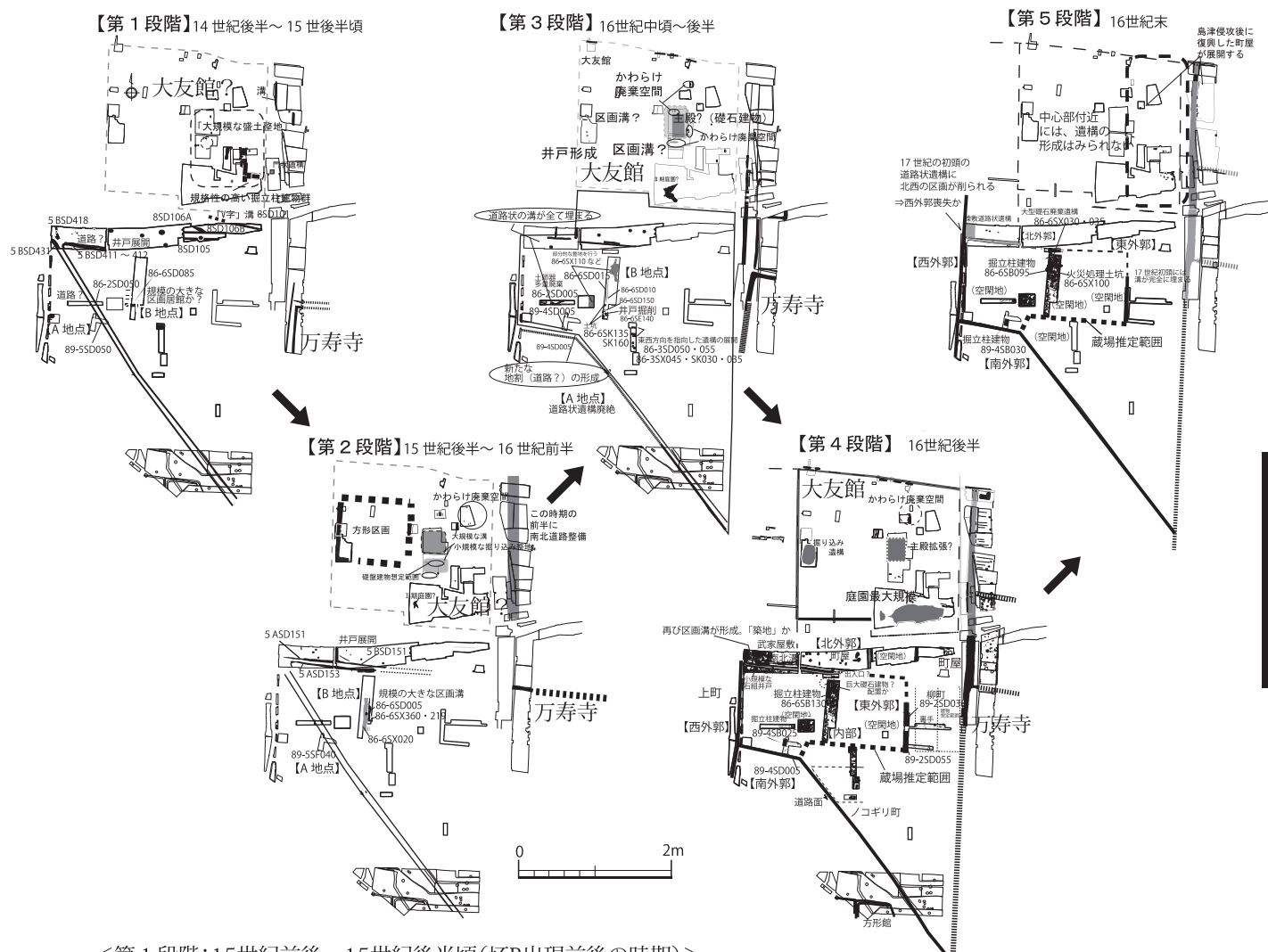
が復元できる。内部には、礎盤石をもつ建物遺構や壁土を用いた建物、掘立柱建物がこの時期に併存している。さらに、大型礎石を廃棄したSX030・035が次段階に形成されることから、この巨大な礎石を使用した遺構が付近に存在した可能性が高い。これらの内部に共通することは、土師器廃棄土坑が確認できない点、日用雑器類(土師質土器鍋や釜など)を廃棄した土坑がない点であり、井戸の規模も比較的小さいという点である。推定御蔵場跡の南側(町86-3~5)のような「町屋」的様相や、武家地の様相とも異なる空間であったと考える。また、瓦の出土も皆無であったことから寺院などの施設とも考えがたく、記録や伝承もない。この段階に四方の外郭が整備され、内部には一定の「空閑地」を挟みながら掘立柱建物や土壁を使用した建物などが展開する。この周囲には町屋的な景観が広がっていたと考えられる。

第5段階：(16世紀末~17世紀初頭 厚手の皿C・塀C主体の時期) 前段階と同様に外郭と考えた溝状遺構に囲まれているが、この段階の中で完全に埋没し上面には複数の土坑が展開する。内部は、火災処理土坑をはじめとして、焼土の入ったピットが多く検出され、前段階の最後に発生した火災後に形成された遺構が町86-6北側で顕著に展開する。また、第4段階の建物の建て替えと考えられる、掘方に焼土を多量に含む同一主軸をもった掘立柱建物(町86-6SB095・町89-4SB030)などが形成される。外郭の維持を含めて第4段階と同様の性格を持つ土地利用が継続していたと考えられる。

以上の調査結果から、第4・5段階では、これまでの中世大友府内町跡の調査で明らかとなっている武家地や町屋、社寺遺構などには類さない性格の遺構群が展開することがわかった。第4・5段階の遺構展開は、東西約205m、南北約85mの長方形の範囲に概ね収まり、南東部(東西約85m、南北約20m)の張り出し部を含む面積約2haの略「L字」状の範囲であると考えられる。この略「L字」状のエリアは、大友館の南に併設され、現状から北・西・南の一部は、1~2条の溝を伴う積土遺構により、東側はやや規模の大きな溝によって区画される。また、一定の「空閑地」と建物を含むこの内部の遺構群の特徴は、これまでの中世大友府内町跡の調査で検出された既存施設の範疇に属さないことが特徴である。こうした所見から、この範囲は大友館に接する公共空間であると理解され、特別な空間として性格付けられる可能性は極めて高い。今後は、この施設の空間構造や建物構造、さらにはいわゆる中世から近世城下町移行期における蔵場としての「場」の成立年代の問題等々を解明していく必要がある。(長直信)



第6図 調査位置図 (1/5,000)



第3章

＜第1段階：15世紀前後～15世紀後半頃(坏B出現前後の時期)＞

・万寿寺南西部分から北西方向に延びる道路側溝と考えられる区画溝が形成される。道路跡か【第7図 A地点(以下、同)】。なお、この区画は、北西の隅にあたる町5A区にて「T」字路を形成し、一方は推定御蔵場跡の北外郭付近へ東西方向に延びる。この東西方向の区画は、16世紀後半(5段階)に至るまで繰り返し踏襲される【C地点】。・推定御蔵場跡中央には、「L」字に曲がると想定される溝町86-6SD085が掘削される。規模やプランからみて居館的な遺構か【B地点】。

＜第2段階：15世紀後半～16世紀初頭(坏B主体の時期)＞

・前段階の溝を踏襲した積土をもつ道路状遺構(町89-5SF040、町5ASD411)が展開【A地点】。・推定御蔵場跡中央では、前段階の溝(町86-6SD085)が埋まり、東側に位置をずらして再び「L」字に屈曲する溝(町86-6SD005)が掘削される。この溝の形成に前後して、坏Bの多量廃棄土坑がみられるこの土師器の多量廃棄土坑の存在などから居館的な性格をもつ遺構が継続して展開した可能性が高い【B地点】。

＜第3段階：16世紀前葉～中葉(坏Bと新たに出現した皿C主体の時期)＞

・万寿寺南西部分から北西に延びる道路の北側部分(町89-5SF040)が廃絶。町89-3・4では、積土をもつ東西溝(町89-3・4SD005)が形成され、新たな区画が形成される。北進していた道路(町89-5SF040)の廃絶に伴って、町89-3・4SD005と並行した西進する道路へと路線が切り替わった可能性が高い。同時に、町86-2を分断していた道路の上面には整地が行われ、溝状遺構(町89-3・4SD005)が形成される。埋没時には、多量の焼土と共に墨書土器を含む皿Cが出土する【A地点】。・中央部には、前段階の遺構を埋め、部分的に整地を行う。また、調査区西側にやや位置をずらして、再び「L」字に屈曲する半町規模となる区画溝(町86-6SD010)が掘削される。これに近接した時期に、同一主軸をもった町86-6SD015・SD150などの小規模な溝が形成されており、町86-6SD010とSD015・150は連続した方形区画となる可能性がある。これらの溝と主軸を同じくする掘立柱建物(町86-6SB090・170)はこの時期の遺構である可能性がある。なお、溝の南東方向には井戸(町86-6SE140)が掘削される【B地点】。

※第3段階は、道路の切り替えや、内部での島状の整地(町86-2SX040・町86-7茶色土・町86-6SX110)、小規模な方形区画(町86-6SD015・150)を形成するなど、前段階まで踏襲されてきた空間の利用形態が大きく変化する。

第7図 推定御蔵場跡周辺の遺構変遷(1/8,500)

中世大友府内町跡第 94 次調査報告

調査面積 69 m²
地 域 A

調査期間 10.08.19～10.09.13
調査担当 松浦

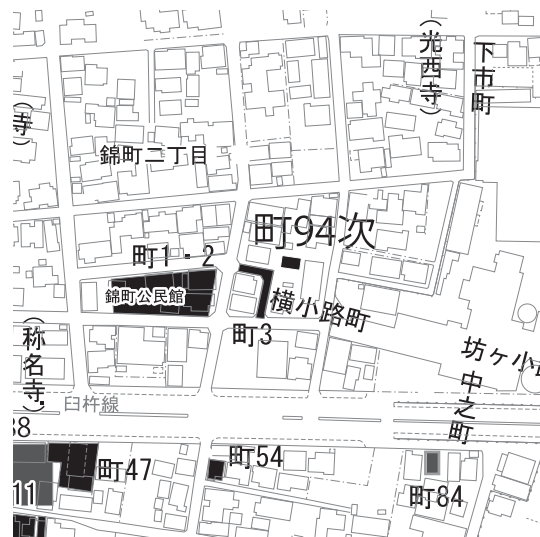
1. 調査に至る経緯

調査地点は、大分市錦町3丁目に所在し、中世大友府内町における横小路町に位置づけられる。既往の調査と明治時代の地割りラインより、大友館北辺を通る東西方向の街路とそれに沿う町屋の存在が推定される地点である。当該地において、個人住宅の建設工事が計画された。遺構に影響を与えない内容ではあるが、中世大友府内町跡の町割復原案を検証できる地点であるため、施工主の承諾を得て確認調査を実施する事とした。

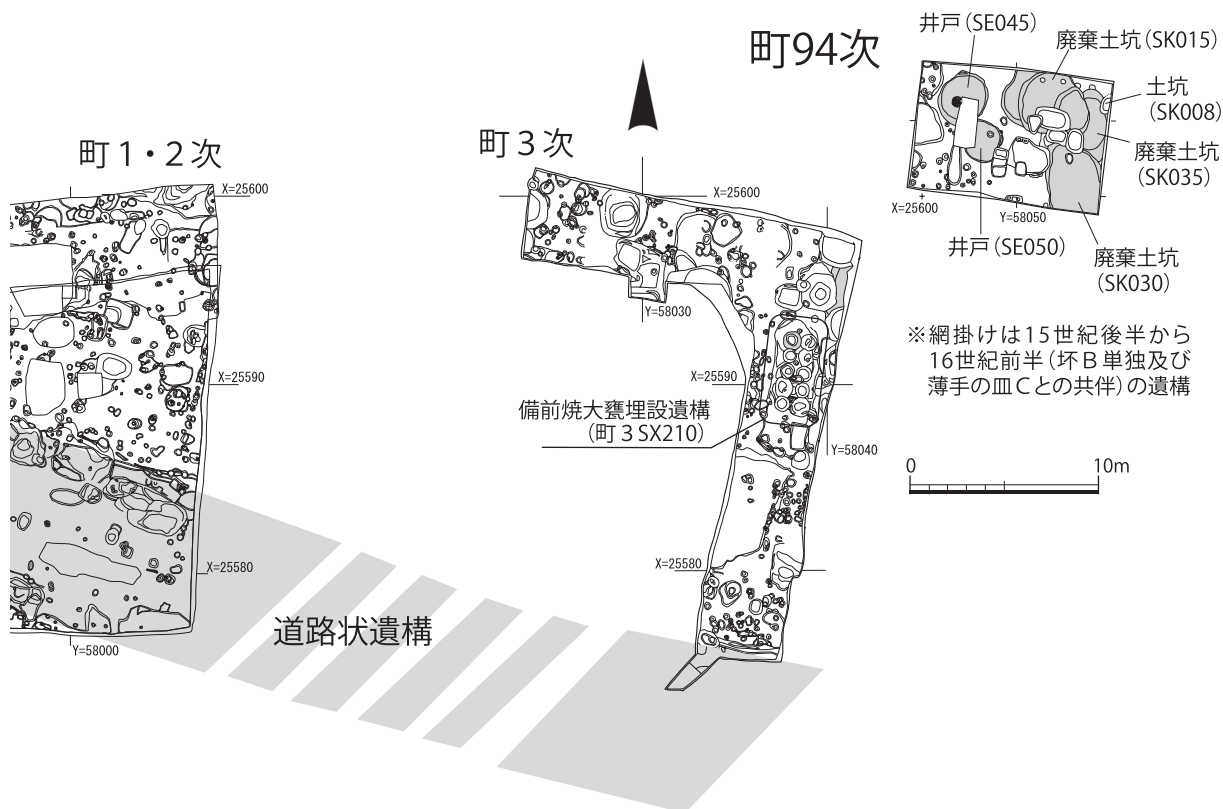
2. 調査概要

現在の大大分市錦町周辺は府内復原想定図による横小路町にあたり、町屋が展開していたとされる。町1～3次調査においては、復原想定図を検証する形で道路面とともに横小路町での町屋跡を確認している。特に町3次調査においては、16世紀後半の備前焼大甕埋設遺構（町3SX210）や16世紀後半から末の井戸跡などを検出し、中国や東南アジア産の貿易陶磁器が多種多量に出土するなど、府内の中でも華やかな様相をみせている。

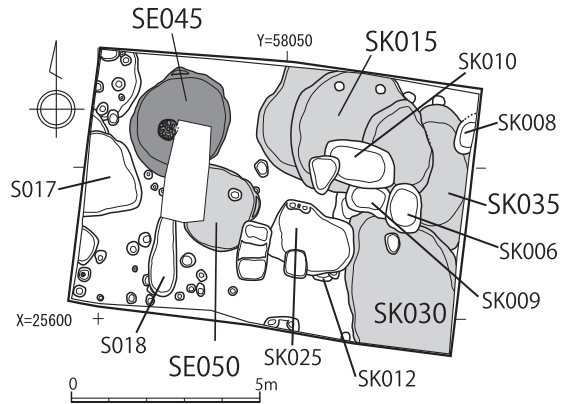
調査地は町3次調査区の北東側、大甕埋設遺構（町3SX210）を有する施設の裏手にあたる部分である。調査は、16世紀後半から末における横小路町の町屋の様相についての解明を主目的として行った。



第8図 調査位置図 (1/5,000)



第9図 町94次周辺・遺構全体図 (1/400) ※座標は旧日本測地系



第10図 全体遺構図 (1/200)

を呈する井戸枠の掘方があり、井戸枠内の下部には拳大の礫が見られる。また土層観察では井戸枠に沿って木材が腐食したような痕跡があった。出土遺物は第13図1～8で、土師器の坏Bと皿Cが共伴して出土しているほか、中国産と思われる焼締陶器や備前焼の播鉢などが出土している。

SE050 (第11図) 調査区西寄りで検出した井戸跡である。不整円形を呈し、直径約2.12 m、深さ1.1 m以上を測る。未完掘であるため、井戸枠の有無は不明である。出土遺物は第13図9～14で、土師器の坏Aや坏Bのほか、白磁などが出土している。

SK010 (第12図) 調査区東寄りで検出した廃棄土坑で、SK015を切る。不整長方形を呈し、長辺約1.90 m、短辺約1.20 m、深さ約0.33 mを測る。出土遺物は第13図15～22で、土師器皿Cのほか、緑釉陶器や獣骨片などが出土している。

SK015 (第12図) 調査区東寄りで検出した廃棄土坑で、SK035を切り、SK010に切られる。不整円形を呈し、一部が調査区外にのびる。直径約3.58 m、深さ約0.84 mを測る。埋土は大きく褐色粘土と暗褐色粘土で、下層の2・5層を暗褐色土として取り上げている。出土遺物は第13図23～42で、うち40～42が暗褐色土出土である。土師器の坏Bと薄手の皿Cが共伴して出土しているほか、瓦器、緑釉陶器、白磁、青磁、銅製の鐙、獣骨片などが出土している。

SK025 (第12図) 調査区東寄りで検出した廃棄土坑で、SK012・030を切る。不整楕円形を呈し、長径約2.26 m、短径約1.62 m、深さ約0.35 mを測る。出土遺物は第13図43～47で、土師器皿Cのほか、白磁や青花などが出土している。

SK030 (第12図) 調査区南東隅で検出した廃棄土坑で、SK025に切られ、SK035を切る。不整楕円形を呈し、一部調査区外にのびる。長径3.5 m以上、短径約2.96 m、深さ約0.50 mを測る。埋土中の下層において多量の礫を確認しており、その出土状況から南側から廃棄されたものと推測される。出土遺物は第14図1～31で、そのうち23～31が礫中からの出土である。土師器の坏Bと皿C、大内ⅣA式が共伴して出土しているが、礫中からは坏Bのみの出土で、皿Cは出土していないなど、上層と下層の礫中での時期差が認められる。そのほか青花や青磁、備前焼の播鉢、平瓦などが出土している。外面青磁碗は包含層からの混入品である。

SK035 (第12図) 調査区東端で検出した廃棄土坑で、SK015・030に切られる。不整楕円形を呈し、一部調査区外にのびる。長径約3.82 m、短径1.0 m以上、深さ約0.92 mを測る。出土遺物は第14図32～45及び第15図1～5で、土師器坏Bのほか、白磁や青磁、青花などが出土している。

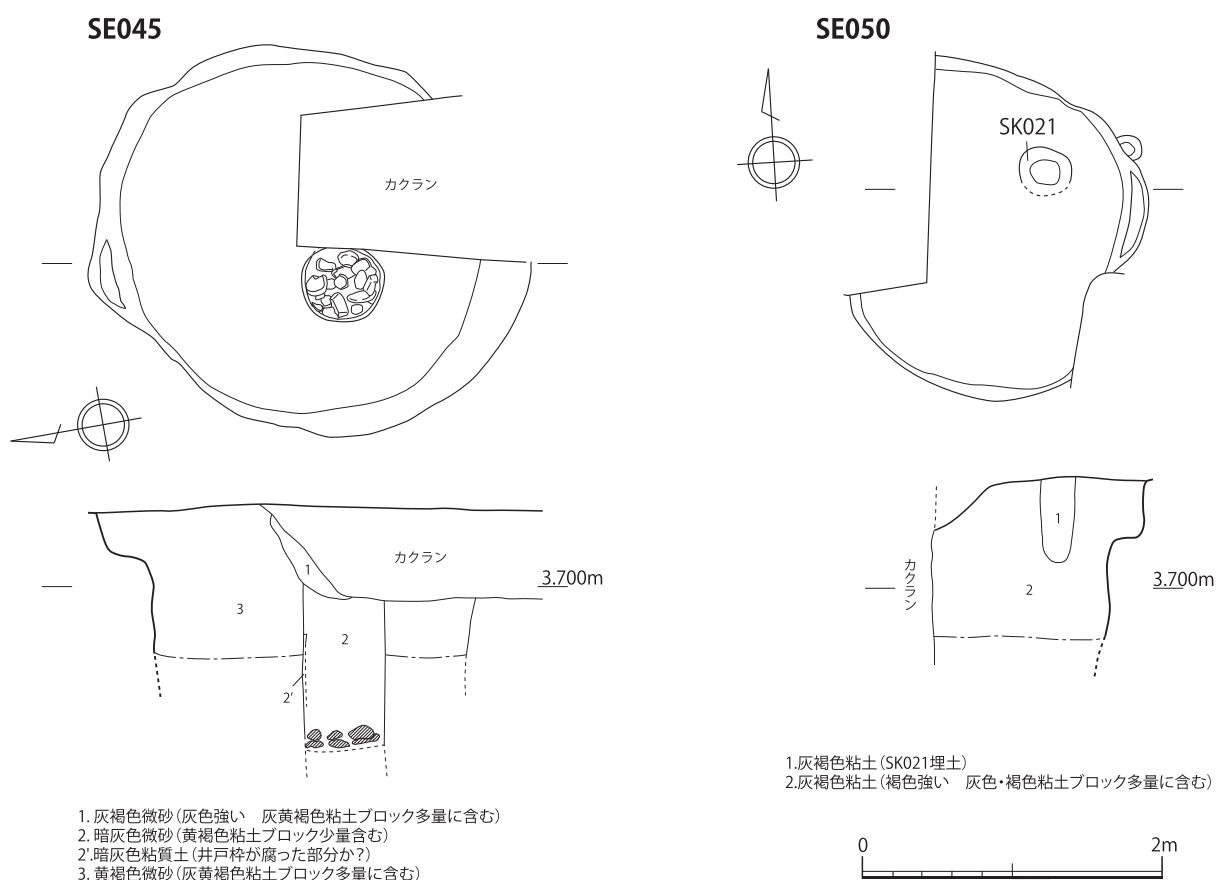
SK006 (第10図) 調査区東寄りで検出した土坑で、SK015・030・035を切る。不整楕円形を呈し、長径約1.30 m、短径約0.92 m、深さ約0.42 mを測る。出土遺物は第15図6～9で、土師器皿Cのほか、青磁などが出土している。

基本層序は、上から造成土、暗褐色粘質土の包含層、明赤褐色微砂となっており、明赤褐色微砂の上面で遺構を検出した。

3. 検出した遺構及び出土遺物

検出した遺構は、主に井戸跡、廃棄土坑がある。基本的に遺構は完掘しているが、施工主との協議において現地表面から2 m以上の掘削は行わないとしたことから、一部の遺構については完掘していない。

SE045 (第11図) 調査区西寄りで検出した井戸跡である。不整円形を呈し、直径約2.92 m、深さ1.6 m以上を測る。未完掘であるが、中央には直径約0.5 mの円形



第 11 図 井戸跡実測図 (1/40)

SK008 (第 10 図) 調査区東端で検出した土坑で、SK035 を切る。不整楕円形を呈し、長径約 1.10 m、短径 0.5 m 以上、深さ約 0.40 m を測る。出土遺物は第 15 図 10～14 で、土師器皿 C や青花皿 C 群などが出土しているが、なかでも特筆すべきものとして、産地不明 (中国産か) の黒釉陶器の完形品がある (第 15 図 12)。この黒釉陶器は町 5 次調査 (大分県教育庁埋蔵文化財センター 2005『豊後府内 1』) 等で出土し、落し蓋と報告されているものと同種のものであるが、今回出土した黒釉陶器には口縁部にススが付着しており、灯明皿として使用されていたと思われる。

SK009 (第 10 図) 調査区東寄りで検出した土坑で、SK010 に切られ、SK015 を切る。出土遺物は第 15 図 15 で、土師質土器の燭台などが出土している。

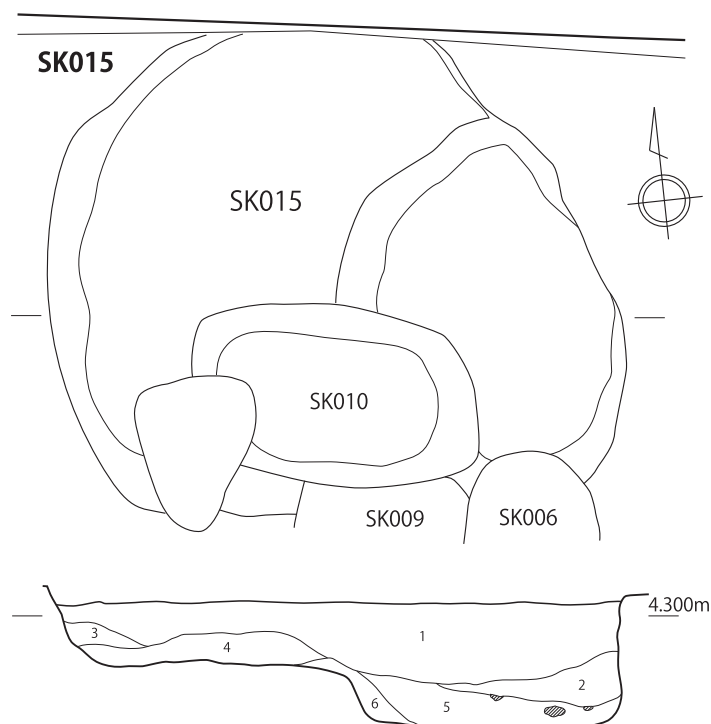
SK012 (第 10 図) 調査区東寄りで検出した土坑で、SK025 に切られる。不整円形を呈し、直径約 0.62 m、深さ約 0.30 m を測る。出土遺物は第 15 図 16・17 で、土師器坏 A や弥生土器高坏などが出土している。

S017・018 (第 10 図) 調査区西端・南西寄りにある攪乱である。出土した中世遺物は第 15 図 18～20 の土師器の大内系や坏 A、皿 C などである。

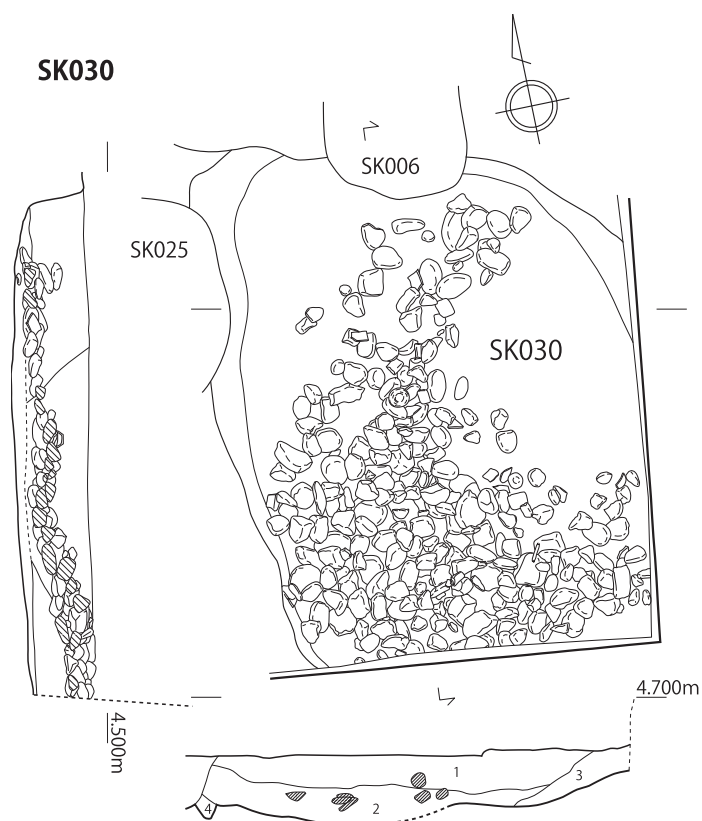
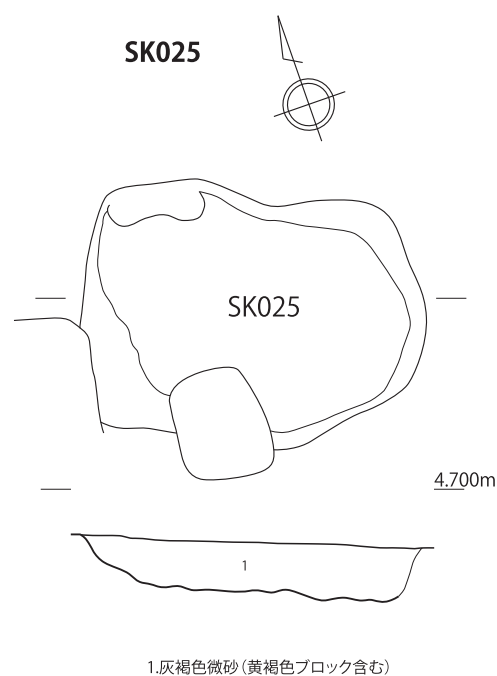
包含層 (暗褐色粘質土) 寛永通宝などの近世遺物が出土しており、近世以降の堆積である。中世遺物としては、第 15 図 21～29 の土師器の坏 B や皿 C、備前焼の播鉢などが出土している。

4. まとめ

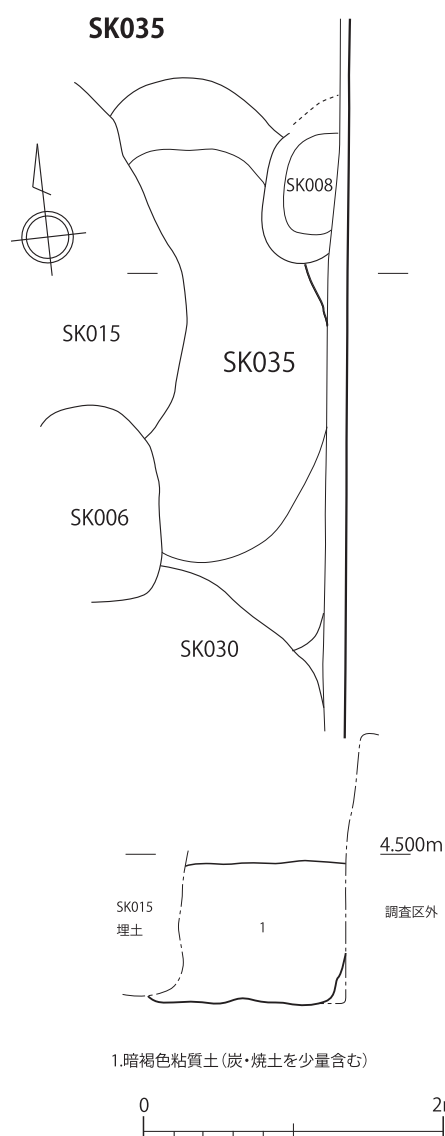
今回の調査では主に井戸跡と廃棄土坑を確認した。井戸跡は調査区西側でのみ検出しており、これらの井戸跡からは、坏 B のみが出土するものと坏 B と皿 C が共伴して出土するものを確認しているが、16 世紀後半～末の時期に相当する厚手の皿 C は確認できない。廃棄土坑は調査区東側でのみ検出しており、不整円形や不整楕円形などを呈するものが複数切り合っている状況である。廃棄土坑によって、坏 B のみが出土するもの、坏 B と皿 C が共伴するもの、皿 C のみが出土するものがあり、遺物の出土状況からも各時期を通じて廃棄土坑としての土地



- 1.濃褐色粘土(焼土・炭を中量含む 黄褐色ブロックをわずかに含む)
- 2.暗褐色粘土(焼土・炭をわずかに含む 赤褐色ブロックを多く含む)
- 3.褐灰色シルト(黄褐色ブロックをわずかに含む)
- 4.灰褐色粘質シルト(焼土・炭をわずかに含む)
- 5.暗灰色粘土(焼土・炭をわずかに含む)
- 6.灰黄褐色微砂(炭をわずかに含む)

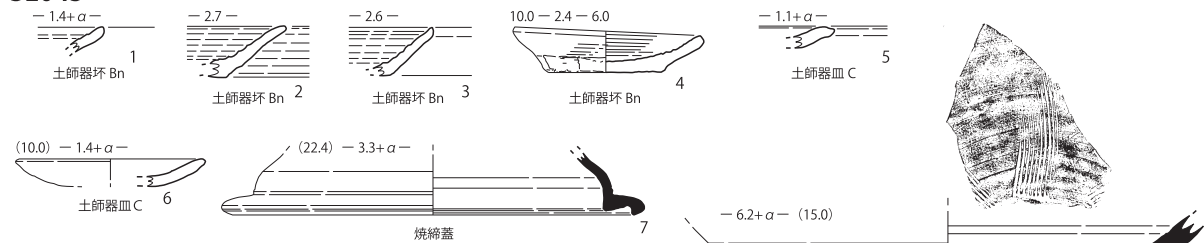


- 1.暗褐色粘土(黄褐色ブロックわずかに含む 焼土・炭を少量含む)
- 2.暗灰色粘質シルト(黄褐色ブロックを少量含む 焼土・炭をわずかに含む)
- 3.灰褐色微砂(黄褐色土ベース?を含む←流入か)
- 4.淡褐色粘土(焼土・炭を少量含む 別遺構か)

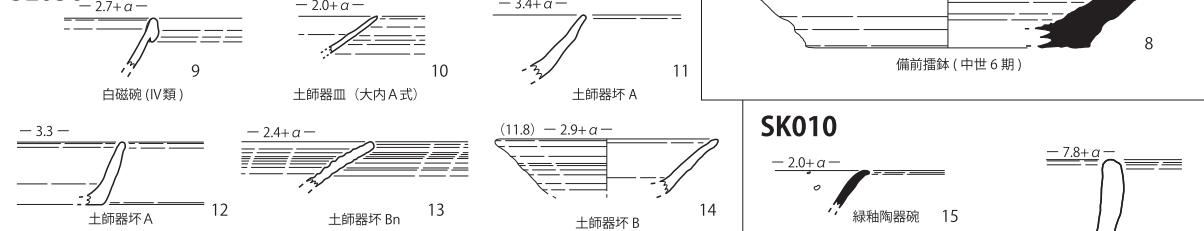


第12図 個別遺構実測図(1/80)

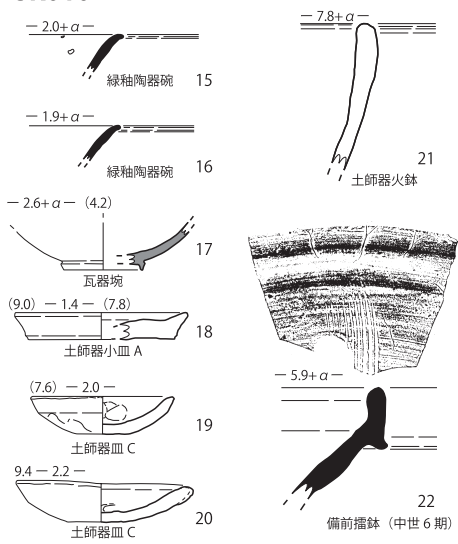
SE045



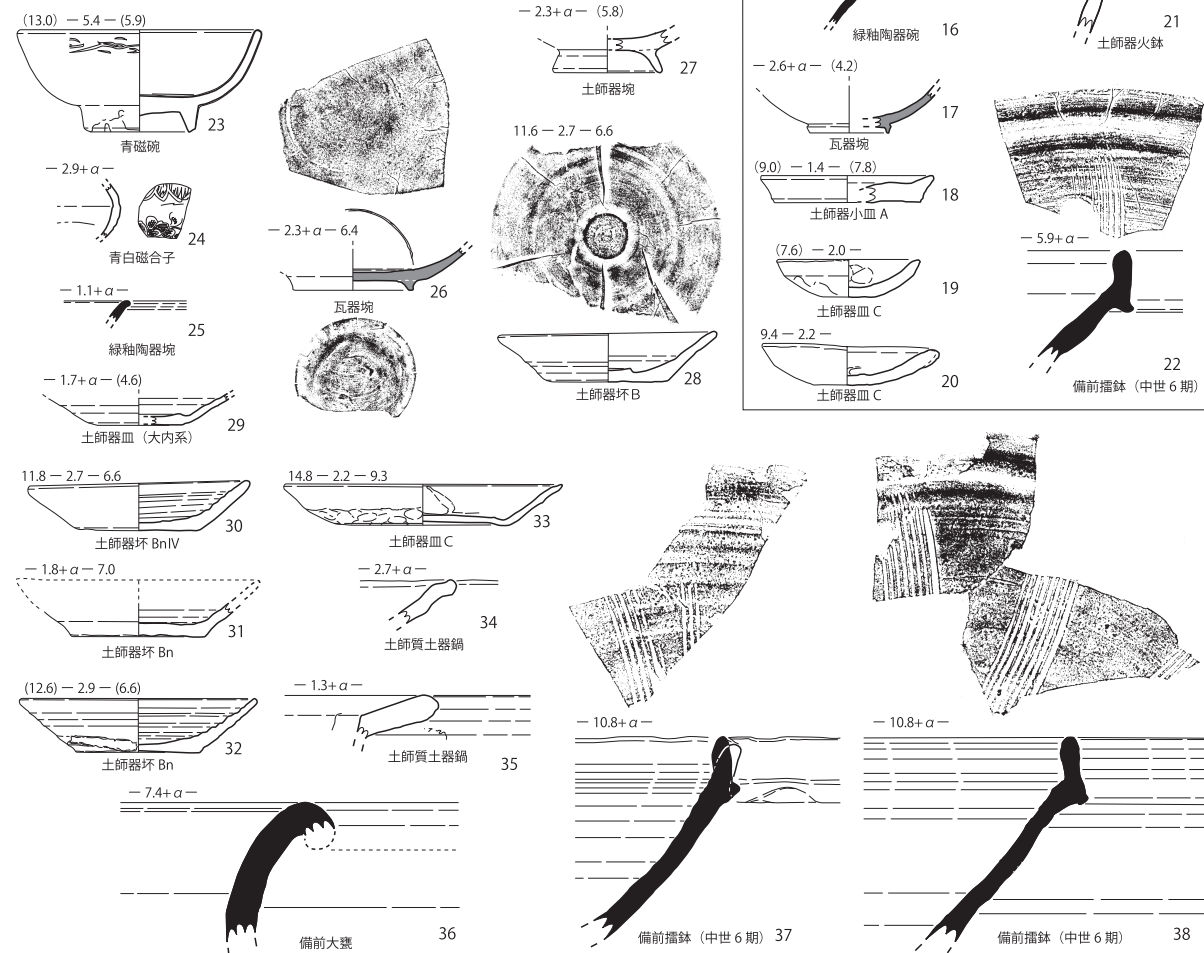
SE050



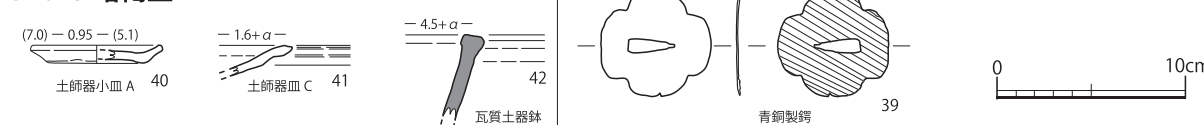
SK010



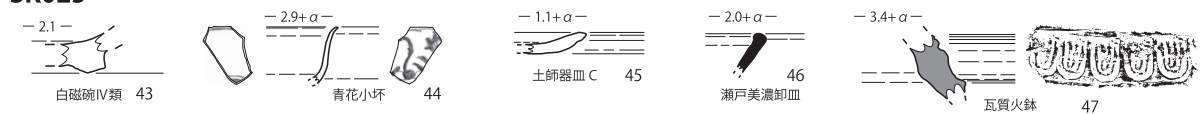
SK015



SK015 暗褐土

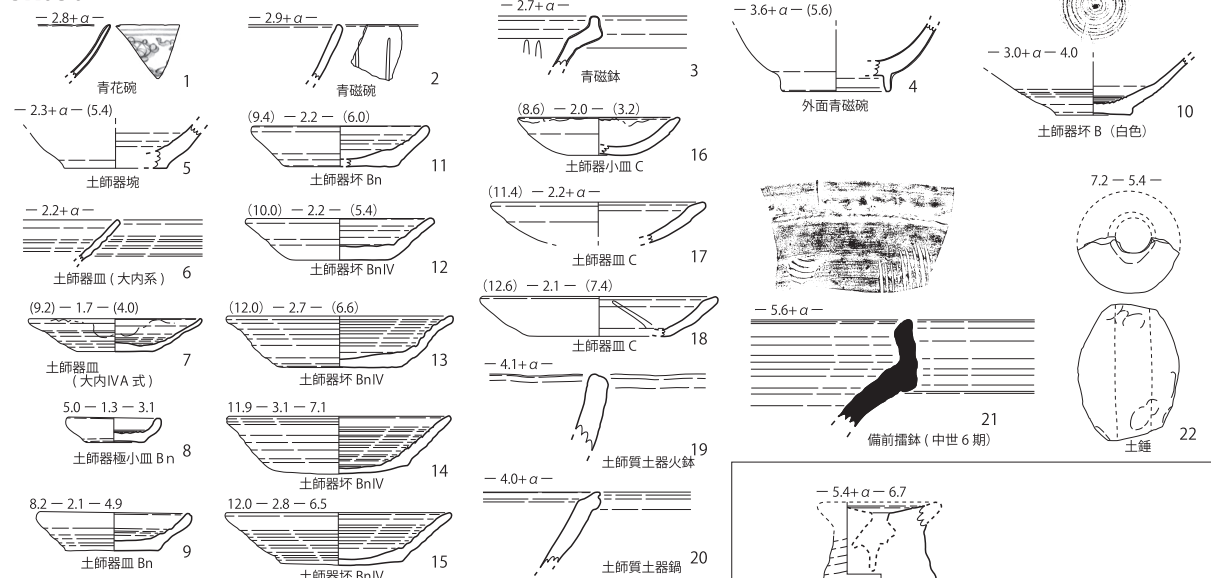


SK025

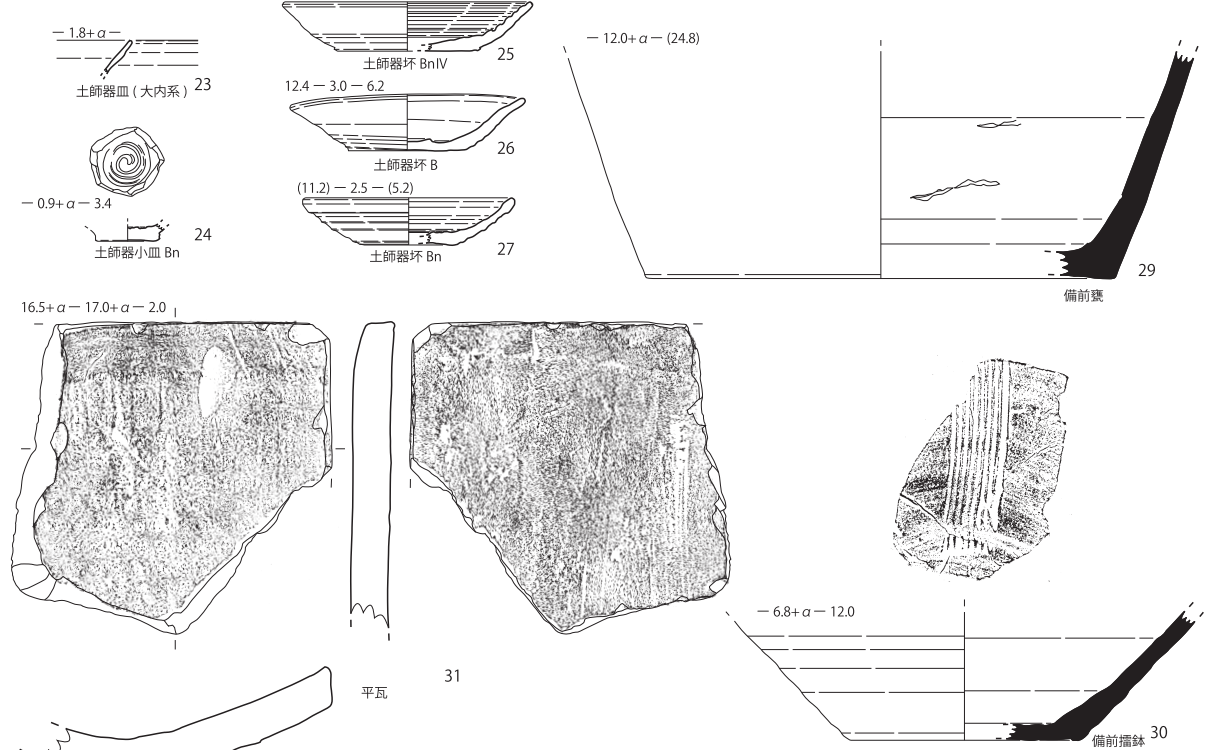


第 13 図 出土遺物実測図① (1/4) ※図面上部の数値は口径-器高-底径 (cm) を示す

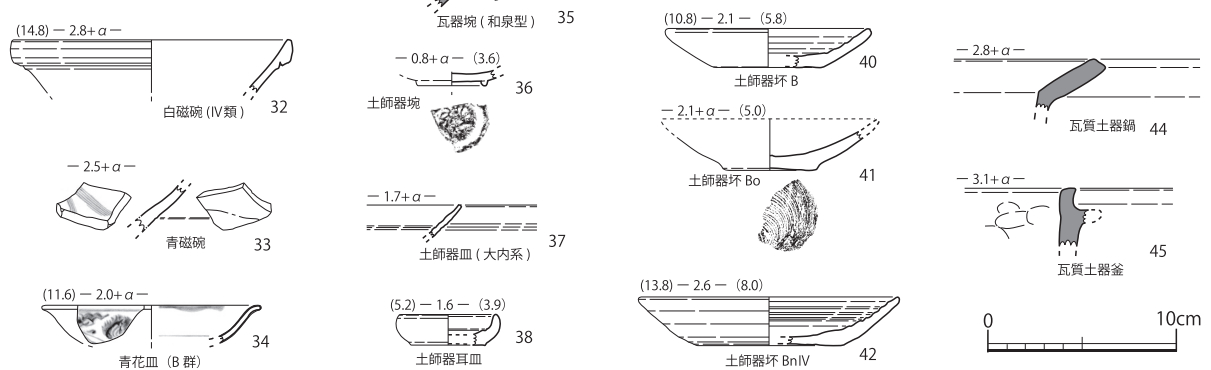
SK030



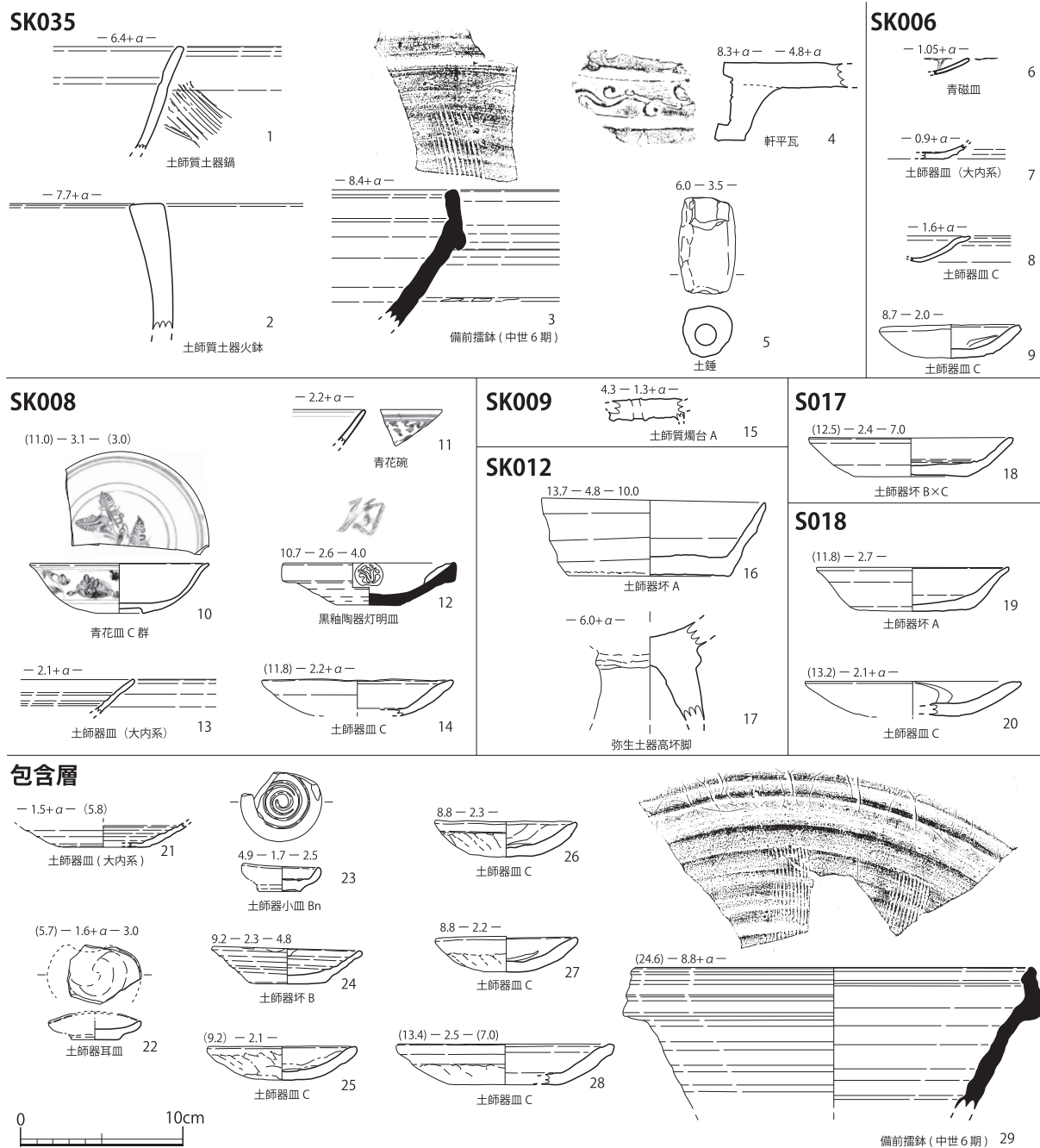
SK030 レキ



SK035



第14図 出土遺物実測図② (1/4)



第 15 図 出土遺物実測図③ (1/4)

利用がなされていたことが伺える。しかしながら、先の井戸跡の状況と同様に、厚手の皿 C はいずれの土坑からも出土しておらず、16 世紀後半～末の時期には空閑地となっていた可能性が高い。

以上の調査成果をまとめると、① 15 世紀末から 16 世紀前半の廃棄土坑及び井戸跡を検出。② 東側に廃棄土坑、西側に井戸跡と遺構の位置が明確に分かれている。③ 第 3 次調査区 SX210 と同時期にあたる 16 世紀後半以降の大型遺構は検出されなかった。このことは、当初予想していた南向きの町屋 (町 3 次調査区) の裏手という状況とは異なる様相である。出土遺物も全体的に少ないばかりか、かわらけが主体で輸入陶磁器が僅少であるなど、町 3 次調査区の様相とは明らかに異なっている。また第 3 次調査区では 15 世紀後半から 16 世紀前半の時期の遺構が少ないことから、この 2 つの調査区では土地利用された時期が異なっていることは明らかである。このことは周辺における土地利用状況の変化が 16 世紀中頃におこったことを示していると考えられ、町割りの変化といった可能性が示唆される。そのため今後周辺での調査が行われる際には、詳細な検討が必要と思われる。(松浦憲治)

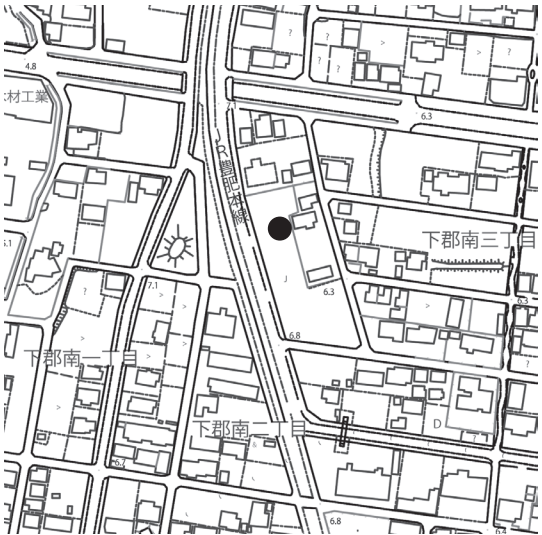
下郡遺跡群第 147 次調査報告

調査面積 9.8 m²
地 域 A

調査期間 10.11.24
調査担当 高 島・五十川・廣瀬

今回の調査は、事務所建設に伴い実施した確認調査である。予定される建物の基礎深度が、区画整理の際の盛土内に収まるとみられたことから、浄化槽施行部分に限定して調査を行った。

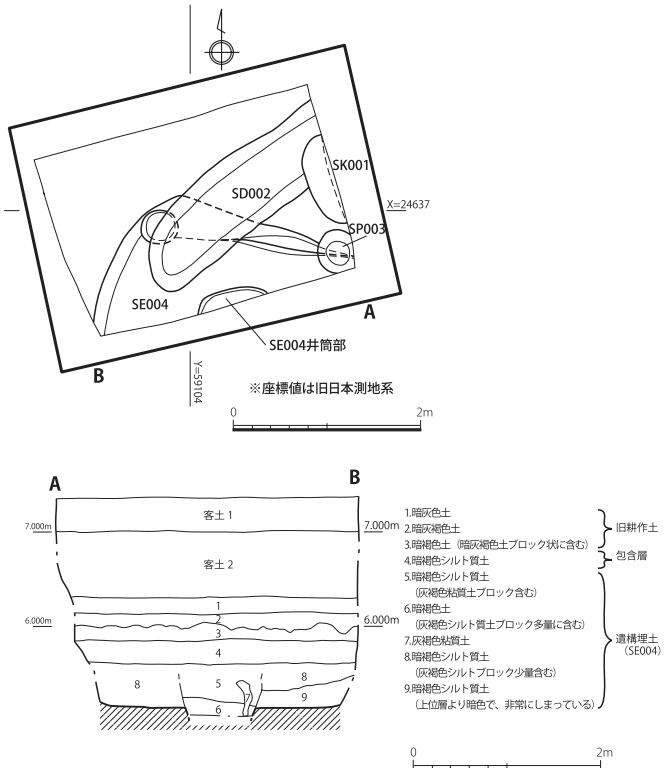
検出された遺構は、近世の溝（SD002）及び土坑（SK001）、時期不明のピット（SP003）、および古代の井戸跡（SE004）である。井戸跡 SE004 は、一部が検出されたのみであるが、隅丸方形と考えられる平面プランである。井筒部は安定地盤の下層にあるとみられる黄灰色シルト・粘質土をブロック状に多く含む土で埋積しており明確に区別できる。ウラゴメに相当する埋土から 8 世紀後半に位置づけられる須恵器坏が出土した。完掘していないため遺構の時期比定に問題もあるが、平面プランからみても古代の井戸跡である可能性が高いと思われる。この他の出土遺物は大半が弥生後期とみられる土器であり、周辺に当該期の遺構が存在したことを示している。147 次調査区の北側は 95 次調査区、南側は 96 次調査区であるが、これらでは古代の遺物は一定量出土しているものの遺構については、95 次調査区で当該期の可能性がある土坑が検出されているのみである。しかし、95 次調査区の北西側に隣接する 99 次調査区では連続土坑を伴う南北方向の道路状遺構が検出されており、本調査地点西側を通っていると推定されている。従って、今回検出された井戸跡は道路状遺構と関連をもちながら展開している古代の遺構群が近隣に展開していることを示唆するものといえる。（高島豊）



第 16 図 調査位置図 (1/5,000)



第 17 図 周辺調査位置図 (1/1,000)



第 18 図 平面図及び南壁土層図 (1/80)

猪野遺跡第4次調査報告

調査面積 115 m²

調査期間 10.05.18

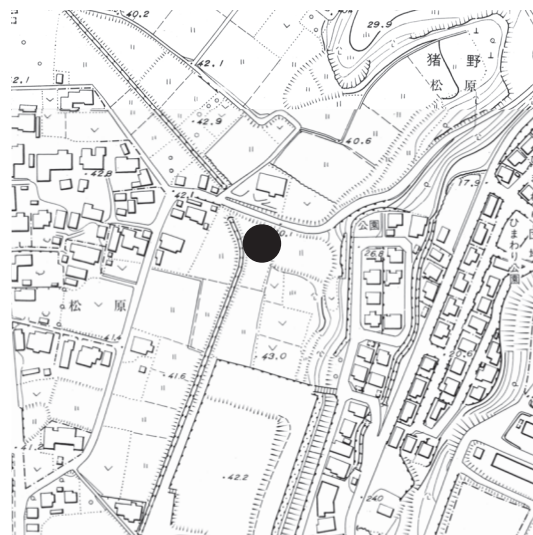
地 域 E

調査担当 佐藤道文・廣瀬

調査地は猪野遺跡の最北地点にあたり、南には弥生・古代・中世の3時期に特筆すべき遺構が発見されている猪野新土井遺跡が位置する。

宅地造成の計画に伴い平成22年3月25日に確認調査を実施し複数のピットが検出されている。今回、大部分は盛土保存がなされたが、通路口として掘削される地点について発掘調査を行った。

調査の結果、北側においてピット群が20基程集中するものの、中央～南側にかけて遺構は皆無に近い状況であった。ピット群からは少数の遺物が出土しており、その殆どが土器破片であるが、中には弥生後期に位置づけられる甕破片が認められ、ピット群は当該期に比定される可能性が高い。(佐藤道文)



第19図 位置図 (1/5,000)



第21図 完掘状況写真 (北から)



第22図 調査区全景 (北西から)



第20図 遺構配置図 (1/80)

葛木遺跡第6次調査報告

調査面積 188.1 m²

調査期間 11.02.23 ~ 11.03.31

地 域 E

調査担当 五十川・長・高島

1. 調査に至る経緯・立地と環境・調査概要

葛木第6次調査は、大分市大字葛木に所在し、宅地造成及び貯水槽設置に伴って行われた。2011年2月23日に貯水槽設置部分を対象とした1区を、3月25日～28日及び3月31日に宅地造成にともなう要壁部分を2区として本調査を実施した。葛木遺跡は、鶴崎台地上に位置する弥生時代を中心とする遺跡である。調査地点は、鶴崎台地南東側の丘陵突端部付近にあたる。

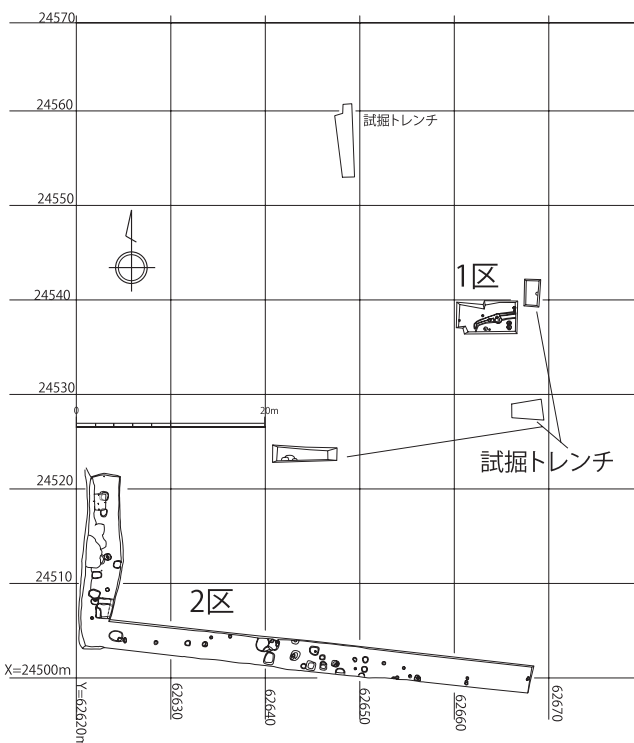
2. 調査概要

調査の結果、1区では、竪穴建物跡を1棟検出した他、2区では、弥生時代の貯蔵穴の可能性ある円形遺構や、7世紀後半頃的大型円形遺構を検出した。なお、これらの遺構は、全て黒褐色系の地山より掘り込まれるが、埋土も黒色土系であることから平面での両者の分別が困難を極め、この面での遺構検出が期間的にも物理的にも困難であったことから、黄色土系のさらに下層の地山面までを機械掘削により掘り下げた後に遺構の検出・掘り下げをおこなった（第30図参照）。

3. 1区の調査

①主要遺構

SH005(第25図) 調査区南側で検出された。東西4.5m、南北2.0m以上、検出面からの最大深は、0.4mである。床面は、地山ブロックをふくむ硬くしまった茶褐色土が0.1m堆積しており、貼床と考えられる。なお、遺構の北端で貼床構築時に一部を削平される状態で、遺構プランにそって掘削された溝（幅0.4m、深さ0.2m程）を確認した。貼床プランにそって確認されることから、貼床以前の竪穴建物に付随する壁溝と考えられる。

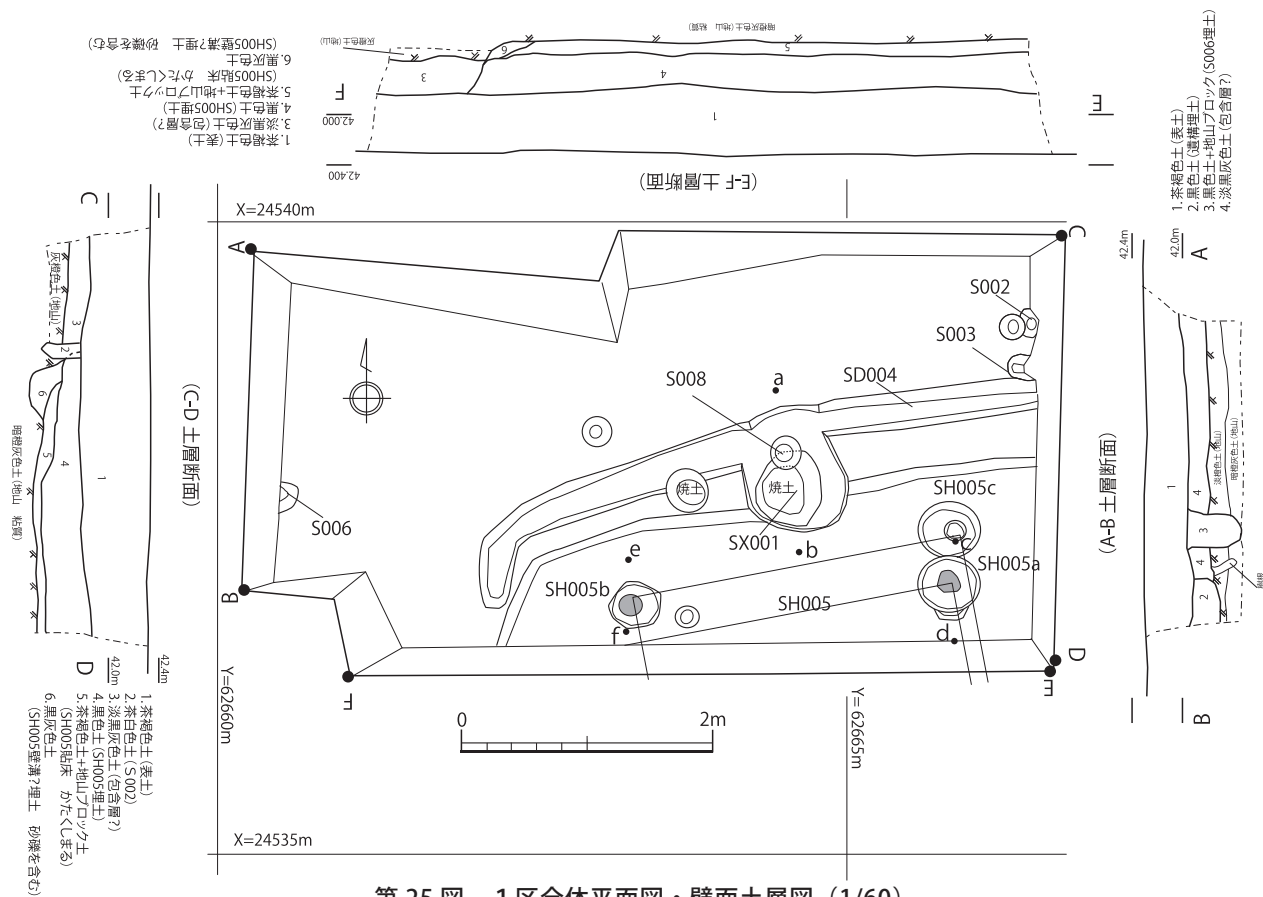


第24図 調査区平面図 (1/800)

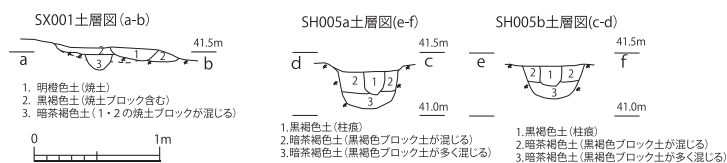


第23図 位置図 (1/5,000)

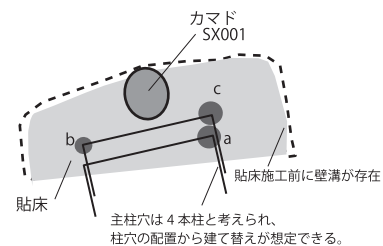
内部施設としては、主柱穴・焼土堆積土坑が検出されたが、全て貼床上から掘り込まれている。主柱穴は、3基（SH005 a～c）検出された。a・bは、それぞれ柱痕直径0.15m、掘方直径0.4～0.5mである。cはaに切られて確認されたが、柱痕の確認は行っていない。完掘後の遺構配置から、bとcがセットとなる可能性が高い。aは建て替え時の主柱穴か。焼土堆積土坑はSX001とした長軸1.0m、短軸0.8mの楕円形のプラン、深さ0.06mの浅い窪みで、炭や焼土ブロックを多量に含む土が堆積する。これに切り込むようにガチガチに硬化した焼土ブロックが直径0.5mのプラン中に堆積している。土坑床面中央には直径0.25m、深さ0.1m程のピットを検出した。上述したように、本来の遺構面から0.3m程下で検出しているため、遺構の上部構造は不明だが、SH005とした竪穴建物の北側中央で検出されること、7世紀前後の遺物が出土することから、カマド



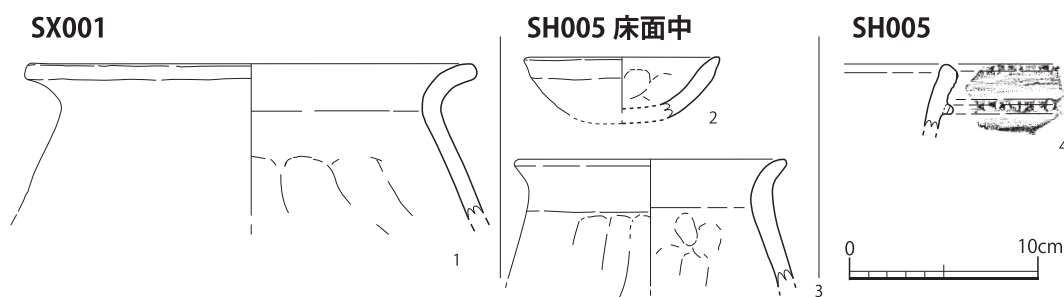
第25図 1区全体平面図・壁面土層図 (1/60)



第26図 土層図 (1/60)



第27図 SH005 復原模式図

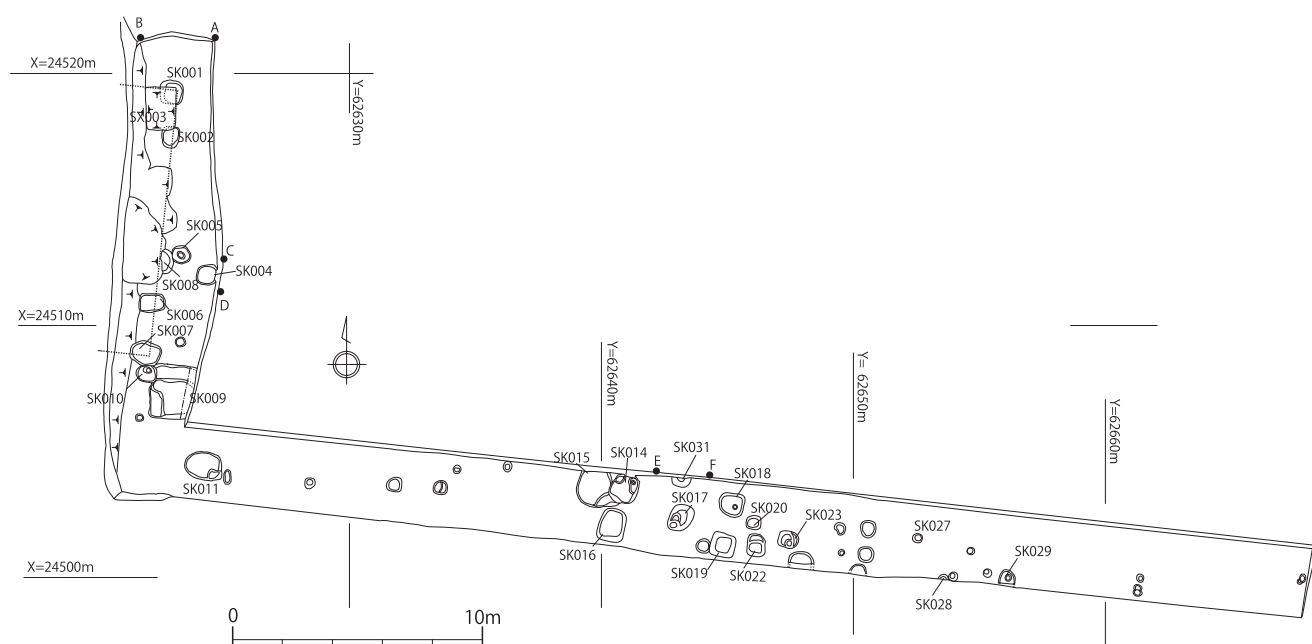


第28図 1区出土遺物実測図 (1/4)

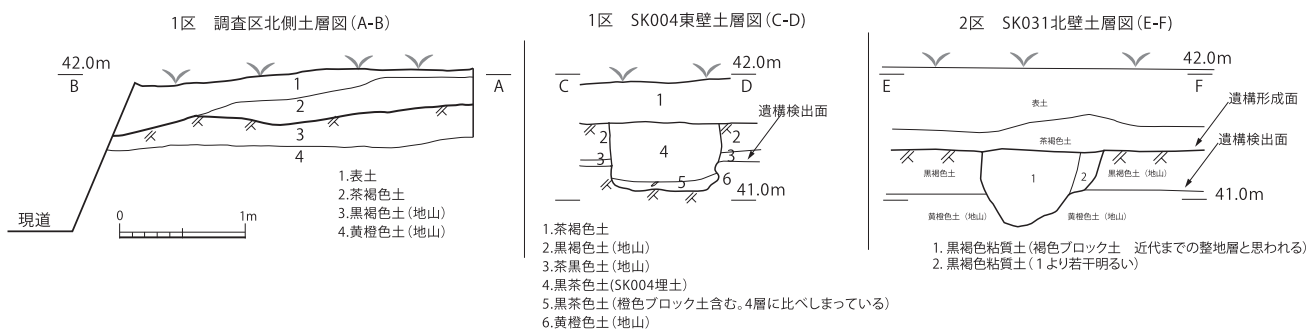
の可能性が高い。硬化した焼土ブロックとともに、土師器甕片が出土した。SH005の埋土からの遺物は極めて少ないが、床面から厚手の土師器甕、埋土中からは下城式甕とともに、土師器の甕が出土した。結果として、当遺構は、床面の周囲に壁溝を巡らす時期と、これらの溝埋め、遺構全体に貼床を敷く時期とに分かれるが出土遺物から、7世紀代に埋没したと考えられる。

②出土遺物 (第28図)

1は土師器甕。ナデ肩となり、内面は縦方向の板ナデ状の調整が施される。口縁部から体部まで均一の厚みをもつ。2は土師器甕。口縁端部に強いナデを施す厚手作りの製品である。京都系土師器ではない。3は土師器甕。1よりもナデ肩となる。外面縦方向の工具ナデが確認できるが調整は不明瞭である。4は下城式の甕の口縁部片。突帯及び口縁端部に刻目を施す。



第29図 2区全体遺構図(1/300)



第30図 土層図(1/60)

4. 2区の調査

①主要遺構(第31図)

以下では、L字形の調査区の南北トレンチ部分と、東西トレンチ部分に分けて記述する。

・南北トレンチ部分

SK001 調査区中央で検出。南西部が攪乱により削平されるが0.95 m四方の隅丸方形に復元され、深さ0.25 mである。

SK002 調査区中央で検出。北端が攪乱により削平されるが長軸0.85 m、短軸0.7 mの隅丸方形に復元され、深さ0.2 mである。磨石が一点出土した。

SK004 調査区中央で検出。0.8 m四方の円形遺構で、深さ0.2 mである。埋土中より土師器甕や坏が出土した。

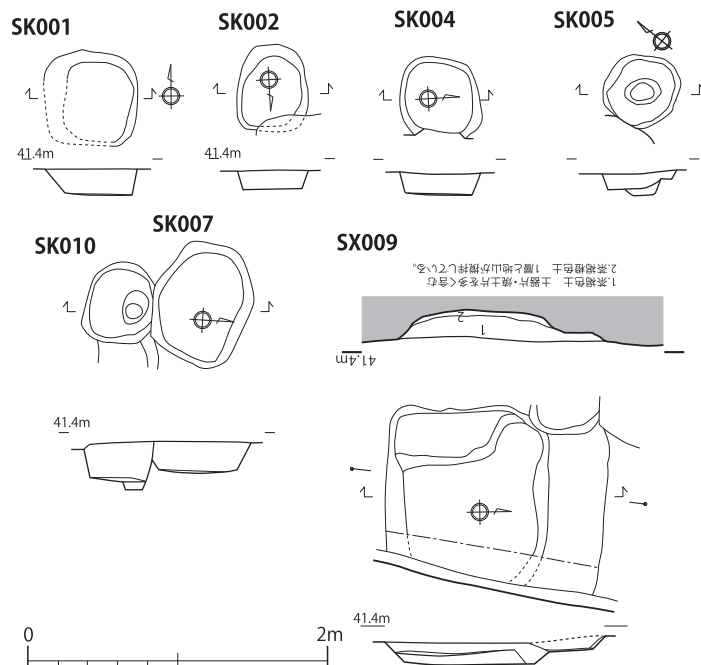
SK005 調査区中央で検出。長軸0.75 m、短軸0.7 mの円形遺構。深さは0.15 mである。床面中央には長軸0.35 m、短軸0.25 m、深さ0.07 mの小ピットを検出した。

SK007 調査区中央で検出。長軸1.2 m、短軸0.95 mの隅丸方形遺構で、深さ0.3 mである。SK010と接するが切り合い関係は明確ではない。埋土中より弥生土器が出土した。

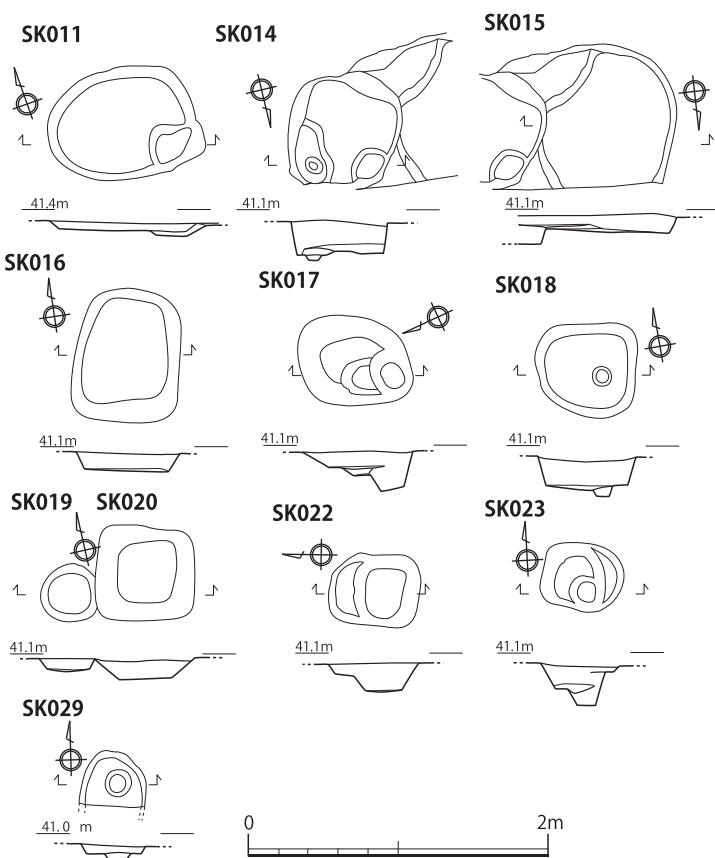
SX009 調査区南側で検出。長軸2.2 m、短軸1.75 m + α 、深さ0.1 ~ 0.22 mの方形プランの遺構。東側が調査区外へ延びるため正確な規模は不明であるが、広いテラスをもった遺構である。埋土は単層で、出土遺物は土器小片のみで時期、性格とも不明である。

SK010 調査区南側で検出。SX009を切る遺構である。長軸0.3 m、短軸0.25 m、深さ0.4 mの円形プランの遺構。床面中央よりやや北に偏った位置に直径0.25 m、深さ0.08 mの小ピットを検出した。

【1区】



【2区】



第31図 個別遺構実測図 (1/50)

・東西トレンチ部分

SK011 調査区西端で検出。長軸 1.5 m、短軸 1.1 m の楕円形プランの遺構で、深さ 0.08 m、東端の窪み部分は深さ 0.1 m となる。

SK014 調査区中央付近で検出。1.1 m 四方の隅丸方形プランの遺構で、深さは 0.3 m である。北側の両端が低く窪んでおりこの地点は深 0.4 m となる。SK015 に切られる遺構である。埋土中より土師器甕や坏の小片が出土した。

SK015 調査区中央付近で検出。長軸 1.5 m、短軸 1.5 m 程度に復元できる円形遺構である。南側にテラスをもち、この地点は深さ 0.1 m、床面までの深さは 0.18 m である。7 世紀第 3 四半期頃の須恵器蓋や土師器甕片など比較的多くの遺物が出土した。SK014 を切って形成される。埋土中よりほぼ完形の須恵器蓋や土師器の把手、甕片などが出土した。

SK016 調査区中央付近で検出。長軸 1.35 m、短軸 1.05 m の隅丸方形の遺構で、深さ 0.17 m を測る。

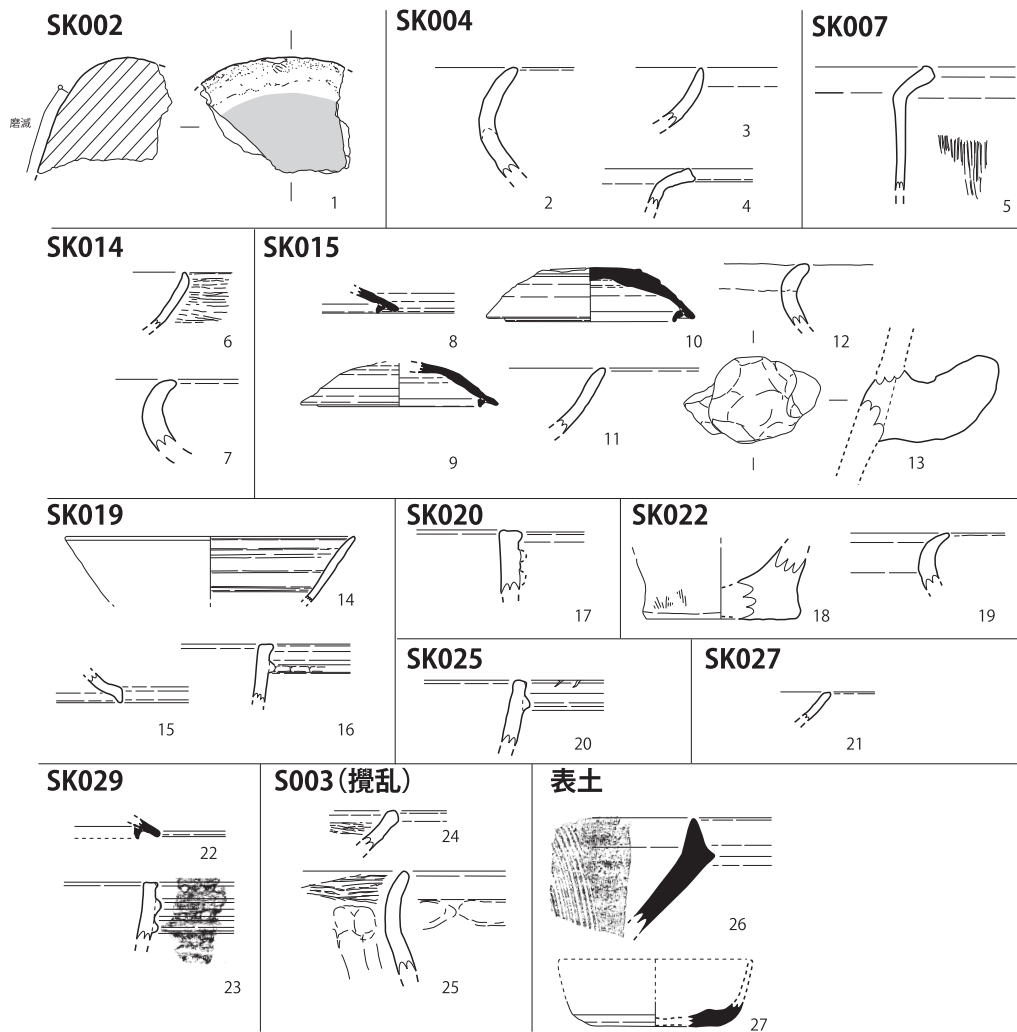
SK017 調査区中央付近で検出。長軸 1.2 m、短軸 0.9 m の楕円形プランの遺構で、西側へ向かって階段状に掘り下がる。最も深いところで深さ 0.4 m を測る。

SK018 調査区中央付近で検出。長軸 1.0 m、短軸 0.95 m の略方形遺構で深さ 0.3 m である。床面中央付近に直径 0.2 m、深さ 0.1 m の小ピットが確認できる。

SK019 調査区中央付近で検出。直径 0.55 m の円形遺構で深さ 0.14 m を測る。SK020 と接するが切り合い関係は不明である。埋土中より弥生土器や土師器坏が出土した。

SK020 調査区中央付近で検出。長軸 1.0 m、短軸 0.95 m、深さ 0.2 m を測る方形遺構。弥生土器甕片が出土。

SK022 調査区中央付近で検出。長軸 0.9 m、短軸 0.7 m の隅丸方形遺構。北側に深さ 0.1 m 程度のテラスをもち、床面



第32図 2区出土遺物実測図(1/4)

の深さは0.3 mである。弥生土器甕の底部片と土師器甕の小片が出土した。

SK023 調査区中央付近で検出。長軸0.8 m、短軸0.7 mの楕円形遺構。2段のテラスをもつが最も深いところで深さ0.4 mである。

SK029 調査区中央付近で検出。長軸0.65 m、短軸0.55 m + α となる遺構。南側が調査区外へ延びるが、直径0.65 mの円形プランの遺構に復元できる。深さは0.08 mを測る。床面では直径0.26 mの小ピットが検出され、この部分は深さ0.15 mと浅い。埋土中より須恵器蓋

小片と弥生土器甕片が出土した。

②出土遺物(第32図)

1は安山岩製の磨石。扁平な円形の石材の中央付近(図面トーン部分)が磨滅している。重量370g。2はナデ肩となる土師器の甕。3は土師器の埴。4は弥生土器甕の口縁部片で、弥生中期～後期の所産か。5は弥生中期後半から後期の東北部九州形の甕の口縁部。6は土師器埴で外面にやや粗い横方向のミガキが施される。7は土師器甕の口縁部片で2と同様、ナデ肩になるタイプの甕。8～10は須恵器蓋。8は口縁部片で口径は不明だが小型の製品か。天井部には回転ヘラケズリを施す。9はかえりが口縁部からややとびでる形状の蓋。天井部には回転ヘラケズリを施す。現存部からは撮みの有無は不明である。10も9同様かえりが口縁部よりとびでる形状の蓋である。天井部外面はヘラ切り離した後粗いナデ調整を行うのみで回転ヘラケズリは施さない。8・9に比べて胎土が粗く成形もやや粗い。天井部には重ね焼きの際に敷いた藁が付着している。11は土師器埴の口縁部片。口縁端部内面はやや面取りした形状となる。12は土師器甕の口縁部。粘土紐接合痕が明瞭に残る。13は甕などに付属する土師器の把手。14は土師器の埴で、内面には横方向の回転ヘラミガキ調整を行う。8世紀後半～9世紀の遺物。15は土師器蓋で口縁端部をやや下方に折り曲げる。16・17は下城式甕の口縁部片。17は二条突帯が剥離している。18は弥生土器甕の底部片。19は土師器甕の口縁部片。7や12と同じタイプのものである。20は下城式甕の口縁部片。21は土師器埴ないし埴の口縁部片。8～9世紀のものか。22は須恵器蓋の口縁端部片。23は下城式甕で口縁端部に二条突帯をもつ。24は土師器皿ないし埴の口縁部片。端部は玉縁状にやや肥厚する。内面にはミガキが確認できる。25は土師器甕で、体部内外面はユビオサエやナデを施し、口縁部内面

は横方向のハケを施す。24・25はSX003とした現代の攪乱からの出土遺物であるが、この攪乱はSK001の大部分を削平していることからこれらの遺物がSX001に帰属していた可能性がある。26は備前焼播鉢で、口縁端部は断面三角形状に肥厚している。中世4期頃の製品か。27は須恵器の坏底部片と考えられる破片で、9や10などの小型の蓋と組み合わせるタイプの製品。

5. まとめと今後の課題

今回の調査では、7世紀頃の竪穴建物や土坑群、9世紀前後の遺物の出土も確認され当該期の遺構が面的に展開することが分かった。鶴崎台地上の遺跡はこれまでの調査事例から猪野新土井遺跡や地藏原遺跡を除き、弥生時代の遺跡が広く展開するイメージが強かったが、古代の遺構も面的に広がっているようであり、特に台地上の7世紀代の遺構・遺跡の性格及び遺構展開範囲については今後の小規模な調査の中でも重要である。

2区で検出した遺構は、直径1.0m前後の円形もしくは隅丸方形の土坑が主体であった。当初これらの遺構から弥生土器片が出土していたため、当該期の貯蔵穴と捉えていたが、調査を進める中で須恵器や土師器の甕・把手が出土し、弥生時代までは遡らない古代の遺構が存在することが判明した。しかしながら弥生土器のみが出土する遺構と6・7世紀代の土師器や須恵器が出土する遺構とで構造上の差異はなく、センターピットをもつもの、テラスを設けるような段掘りを行うもの、断面台形状のもの、円形プラン・方形プランなど出土遺物と遺構形状に規則性はない。また、2区SK015を除いて遺構からの出土遺物は希薄であり本来の帰属時期を明らかにすることは難しい。したがって、弥生土器のみが出土した遺構も7世紀に下る可能性があるほか、2区SK019のように9世紀まで下る遺構も存在する。遺構配置からは2区の南北トレンチで検出したSK001・002・008・006など一部攪乱を挟むが直線的に並んでおり、掘立柱建物となる可能性もあるが(第29図)断定できない。よって、現状では弥生時代・古墳時代・古代と時期を異にする土坑群と7世紀頃の竪穴建物が展開するエリアを確認したという評価に留まらざるをえないが、今後付近の調査においても出土遺物が希薄な場合の遺構の帰属時期については十分注意が必要である。(長直信)



第33図 1区SH005完掘状況(北西より)



第34図 2区SK031及び北壁土層堆積状況(南より)



第35図 2区南北トレンチ部分掘り下げ状況(北より)

馬場条里跡第1次調査報告

調査面積 100 m²

調査期間 10.11.08 ~ 10.10.10

地域 I

調査担当 高島

1. 調査に至る経緯・立地と環境・調査概要

馬場条里跡第1次調査は、大分市大字馬場字横枕 656-1・655-1 に所在する。今回の調査は、水道ポンプ場建設に伴い、受水槽が設置される範囲についての確認調査である。10月26日に立会調査を実施したところ弥生時代と思われる遺構が検出されたため、11月9日・10日に改めて受水槽設置範囲について確認調査を実施した。

2. 調査概要

検出した遺構は、土坑・溝・性格不明遺構・ピットであるが遺構密度は極めて希薄である。また、検出時も含めて出土遺物は弥生時代前期のものに限られている。なお、遺構は地表面より0.4m～0.5mの水田層直下で検出されるが、遺存する遺構の大部分が極めて浅いことから遺構上面は水田によって大きく削平されていると考えられる。検出標高は2.9～3.0mである。

①主要遺構

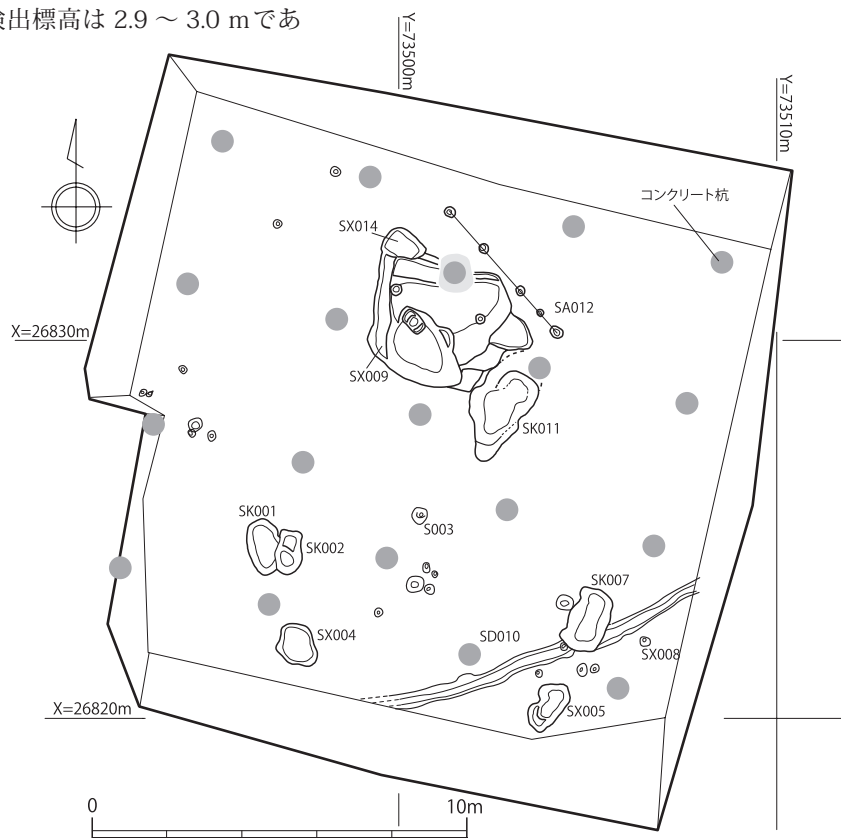
・柵跡

SA012（第38図）調査区中央北側でSX009に接して検出された。柱穴5基からなる長さ4.3mの柵状遺構である。柱穴aは直径0.35m、深さ0.28m、柱穴bは直径0.2m、深さ0.16mと小型である。柱穴c～eは、直径0.25mで深さは0.25～0.3mと比較的揃っている。柱痕の確認を怠っており、その有無は不明である。また、柱間は心々距離で柱穴a～eまで0.65、0.8、1.5、1.3mと不規則ではあるが、全体に遺構が希薄な中で、同一規模のピットが直線的に並ぶことから柵の可能性を考えた。

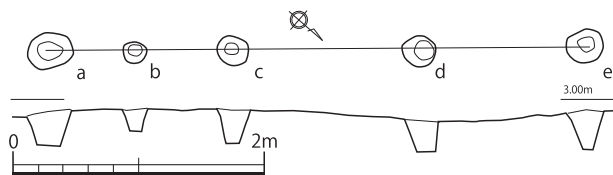
これらの柱穴からは、出土遺物が皆無なため時期が不明であるがSX009に近接し、主軸方向や距離も揃っていることから、SX009を遮蔽するような遺構かもしれない。



第36図 位置図 (1/5,000)



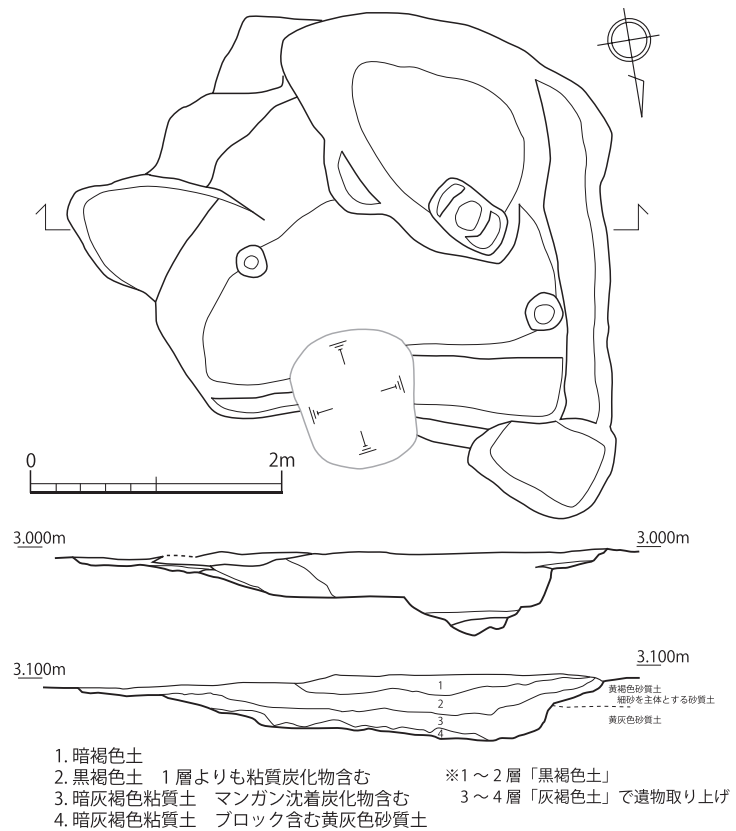
第37図 全体遺構図 (1/200)



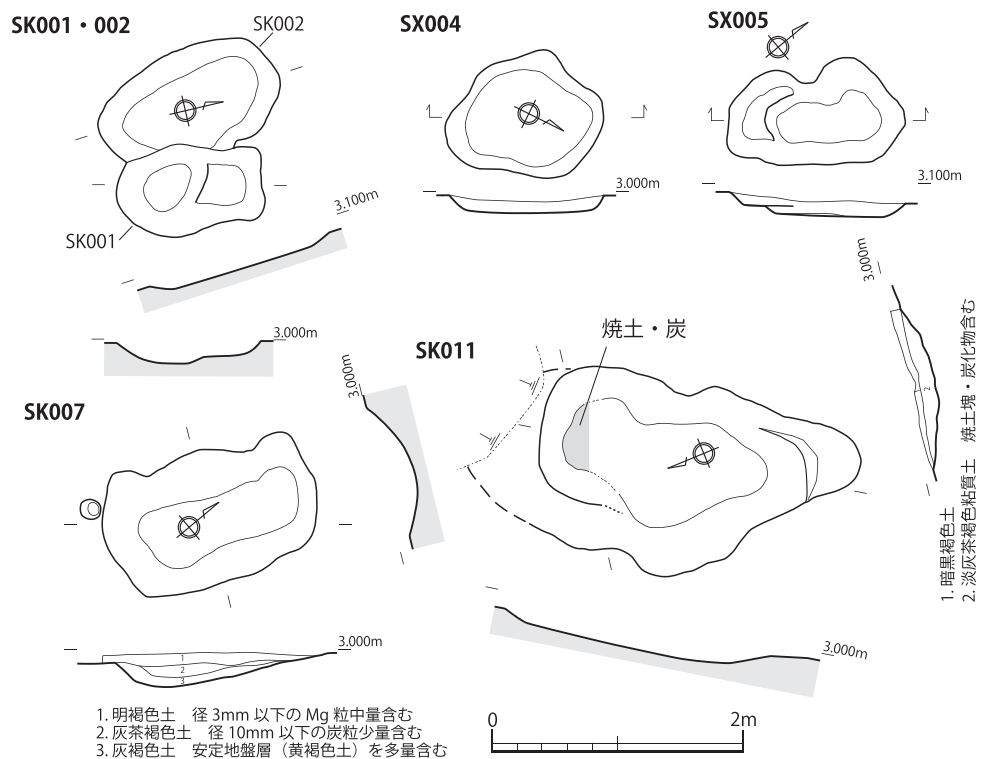
第38図 SA012 個別実測図 (1/60)

・性格不明大型遺構

SX009（第39・46・47図）調査区中央で検出した長軸4.3m、短軸3.4mの不整楕円形で検出面からの最大深は0.65mである。断面形状は底部が凸凹し不整形を呈する。遺構中央に向けて不規則にテラスを形成しながら掘鉢状に窪んでいる。浅い部分のテラスで深さ0.15m、中段テラスで深さ0.35mを測る。SX014を切って形成されている。検出時はSX014以外の複数の土坑が切り合っている可能性も考えられたが、土層からは掘り返しや切り合いが想定できるような不整合面はみられない。埋土は、1・2層は黒色系の土が（2層は1層よりも粘質炭化物を含んでおり黒味が強い）、3・4層は灰色系の土であり、これらの層は遺構に対して水平に堆積している。2層を前後して色調が大きくことなることから上下の層は堆積環境が異なっていると考えられる（第47図参照）。掘削に際しては、上層の1・2層を「黒褐色土」として、下層の3・4層を「灰褐色土」として遺物を取り上げている。埋土中からは多量の弥生土器片、石斧を含む石器類が出土している。上層の「黒褐色土」からは石斧（第42図3）や完形の弥生土器小型甕（第41図10）が出土したが、その他の土器類は底部、口縁部ともに破片で出土しており、また口縁部片に比べて底部片が数量的にも多いことから、割れた土器群が土と共に投棄



第39図 SX009 個別遺構実測図（1/60）



第40図 その他の遺構個別実測図（1/60）

された、もしくは流れ込んだと想定される。また、土器類に混じって蛇紋岩、緑泥片岩の台石のような方形の大型石材（加工痕は明瞭ではない）が各層に含まれていた（第46図参照）。この不整形な大型遺構の性格は竪穴建物の可能性も考えられたが、床面はフラットでなく炉跡や柱穴も認められないことから遺物を廃棄した土坑と考えられるが上述したSA012との関連も含めて具体的な性格は不明である。なお、上層・下層で遺物組成や土器型式に大きな隔たりはなく、弥生時代前期（板付ⅡB併行期）を主体とする時期に埋没した遺構と考えられる。

・溝跡

SD010（第37・22図） 調査区南東部で検出。中央付近でSK007に切られる。幅0.2m、東西9m分を検出したが東西ともに調査区外に伸びる。直線的ではなくそれぞれ北側に向かって弧の字状に反った形状を呈す。検出面からの最大深は0.06mである。時代のわかる遺物は出土していないが、弥生前期の遺物が出土したSK007に切られることから近接した時期の区画溝か。

・その他の遺構

SK001（第40図） 調査区南西付近で検出された。SK002に切られる遺構。長軸1.15m、短軸0.75mの楕円形で検出面からの最大深は0.16mの土坑。

SK002（第40図） 調査区南西付近で検出された。SK001を切る遺構。長軸1.5m、短軸0.9mの楕円形で検出面からの最大深は0.08mと極めて浅い土坑。

SX004（第40図） 調査区南西付近で検出された。長軸1.25m、短軸1.0mの不整形遺構で検出面からの最大深は0.14mの性格不明遺構。

SK005（第40・45図） 南東隅付近で検出された。長軸1.4m、短軸0.65～0.85mの不整形遺構で短軸側に浅いテラスをもつ。検出面からの最大深は0.2mである。底部を穿孔した弥生土器壺（第43図2）や遺存状態のよい甕片（第43図1）が割れた状態で出土した。遺構面の削平度合いを考えると本来は完形品であった可能性がある。

SK007（第40図） 調査区南東付近で検出された。SD010を切る遺構で長軸1.75m、短軸1.05m、方形を指向した土坑で検出面からの最大深は0.25mである。西部瀬戸内系の甕を含む弥生前期の遺物が出土している。

SX008（第37図） 調査区南東付近で検出された。直径0.3m程のピット。弥生前期の甕片が出土している。

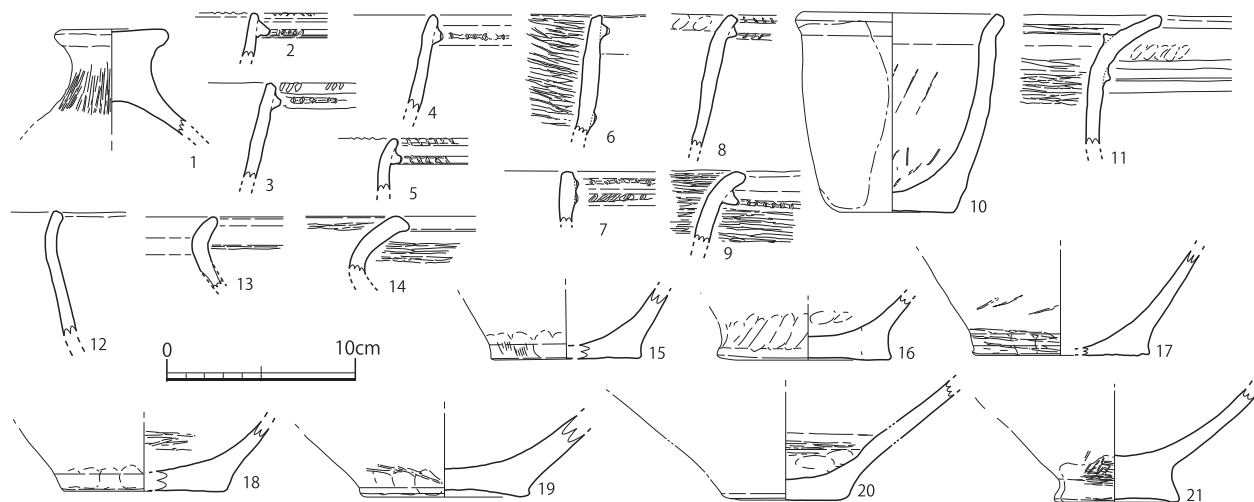
SK011（第40図） 調査区中央で検出。北端が攪乱により削平されるが長軸3.15m、短軸1.55mの隅丸方形に復元され、短軸側に浅いテラスをもつ。検出面からの最大深は0.21mである。埋土の層序や色調はSX009に類似しており出土遺物もほぼ同時期の遺物が出土することから、近接した時期の遺構と考えられる。なお図に示すように遺構の小口付近の床面では焼土や炭が確認されており、調査担当者は屋外炉の可能性も想定している。

②出土遺物

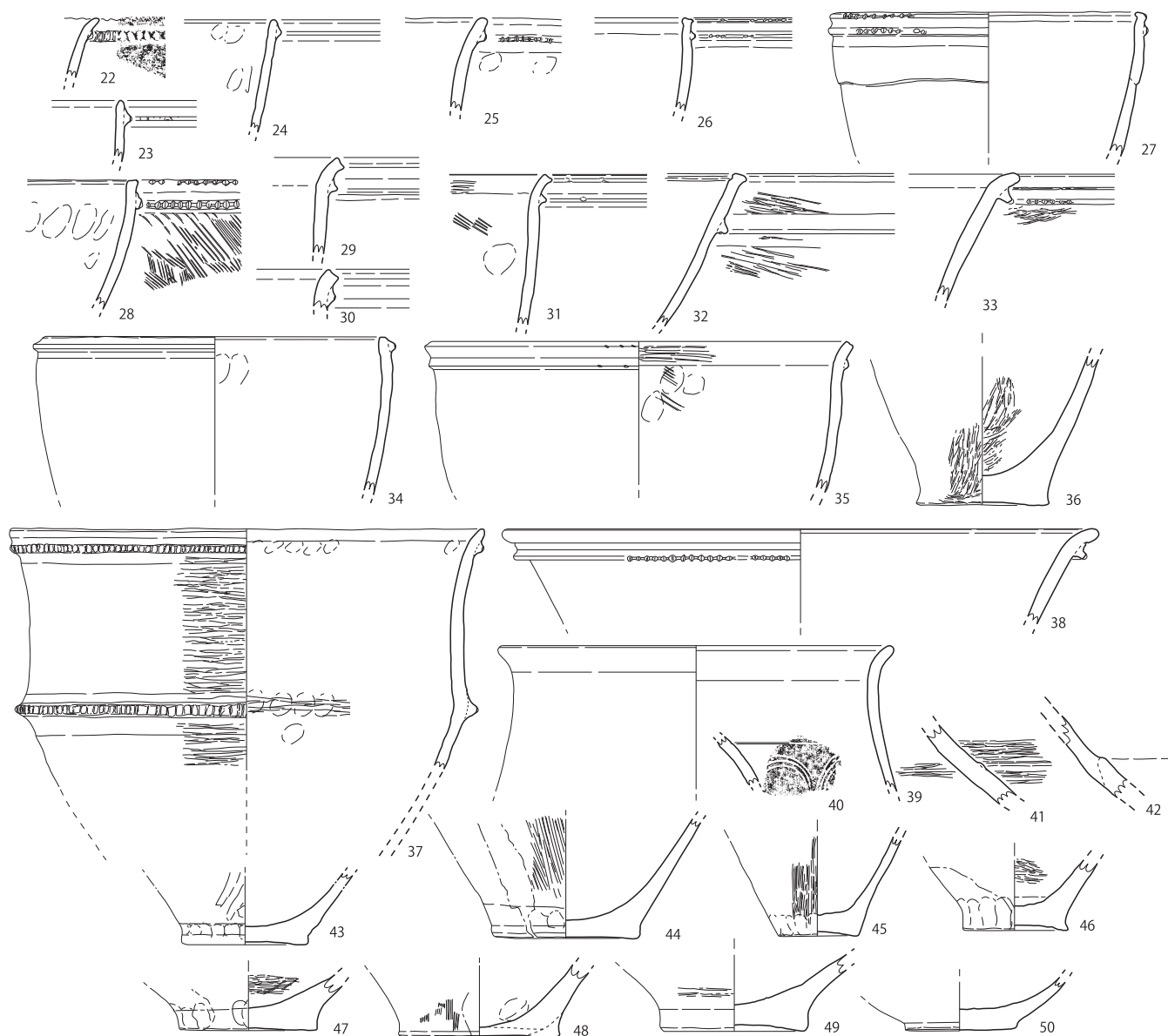
調査では弥生前期に限定して多くの土器が出土したが、そのほとんどはSX009より出土している。SX009以外の遺構から出土した遺物のなかで、実測可能な個体は全て図示しているが、SX009については各層中の全ての形式については図示しているものの、実測可能な全ての遺物を掲載しているわけではない。

SX009 黒褐色土（上層）出土遺物（第41図1～21） 1は弥生土器蓋。赤褐色の色調を呈し外面はハケ調整が確認できる。2～5は弥生土器甕の口縁部片。口縁端部を丸く収め、一条の突帯をめぐらす突帯文系譜のもの（2～5）と口縁端部を方形に面取りするもの（6～8）がある。4は磨滅の為不明瞭であるが口縁端部に刻目が確認できる。また、3・5は刻目が深いためか口縁端部が波打つ形状となる。6は内面にミガキが明瞭に確認できる。9は弥生土器鉢の口縁部片。10は完形で出土した弥生土器小型甕。口径11.0cm、器高10.6cm、底径6.1cmを測る。全面磨滅のため調整は不明瞭であるが、口縁端部に刻目が存在した可能性がある。また、内面には工具痕が確認できる。11～14は弥生土器壺の口縁部片。11は口縁部内面に断面三角形の突帯をもつもので、外面にも一条の突帯をめぐらす。外面突帯の上部には内面突帯を貼付ける際の指頭痕が明瞭に残る。磨滅のため調整不明瞭であるが、内面には横方向のミガキが確認できる。12は頸部が長く肩の張らない突帯文土器系譜の壺か。13・14は口縁端部を強く屈曲させ、14は方形に面取りを行う。15～17は弥生土器甕の底部片。磨滅

SX009 黑褐色土（上層）

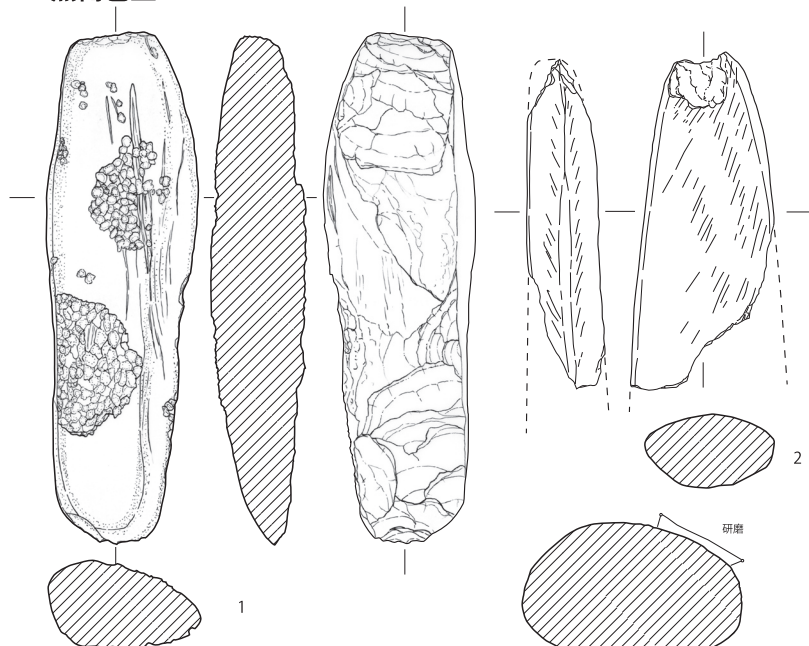


SX009 灰褐色土（下層）

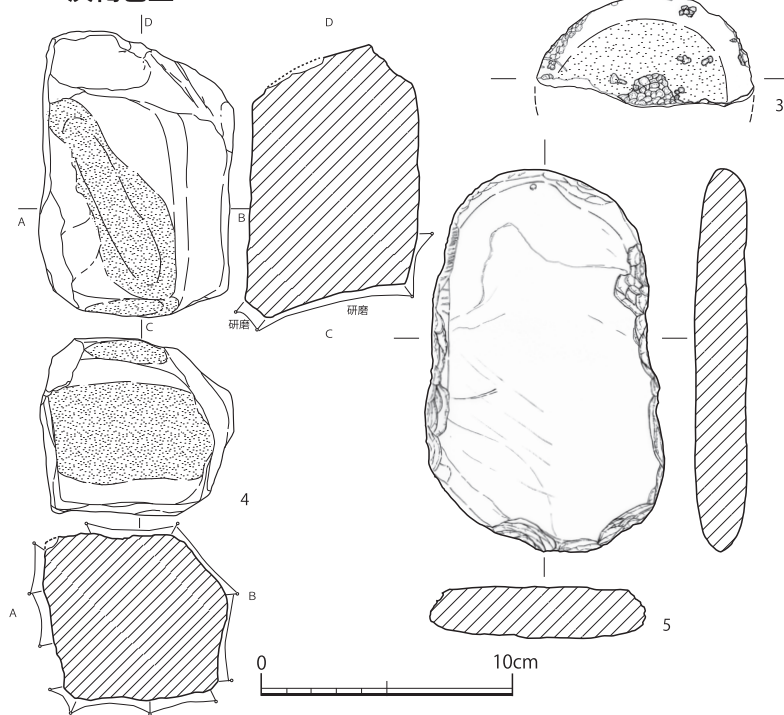


第41図 SX009 出土遺物実測図①（1/4）

SX009 黒褐色土



SX009 灰褐色土



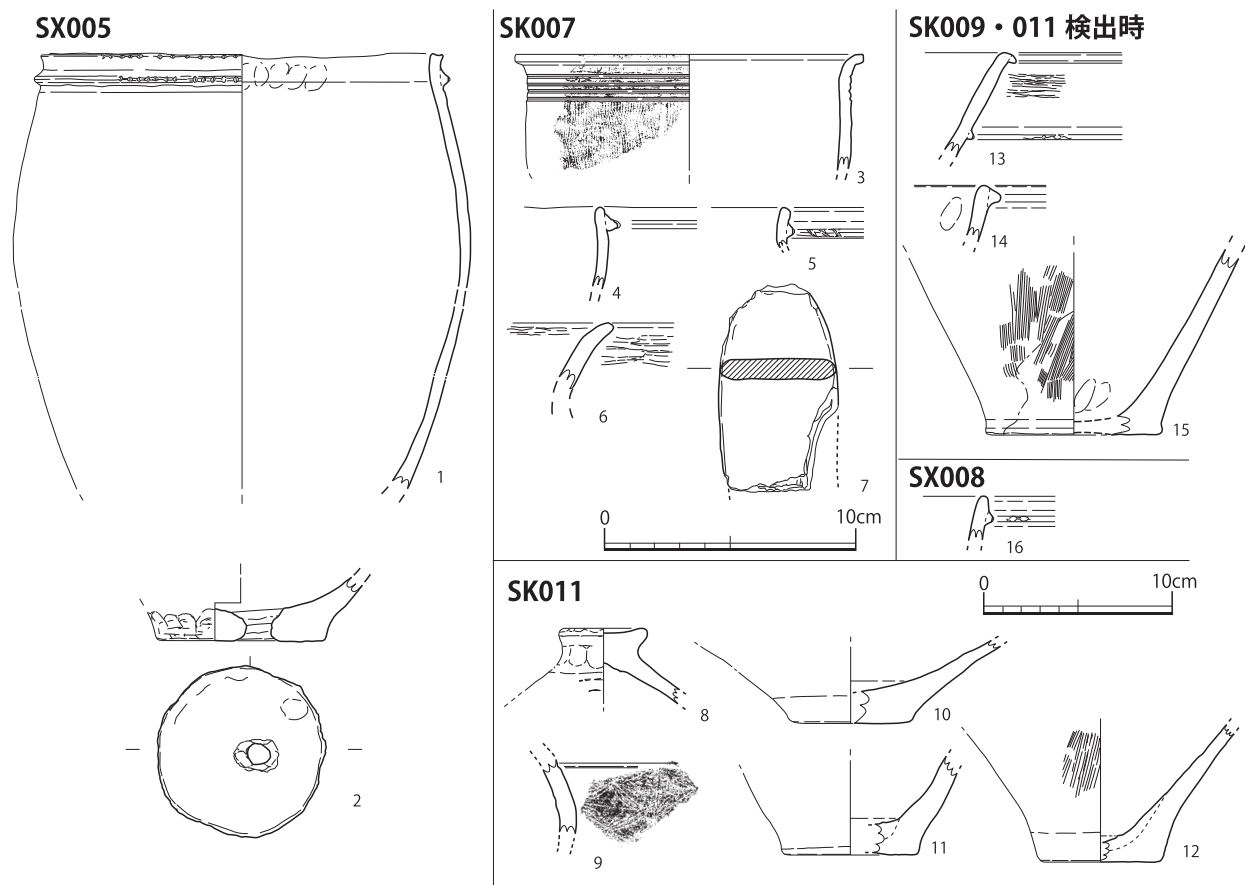
第42図 SX009 出土遺物実測図 (1/3)

分には刻目が施された可能性がある。32・33は弥生土器鉢の口縁部片である。32は体部から口縁部まで直線的に延び、体部上部に突帯をもつ。外面ではハケ状の調整が確認できる。33は口縁部付近で外反するタイプの鉢で口縁部下端部に刻目突帯をもつ。第41図9や38と同一型式であるが、胎土や色調から別個体と考えられる。34～37は弥生土器甕。34は復元口径22cmを測る。口縁端部を丸く収めるもので、口縁部付近でやや内傾する。35は復元口径26cmで口縁端部を方形に面取りするもので31と同一型式の甕である。36は甕の下半部で内面・外面に縦方向、斜め方向のミガキが施される。底径8.0cmである。37は突帯文土器系の弥生土器甕。復元口径28.8cm、器高14.7cm+ α 。舌状口縁部の下部に不規則な細く浅い刻目を施す。体部の屈曲部分も断面三角形の

により調整不明瞭だが、底部の裾部は指オサエが明瞭に残る。15はハケ目、17はミガキが確認できる。18～20は弥生土器壺の底部片。18・19は底部の裾部は指オサエが明瞭に残り、18は内面にミガキ、19は外面にミガキが確認できる。底部は上げ底気味となる。20は底径の小さいものでややレンズ底状になる。内面にはミガキが確認できる。底径6.8cmを測る。21は弥生土器鉢の底部片。外面にミガキが確認できる。底径5.5cmを測る。

SX009 灰褐色土 (下層) 出土遺物 (第41図22～50)

22～31は弥生土器甕の口縁部片。黒褐色土出土遺物同様、口縁端部を丸く収めるもの(22～25)と口縁端部を方形に面取りするもの(26～31)がある。24は磨滅が著しく不明瞭であるが、それぞれ一条の刻目突帯をもつ。22は突帯部分の刻目は他の甕と比較して深く幅も広い、また、口縁端部の刻目により口縁部は波打っている。27は復元口径19.2cmで26と同一型式の甕であるが、体部上部に段をもつ。29と30は口縁端部を方形に強く面取りする。磨滅の為不明瞭であるが、突帯部



第43図 その他の遺構出土遺物実測図 (1/4) 7は (1/3)

突帯をめぐらし口縁部の突帯同様、不規則な細く浅い刻目を施す。磨滅の為内面を中心に調整不明瞭であるが、外面には横方向のミガキが確認できる。色調は橙赤色で、胎土には緑泥片岩が多量に含まれる。この型式の甕はこの1点のみの出土である。38は弥生土器鉢である。39～42は弥生土器壺の口縁部や体部片である。39は肩の張らない頸部の長いタイプの壺。磨滅が著しく調整は不明である。40は壺の体部片で、重弧文を施す。41・42は頸部付近の破片で、頸部接合時の粘土紐の段が明瞭に残る。43～46は弥生土器甕の底部片。外面には縦方向のハケ目が、内面にはミガキが確認できる。47～50は弥生土器壺の底部片。48は復元底径9.8cm、断面から接合ラインが観察できる。47・49はやや上げ底気味である。底径8.3cm、8.8cmを測る。50は底径6.8cmと小さく、ややレンズ底となる。

SX009 出土遺物 (石器) (第42図1～5) 1～3は黒褐色土から出土した石器。1は蛇紋岩製の敲石で側面に2ヶ所、密な敲打痕が確認できる。重量695g。2は緑泥片岩製の石斧。いわゆる縄文系の石斧である。刃部を欠損する。重量290g。3は安山岩製の円形の敲石。重量270g。4・5は灰褐色土から出土した石器。4は砂岩製の砥石で、5～6面の砥面が形成されている。岩質はややキメが荒く荒砥石として用いられたか。重量58.11g。5は緑泥片岩製の打製石器。両側面にやや深い挟りがある。下部は使用によるものか擦痕が確認できる。石垂にしては挟りが浅いので、挟り部分を持ち手とする石器か。重量580g。

SX005 出土遺物 (第43図1～2) 1は口縁端部を方形に面とりするタイプの弥生土器甕で、復元口径21.2cm、器高23.1cm+ α を測る。土器全体がやや歪んでおり、口縁部はゆるく波打った形状となる。磨滅の為、調整は不明である。色調は黄灰色である。2は底部中央に穿孔をもつ弥生土器壺の底部片。底径8.75cm。穿孔は外面より行われている。

SK007 出土遺物 (第43図3～7) 3は弥生土器甕で、外反して方形気味に収める口縁部直下に四条の凹線を施す。外面調整はタテハケ調整である。復元口径18.5cm。いわゆる西部瀬戸内系の弥生土器である。4・5は

弥生土器甕の口縁部片。4は磨滅のため不明瞭であるが突帯には刻目を施した可能性がある。6は弥生土器壺の口縁端部片。端部はやや尖り気味に収める。内外面ともミガキを施す。7は緑泥片岩製の扁平な石材。加工痕は明確には確認できないが、上部が丸味をもつ。類似した石材がSD010から2点出土している。重量58.11g。

SK011 出土遺物（第43図8～12） 8は弥生土器蓋。外面にタタキ状の調整痕が確認できる。9は弥生土器壺の体部片で、外面に木の葉文が描かれる。10は弥生土器壺の底部。SX009黒褐色土より出土した壺（第41図20）と同一型式のもので、復元底径6.2cmである。11・12は弥生土器甕の底部片。11は復元底形7.0cm。12は復元底径6.4cmとなる。外面はタテハケ調整である。

SX009・011 検出時出土遺物（第43図13～15） SX009・011検出時に出土した、どちらの遺構にも帰属できない遺物群である。13は弥生土器鉢。口縁端部と体部に小ぶりの突帯をもつ。14は口縁端部に突帯をもつ弥生土器甕。15は弥生土器甕の体部から底部の破片。復元底径9.3cmである。外面は丁寧なタテハケを施す。

SX008 出土遺物（第43図16） 16は弥生土器口縁部片。口縁端部を丸く収めるタイプで、刻目突帯をもつ。

※なお、出土した弥生土器全てにおいて坂ノ市～佐賀関一円で露頭している緑泥片岩の破片が多量に含まれることから、これらの土器は調査地点の近隣で製作されたものと考えられる。

3. まとめ

① SX009の帰属時期について SX009からは弥生時代前期の多量の弥生土器や石器類が出土した。大分市内における弥生時代前期の遺物・遺構は従来希少であったが、佐賀関地区においては初の事例となる。近年、市域全体の中では当該期の資料はわずかながら増加しており、現在大分での弥生時代早期～前期の土器様相は、下黒野式（夜臼式併行期）→一方平式（板付Ⅰ式併行期）→上七曾子式（板付ⅡA式併行期）→下志村式（板付ⅡB式併行期）という変遷及び併行関係が提示されている（井口あけみ2003「上七曾子遺跡2号溝（SD02）出土の弥生土器について」『古国府遺跡群・上七曾子遺跡』大分市教育委員会など）。SX009は、調査所見から上層・下層とで堆積環境が異なる遺構である。遺構の性格は不明であるが、遺物を詳細にみると突帯文系の弥生土器甕（第41図37）は下層の「灰褐色土」より、内面に突帯をもつ壺（第41図11）や蓋（第41図1）は上層の「黒褐色土」で出土しており、上・下層で新相・古相を示す。ただし、上層一括・下層一括などとして明瞭に区分できるほど土器の一括性が見込めるわけではなく編年成果に照らせば上七曾子式～下志村式までの若干の幅を持つことが想定される。上層～下層にかけての土器様相が暫位的であることからみても遺構の埋没過程時期に幅があった可能性が高い。なお、第41図のような口縁部端部を丸く収め、この下部に一条の突帯をもつ甕が上層・下層とも安定的に出土していることから下志村式すなわち板付ⅡB期が主体のようである。したがって、今回の出土遺物の様相は上七曾子式～下志村式の間を埋める遺物群であるが、前後の幅を持つものと考えられる。

② 遺構の時期について 今回の調査では、遺物が出土していない遺構が多く帰属時期を明らかにしえないものが多い。しかしながら、遺構検出時や表土掘削時も含めて弥生時代前期の遺物以外は出土していない他、SX008のようにピットからも弥生前期の遺物が出土するように報告した遺構はほぼ同時期の遺構と考えられる。なお、遺構の分布をみると、SD010を切って掘削されたSK007からは弥生前期後葉頃（板付ⅡC期併行期か）と考えられる西部瀬戸内系の弥生土器甕片が出土しており、SD010がSX009に近接した時期の遺構である可能性が高い。よって、出土土器からみてSX009やSK011、SX005がSD010とした溝を伴って併存していた可能性が高いと考えられる。本調査地点は、馬場条里跡として周知された低地部のうち西側の丘陵に近い場所に位置している。海岸平野の浜堤上ではなく、後背湿地周縁部あるいは堆積物で埋積した後背湿地にあたる場所と思われる。おそらく、西側の低丘陵上に集落の中心部があると思われ、今回検出された遺構群は居住空間とは異なる集落の端に近い部分と考えられよう。旧佐賀関町域で大分市教育委員会が実施する初の発掘調査となったが、周辺低地にも遺構の広がりが予想されることから周辺での開発行為には注意していく必要がある。

なお、SX009出土遺物の評価や時期については、小田富士雄先生（福岡大学名誉教授）・武末純一先生（福岡大学）・坪根伸也氏（大分市教育委員会）よりご教示をえた。（長直信）



第 44 図 SD010・SX005・SK007 検出状況（西から）



第 45 図 SX005 遺物出土状況（東から）



第 46 図 SX009 遺物出土状況（東から）



第 47 図 SX009 堆積状況（北西から）



第 48 図 調査風景（東から）



第 49 図 SX009 出土突帯文系弥生土器甕（第 41 図 37）



第 50 図 出土遺物（キャプションは図番号を示す）



第 51 図 SX009 出土土器（第 41 図 19）底部にみられる粉痕

第4章 平成22年度の教育普及活動

①**大友氏遺跡フェスタ 2010** 大友氏ゆかりの史跡を巡る「大友府内旧跡めぐり」、大友氏館跡等の発掘現場での遺跡説明会、「大友」に関連するまちづくり、ものづくり、史跡公園の利用方法等について市民と意見交換を行うシンポジウムを開催した。

「大友府内旧跡めぐり」

【日 時】 10月2日（土） 午前9時30分～正午

【場 所】 大友氏遺跡体験学習館 【参加者】 58名

【内 容】 今も残る大友氏にゆかりのある場所や大友氏館跡の発掘現場などをボランティアガイドと文化財課職員が解説を行いながら案内した。

「大友氏遺跡現地説明会」

【日 時】 10月3日（日） 午前9時30分～10時40分

【場 所】 大友氏館跡 【参加者】 180名

【内 容】 発掘調査中の大友氏館跡の状況や発掘された品々を公開するとともに、現在までの調査成果を担当者が分かり易く解説した。

「大友氏遺跡シンポジウム」「みんなで語ろう 大友氏遺跡とまちづくり」

【日 時】 10月3日（日） 午後1時00分～午後4時00分

【場 所】 大分銀行赤レンガ館 2F 大ホール 【参加者】 68名

【内 容】 今回の大友氏遺跡フェスタでは、大友氏遺跡の将来像に焦点をあて行ってゆく。今回は大分の地域遺産＝「大友」とし、様々な人たちに大分・大友の魅力を語ってもらう。また、「大友」に関連するまちづくり、ものづくり、史跡公園の利用方法について意見交換を行った。

②**大分市文化財たより 2010 年度号の発行** 刊行日：平成23年3月18日

2010年度号は大分市内に残る「石橋」をテーマにした。現在、市内には30基以上の石橋が存在している。石橋は、長い間、地域を繋ぐ橋として日常生活に欠かせないものであった。その中には建造年代や石工名が判明しているものがあり、現在に伝えられている。しかし近年では、舗装された路面の下や生い茂った草木に隠され、また、新しく橋が架けられたことで撤去されるなど人々の目から次第に遠ざかっているようである。今回は、ひっそりと佇みながらそれぞれの地域をつなぐ「石橋」を紹介した。

③**大友氏遺跡体験学習館** 大友氏遺跡体験学習館は（以下、同館）は、展示解説や歴史教室に加え、各種イベントを充実させることにより、大友氏遺跡や大友氏について学習する場としての役割を担っている。同館の入館者数は、開館以来着実に増加している。特に、平成22年度の市外来館者の割合は前年度比7%増で、確実に周知されていることが分かる。開館3年目となる平成22年度は、体験工房や『南蛮かぼちゃ』苗植え祭・収穫祭、戦国武将体験など、体験学習に力を入れたことで、これまでの歴史・遺跡愛好者に加え、家族連れや小・中学生の友人同士というような新しい来客層を生み出すことができた。



第52図 「大友氏遺跡シンポジウム」



第53図 大友氏遺跡現地説明会



第54図 『南蛮かぼちゃ』苗植祭

【主なイベント】

企画展「武具の歴史をたどる」平成22年4月28日～5月30日 【来館者】 965名

＜概要＞ 弥生時代から江戸時代までの甲冑や鉄砲の歴史を模型やパネルを用いて紹介や大友氏ゆかりの南蛮兜江戸時代に作られた火縄銃の展示。

『南蛮かぼちゃ』 苗植え祭・収穫祭 平成22年5月23日・9月19日

【参加者】 苗植え祭 33名 収穫祭 27名

＜概要＞ 戦国時代から伝わる「南蛮かぼちゃ」の育てることで、「食」と「歴史文化」を学ぶ。

「火縄銃に触れよう」 平成22年10月17日 【来館者】 155名

＜概要＞ 豊後大友宗麟鉄砲隊による火縄銃の実演、甲冑を身に付け本物の火縄銃を持ち、戦国時代の雰囲気を感じ取る。

④大友氏遺跡 PR 活動 in 大分空港 平成23年2月21日～3月21日、大分空港ターミナル内において、大友氏遺跡及び大友氏遺跡体験学習館の広報活動として、大友氏遺跡や大友宗麟について解説したパネル展示を実施した。

⑤大友氏遺跡ボランティアの募集 大友氏遺跡の保存整備について、市民が計画段階から深く関わる仕組みと組織づくり、さらに、今後の大友氏遺跡の保護や管理、運営について協働できる市民ボランティアの育成を目的として募集を行った。

9月の第1次募集では、80名以上の応募があった。9月18日の第1回目の例会では文化財課から大友氏遺跡事業及び募集の経緯等の説明を行い、会の代表者3名を決定した。その後、2次募集が終了した段階で100名を超える団体となった。平成23年1月に「おおいた応援隊 大友歴史保存会」として正式発足し、活動を始めている。

⑥「楽市楽座 大おもて会」の開催 大友宗麟の時代の儀礼である「大おもて」を現代風に構成を置き換え、大友氏遺跡の周知と当時のような賑わいを創出する目的で、ボランティアグループ「大友歴史保存会」が主体となり開催した。

【主催】 おおいた応援隊 大友歴史保存会 後援：大分市教育委員会

【開催日時】 2011年2月27日（日） 午前9時～午後3時

【開催場所】 大友氏遺跡多目的広場（旧万寿寺跡） 【来客者】 約1500人

⑦遺跡説明会 府内城・城下町跡第19次（荷揚町小学校） 調査地は府内城三ノ丸に所在し、府内藩の要職を務めた「上原氏」「手嶋氏」が居住場所ある。今回、建物跡や井戸跡など当時の武家屋敷が良好に発見されたため、地域の方々を対象として現地で遺跡説明会を開催した。

【開催日時】 2011年1月30日（日）【発掘場所】 大分市立荷揚町小学校 【参加者数】 120人



第55図 「火縄銃に触れよう」



第56図 大分空港ターミナルでパネル展示



第57図 府内城・城下町跡第19次現地説明会

第 5 章 受贈図書目録

北海道	（財）北海道埋蔵文化財センター （財）北海道埋蔵文化財センター調査年報 23	帯広市教育委員会 吉田 巖 資料集28
青森県	青森県教育委員会 特別天然記念物カモシカ下北半島保護地域 特別調査報告書	
宮城県	仙台市教育委員会 仙台城跡整備基本計画 / 青葉山公園仙台城石垣修復工事（仙台城跡本丸北壁石垣）	仙台城跡地震災害石垣復旧事業及び史跡整備事業報告書 / 仙台城跡10
秋田県	秋田市教育委員会 御所野 弥生っこ村通信	
山形県	山形市教育委員会 山形市埋蔵文化財調査年報（平成20年度）	飯塚2遺跡発掘調査報告書
福島県	福島大学行政政策学類考古学研究室 福島県における古墳時代から律令体制への転換過程の研究	庚申壇古墳3
茨城県	日立市教育委員会 長者山遺跡 筑波大学人文社会科学研究所 筑波大学 先史学・考古学研究 第21号	石岡市教育委員会 市内遺跡調査報告書 第5集 下ノ宮遺跡
千葉県	国立歴史民俗博物館 国立歴史民俗博物館研究報告 第157・158・159・160・161・162集 中世東アジアにおける技術の交流と移転—モデル、人、技術	歴博 第160号 芝山町教育委員会 上吹入・林古墳群（仲畑371-1地点）
東京都	国分寺市教育委員会 武蔵国分寺跡発掘調査概報35・36 / 国指定史跡 武蔵国分寺跡 平成20年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報 府中市教育委員会・府中市遺跡調査会 武蔵国府の調査 39 / 府中市横海道北1号塚の調査 経自動車検査協会 埋蔵文化財発掘調査支援協同組合 朝日町神明台遺跡 社団法人 日本ユネスコ協会連盟 世界遺産 年報2011 三鷹市教育委員会 / 三鷹市遺跡調査会 大沢総合グラウンド整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	世田谷区立郷土資料館 特別展図録 烏山寺町 宇津木家書簡集（二） 東京文化財研究所 東京文化財研究所概要 2010 文化庁 発掘調査の手引き / 埋蔵文化財関係統計資料 公益社団法人 日本文化財保護協会 埋蔵文化財調査要覧 高松塚古墳壁画劣化原因調査検討会 高松塚古墳壁画劣化原因調査報告書
新潟県	新潟市教育委員会 駒首湯遺跡 第3・4次調査 / 上浦A遺跡 第14次調査 萱免遺跡 第2次調査 / 結七島遺跡Ⅴ 第19次調査 平成20年度 国史跡古津八幡山遺跡講演会記録集 最新調査成果が語る新潟市の歴史 / 上大川遺跡 第2次調査	中田遺跡 第2次調査 手代山北遺跡 第2・3次調査 大沢谷内北遺跡 第3次調査 佐渡市教育委員会 佐渡市内遺跡発掘調査報告Ⅱ / 佐渡国分寺跡発掘調査報告Ⅲ
富山県	（財）富山県文化振興財団 とやま発掘だより-平成21年度発掘調査連報- 道場Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告 第1分冊・第2分冊 射水市教育委員会 白石遺跡発掘調査報告Ⅳ / 射水市内遺跡発掘調査報告Ⅱ 太閤山カントリークラブ造成地内遺跡群発掘調査報告	富山大学芸術文化学部 韓半島の高錫青銅器の熟処理技術・製作技術研究 アジアの高錫青銅器—製作技術と地域性— 砺波市教育委員会 砺波市遺跡詳細分布調査報告6 徳万頼成遺跡発掘調査報告Ⅰ
石川県	小松市教育委員会 まいぶん講座フォーラム成果報告3 継体大王と江沼の豪族 / 小松市内遺跡発掘調査報告書Ⅵ	漆町遺跡 / 額見町遺跡Ⅴ
福井県	福井市文化財保護センター 平成16年度～平成19年度 年報 / 河水遺跡 / 福井城跡Ⅲ 小浜市教育委員会 小浜市重要遺跡確認調査報告書Ⅲ	天然記念物菟島暖地性植物群落保存管理計画策定報告書 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 一乗谷朝倉氏遺跡資料館紀要 2009 特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅹ 第51・52次調査、一条朝倉氏遺跡40 農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 一宮北部地区畑地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
山梨県	笛吹市教育委員会 一宮町末木地区畑総事業に伴う埋蔵文化財発掘調査事業	飛騨市教育委員会 江馬氏城館跡Ⅵ 整備工事に伴う下館跡の発掘調査 史跡江馬市城館跡下館跡地区整備工事報告書 恵那市教育委員会 大井城跡2 大垣市教育委員会 車塚古墳-範囲確認調査報告書- / 大垣市埋蔵文化財調査概要 平成20年度
岐阜県	（財）岐阜市教育文化振興事業団 史跡加納城跡2 / 加納城跡の発掘 垂井町教育委員会 美濃国分尼寺跡発掘調査報告 タルイピアセンター歴史民俗資料館 平成21年度タルイピアセンター年報 No.16 戦国武将の勝負飯 / ホンモノ?ニセモノ?作りモノ	磐田市教育委員会 特別史跡 遠江国分寺跡 静岡県磐田市 市内遺跡確認調査報告書 / 平成20年度 丁子遺跡発掘調査報告書 袋井市教育委員会 鶴田Ⅰ遺跡 / 掛之上遺跡83・85・86-写真図版編- / 79・80・81・82・84-写真図版編— 南山大学人類学博物館 南山大学人類学博物館紀要 第28号
静岡県	（財）浜松市文化振興財団 梶子遺跡11次 / 浜松城跡4次 / 半田山D19・E9号墳 / 笠井遺跡2次 / 辺田平21号墳 鳥居松遺跡5次 弥生時代編・伊場大溝編・円頭大刀編	（財）瀬戸市文化振興財団 市内遺跡調査報告Ⅴ 仙左衛門窯跡 七郎左窯跡 赤津長根第1・2号窯跡資料調査報告 名古屋市見晴台考古資料館 名古屋市見晴台考古資料館 年報27 / 尾張戸神社古墳・中社古墳
愛知県	愛知県教育委員会 愛知県文化財年報 5 平成21年度 愛知学院大学文学部歴史学科 愛知県田原市 宮西遺跡の発掘記録4 岐阜県中津川市 上県2号窯跡 第4次発掘調査概要報告書	南山大学人類学博物館 南山大学人類学博物館紀要 第28号 （財）瀬戸市文化振興財団 市内遺跡調査報告Ⅴ 仙左衛門窯跡 七郎左窯跡 赤津長根第1・2号窯跡資料調査報告 名古屋市見晴台考古資料館 名古屋市見晴台考古資料館 年報27 / 尾張戸神社古墳・中社古墳
愛知県	豊田市教育委員会 平成20年度市内遺跡発掘調査事業概要報告書	

	上向イ田窯　／　今町宮之後遺跡 高根越Ⅰ・2号窯跡　／　宮平遺跡　／　豊田市の縄文遺跡　／　枋原遺跡	山の田古墳発掘調査報告書　／　尾張元興寺跡第14次発掘調査報告書 埋蔵文化財調査報告書60　白川公園遺跡（第5次） 埋蔵文化財調査報告書61　瑞穂遺跡（第1次・第2次） 熱田神宮内遺跡　Ⅱ　／　掘越町遺跡埋蔵文化財調査報告書
	名古屋大学大学院文学研究科考古学研究室 名古屋大学文学部研究論集167　史学56　／　紀元前1千年紀考　／　東山61号窯発掘調査報告書	吉良町教育委員会 古墳時代遺跡調査報告書
三重県	三重県埋蔵文化財センター 研究紀要　第19-1号　／　第20号 経塚中世墓発掘調査報告　／　宮ノ沖遺跡発掘調査報告　／　伊坂窯跡・伊坂遺跡（第5次）発掘調査報告 埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ　／　埋蔵文化財発掘調査概報22（平成21年度調査） 川方城ノ越・川方川原遺跡発掘調査報告　／　天道遺跡（第2次）発掘調査報告 松坂城跡、久居城下町遺跡（第9次）　・東郷跡古墳発掘調査報告 北奥遺跡（第3次）発掘調査報告　／　中ノ川原遺跡発掘調査報告	平成20年度　三重県埋蔵文化財年報　／　平成21年度　三重県埋蔵文化財年報 四日市市教育委員会 平戸山遺跡2　／　来留倍遺跡4　／　一般国道1号北勢バイパス　埋蔵文化財発掘調査概報Ⅹ 松阪市文化財センター 平成20年度　松阪市文化財センター年報　／　平成21年度　松阪市文化財センター年報 松阪市教育委員会 浄眼寺境内遺跡範囲確認調査報告　／　田村1号墳発掘調査報告書
滋賀県	滋賀県教育委員会 織豊期城郭基礎調査報告書　4　／　研究紀要　14号	東近江市教育委員会 高野遺跡・高野館遺跡　／　中沢遺跡（第19次）　／　能登川の遺跡探検ものごたり 平成21年度　市内遺跡の調査　／　八日市地区の遺跡探検　／　地藏遺跡（1次）
京都府	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 京都府埋蔵文化財情報　第111号・112号・113号 京都橘大学文学部文化財学科 京都橘大学　文化財調査報告2009 城陽市教育委員会 城陽市埋蔵文化財調査報告書　第60集・第61集	（財）長岡京市埋蔵文化財センター 長岡京市埋蔵文化財センター年報平成20年度・平成21年度　／　長岡京市埋蔵文化財調査報告書第54集 同志社大学歴史資料館 相国寺旧境内発掘調査報告書　／　常盤井殿町遺跡発掘調査報告書 南山城の古代寺院　／　同志社大学歴史資料館館報　第13号 花園大学考古学研究室 平安京右京二条三坊八町
大阪府	（財）大阪市博物館協会　大阪文化財研究所 上本町遺跡発掘調査報告Ⅰ （財）大阪市文化財協会 天満本願寺跡発掘調査報告　Ⅶ　／　西淡路1丁目所在遺跡発掘調査報告 財団法人　大阪市文化財協会　30年のあゆみ 堺市教育委員会 平成21年度　国庫補助事業発掘調査報告書Ⅰ　／　御廟山古墳　旗塚古墳 堺環壕（SKT989）発掘調査概要報告　／　平成20年度市内遺跡立会調査概要報告 大保遺跡（DIIH-6）・太井遺跡（TAI-3）発掘調査概要報告 堺市博物館 よみがえる中世都市　堺 八尾市教育委員会 八尾市内遺跡平成21年度発掘調査報告書 高安千塚　／　高安千塚シンポジウム　記録集2 高安古墳群　調査報告書　／　高安古墳群　分布・測量調査報告書 八尾市立埋蔵文化財調査センター やおの中世	大阪大学文学研究科考古学研究室 長尾山古墳発掘調査報告書　／　大阪歴史博物館　研究紀要　第8号 山之内遺跡発掘調査報告Ⅲ　／　宮原遺跡発掘調査報告　／　堂島蔵屋敷Ⅲ 貝塚市教育委員会 要家文書に見る岸和田藩領の村とその生活　／　貝塚市遺跡群発掘調査概要　32 高槻市教育委員会 嶋上遺跡群　34　／　安満遺跡―平成21年度確認調査速報― 高槻市文化財年報　平成19・20年度　／　たかつき文化財地図 阪南市教育委員会 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要ⅩⅦⅡ 熊取町教育委員会 野田遺跡Ⅰ・東門寺跡ⅩⅡ発掘調査報告書　／　熊取町遺跡群発掘調査概要報告　ⅩⅩⅣ 豊中市教育委員会 豊中市原田城跡史跡建物保存及び整備工事報告書 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要　平成21年度（2009年度）　／　文化財ニュース　豊中　No.35 大阪市立大学　日本史研究室 玉手山1号墳の研究　／　玉手山3号墳の発掘調査概報
兵庫県	大手前大学史学研究所 龍子三ノ塚古墳群の研究　本文編・図版編　／　大手前大学史学研究所紀要　第8号 神戸市教育委員会 新修　神戸市史歴史編Ⅱ「古代・中世」　／　二宮東遺跡　第3次調査 平成19年度神戸市埋蔵文化財年報　／　神戸市埋蔵文化財分布図 訪ねてみよう神戸の遺跡　／　神戸で考古と出会う 住吉宮町遺跡第45次発掘調査報告書　／　第46次発掘調査報告書 日暮遺跡第33・34次発掘調査報告書　／　二葉町遺跡第22次発掘調査報告書 松野遺跡第42-1・2次発掘調査報告書　／　平成20年度　雲井遺跡第28次発掘調査報告書 兵庫津遺跡第50次発掘調査報告書　／　第14・20・21次調査　第1分冊・第2分冊 加東市教育委員会 加東市内遺跡確認調査概要～平成20年度国庫補助金事業に係る調査～	三木市教育委員会 三木城跡及び付城跡群総合調査報告書　／　福井土塁E遺跡 尼崎市教育委員会 尼崎市内遺跡　発掘調査等概要報告書　／　尼崎市埋蔵文化財調査年報　平成16年度 尼崎市埋蔵文化財遺跡分布地図及び手引き（平成22年度版） 南あわじ市教育委員会 南あわじ市埋蔵文化財調査年報Ⅲ 姫路市埋蔵文化財センター 発掘調査速報展　2010 伊丹市教育委員会 有岡城跡発掘調査報告書ⅩⅣ～第306次調査―第309次調査― 伊丹市埋蔵文化財調査報告書-平成17～20年度国庫補助事業による調査-
奈良県	（財）元興寺文化財研究所 （財）大和文化財保存会援助事業による金剛寺の版木（摺写物篇） もの・ワザ・情報-古の匠に挑む-　／　平城京左京四条二坊九坪（田村第跡） 熊野灘沿岸地域を中心とした中世・近世・葬送墓制の研究 （財）桜井市文化財協会 桜井市埋蔵文化財　2006年度発掘調査報告書Ⅰ　／　2009年度発掘調査報告書Ⅰ 斑鳩町教育委員会 斑鳩町内遺跡発掘調査概報　平成5～7年度　／　平成8～9年度　／　平成20年度 桜井市教育委員会 桜井市　平成20年度国庫補助による発掘調査報告書 平成21年度国庫補助による発掘調査報告書　／　多武峰念誦堀地区の研究 独立行政法人　奈良文化財研究所 埋蔵文化財の保存・活用における遺構露出展示の成果と課題 第13回古代官衙・集落研究会報告書　官衙と門　資料編・報告編 独立行政法人　奈良文化財研究所飛鳥資料館 キトラ古墳壁画四神	飛鳥資料館 小さな石器の大きな物語　／　木簡黎明―飛鳥に集ういにしへの文字たち （財）由良大和古代文化研究協会 研究紀要　第15集 唐古・鍵考古学ミュージアム 平成22年度秋季企画展　道の考古学　／　秦楽寺遺跡　／　ミュージアムコレクションVol.1.3 帝塚山大学考古学研究所 帝塚山大学考古学研究書研究報告　ⅩⅡ 田原本町教育委員会 田原本町文化財調査年報　18 桜井市立埋蔵文化財センター 50cm下の桜井 天理市教育委員会 天理市文化財調査年報　平成17年度　／　平成20年度
和歌山県	岩出市教育委員会 平成21年度　岩出市内遺跡発掘調査概報-根来寺遺跡の調査- （財）和歌山市都市整備公社 和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報-平成20年度（2008年度）-	奈良大学文学部文化財学科 文化財学報　第28集 和歌山市教育委員会 和歌山市内遺跡発掘調査概報―平成20年度―　―平成21年度― 有田川町教育委員会 平成21年度　有田川町埋蔵文化財調査年報　／　旧吉備中学校校庭遺跡第4次発掘調査

	史跡和歌山城第33次発掘調査 現地説明会資料 田屋遺跡第6次発掘調査 現地説明会資料	紀の川市教育委員会 名勝粉河寺庭園保存修理事業報告書 / 紀の川市内遺跡発掘調査概要報告書 平成20年度
鳥取県	普段寺古墳群調査団	普段寺古墳群Ⅱ
鳥根県	鳥根県教育委員会 大志戸Ⅱ 鈿跡 分析篇 / 堂々ノ内Ⅰ遺跡 堂々ノ内Ⅱ遺跡 堂々鈿跡 志谷Ⅲ遺跡 安神本遺跡 / 梨ノ木坂遺跡 庵寺古墳群 庵寺遺跡Ⅱ 久城東遺跡・若葉台遺跡・久城西Ⅰ遺跡・久城西Ⅱ遺跡・原浜遺跡 庄遺跡・深坪遺跡 / 道休畑遺跡 / 堂ノ上遺跡 山持遺跡 vol.1.6(4,6,7区) / 砂原車廻古墳群・砂原Ⅰ遺跡 埋蔵文化財調査センター年報18 平成21年度	益田市教育委員会 沖手遺跡 浜田市教育委員会 鳥根県浜田市遺跡地図Ⅱ（金城自治区）七渡瀬Ⅱ遺跡 松江市教育委員会 / 財団法人松江市教育文化振興事業団 新宮遺跡発掘調査報告書 / 石の堂遺跡発掘調査報告書 / 来美南遺跡 / 池平山城跡 松江市教育委員会 石流遺跡発掘調査報告書 （財）松江市教育文化振興事業団 埋蔵文化財課年報ⅩⅢ 平成20年度 鳥根県古代文化センター 戦国大名尼子氏の伝えた古文書-佐々木文書- 神在付古代文化シンポジウム 王墓誕生-出雲に王が生まれた時-
出雲市教育委員会 矢野遺跡 遺構編（第1分冊） / 自然河道・包含層編（第2分冊） / 自然科学分析・考察編（第3・4分冊） 神門寺付近遺跡Ⅱ / 十六島湾台場跡群発掘調査報告書 / 平成21年度 出雲市文化財調査報告書 田儀樓井家たたら製鉄遺跡発掘調査報告書-平成19～21年度の調査- / 出雲弥生の森博物館 展示ガイド		
津和野町教育委員会 津和野町城下町遺跡4・5 殿町地区Ⅰ / 上ノ山の氷室 / 津和野町遺跡地図（日原地域） 大蔭遺跡 第1・2・4・6・7・8次発掘調査報告書		
岡山県	岡山県教育委員会 伊福定国前遺跡 / 婦本路古墳群 / 岡山県埋蔵文化財報告 40 上東中嶋遺跡 / 姥ヶ辻遺跡2 岡山県古代吉備文化財センター 八紘古墳群 倉敷埋蔵文化財センター 倉敷埋蔵文化財センター年報 12	岡山市教育委員会 岡山市埋蔵文化財センター年報9 / 岡山市埋蔵文化財センター研究紀要 第2号 吉備津杉尾西遺跡・吉備津奥田遺跡 倉敷市教育委員会 倉敷の棟札集成 赤磐市教育委員会 備前国分寺跡 2
広島県	（財）広島県教育事業団 向江田中山遺跡 / 浅谷山西古墳・浅谷山1号遺跡・小深遺跡 曾川1号遺跡（L・M地区） / 年報3 平成17・18・19・20年度 福山市教育委員会 春日池の石敷上手樋発掘調査報告書 / 福山城跡 / 大窪古墳 福山市内遺跡発掘調査概要Ⅳ-2008年度（平成20年度）- （財）広島市文化財団 広島城跡 八丁堀地点発掘調査報告書 広島大学大学院文学研究科 帝釈峽遺跡群発掘調査室年報XXIV	（財）東広島市教育文化振興事業団 溝口4号遺跡発掘調査報告書 / 山口遺跡発掘調査報告書 御建遺跡発掘調査報告書 1 / 泥田城跡発掘調査報告書 東田遺跡発掘調査報告書 東広島市教育委員会 黄幡1号遺跡発掘調査報告書 / 杵原1号遺跡発掘調査報告書 磯松池遺跡発掘調査報告書 / 貞松遺跡発掘調査報告書 平成16年度 東広島市文化財年報 / 安芸西条 四日市遺跡 （株）パスコ 文化財整理事務所 広島城跡上八丁堀地点
山口県	下関市教育委員会 勝山御殿跡 / 史跡 仁馬山古墳 下関市埋蔵文化財年報 2 -平成19年（2007）年度の記録- 防府市教育委員会 周防国府発掘調査報告Ⅰー溝辺・榎ノ本地区の調査ー（本文編）・（図版編） 平成20年度 防府市内遺跡発掘調査報告書 山口県埋蔵文化財センター 朝田墳墓群Ⅷ / 椿遺跡 / 上り熊遺跡Ⅲ /墳跡 第23号	下関市立考古学博物館 研究紀要 第14号 / 「もったいない」の考古学 / 下関市立考古博物館年報 15-平成21年度- 美祿市長尾銅山文化交流館 長尾銅山交流館 展示図録 山口県立萩美術館・浦上記念館 染野夫妻陶芸コレクションリーチ・濱田・豊蔵・壽雪一 / フランスの浮世絵師 アンリ・リヴィエール展 東アジアの海とシルクロードの拠点 福建 / 中華のかがやきー中国山東省古玉器ー 山口大学埋蔵文化財資料館 山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成19年度- / 見島ジークンボ古墳群 第154号墳出土資料調査報 徳島県埋蔵文化財センター年報 Vol.20 2007年度 / 2008年度 藍住町教育委員会 勝瑞館跡発掘調査概要報告書ー第6次・第9次・第14次調査ー 徳島大学埋蔵文化財調査室 国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室 年報2
徳島県	徳島県教育委員会 末石遺跡 中庄東遺跡《第1分冊》・《第2分冊》 宮ノ本遺跡Ⅰ 大原遺跡 庄境遺跡 第1分冊・第2分冊・第3分冊 観音寺遺跡（Ⅴ） / 名東遺跡 南庄遺跡 徳島城下町跡 安宅2丁目地点 / 庄（庄・蔵本）遺跡	林宗高遺跡 / 奥の坊遺跡群Ⅷ（奥の坊遺跡 Ⅶ区） 高松市内遺跡発掘調査概報ー平成21年度国庫補助事業ー
香川県	高松市教育委員会 拝師庵寺 / 相作牛塚古墳	今治市教育委員会 高地栗谷1号墳 / 郷桜井堀遺跡ー第5・6・7次調査ー / 市内遺跡試掘確認調査報告書 XXⅨ・XXⅩ 郷桜井堀遺跡ー第5・6・7次調査ー / 国宝 伊予国奈良原山経塚出土品 史跡 能島城跡 平成20年度郭Ⅱ・Ⅲ・南部平坦地調査報告書 史跡 能島城跡 平成20年度能島東部海岸整備工事報告書
愛媛県	（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター 道後町遺跡3次 / 岩倉城跡2次 / 本郷遺跡 宮ノ上遺跡 下石床遺跡 / 旧眼寿院遺跡 愛比売 平成21年度年報 / 紀要愛媛 第9号 北井門遺跡 第1・2・3・4分冊 / 遺物観察表・写真図版 松山市教育委員会 葉佐池古墳-3・4・5・次調査- / 史跡久米官衙遺跡群調査報告書4 久米窪田古屋敷遺跡 / 史跡久米官衙遺跡群調査報告書5 祝谷畑中遺跡2次調査 道後今市遺跡7次調査 道後今市遺跡11次調査 樽味立添遺跡4次遺跡 樽味高木遺跡15次調査 / 松山市埋蔵文化財調査年報 22 平成21年度 東元遺跡-9次・10次調査- 小坂遺跡-1次～6次調査- 中村松田遺跡-5次・6次調査- 本文編・図版編 松野町教育委員会 国指定史跡 河後森城跡環境整備事業概要報告書	宇和島市教育委員会 宇和島市内遺跡調査報告書Ⅰ・Ⅱ / 拝鷹山貝塚と西南四国の弥生文化 / 拝鷹山貝塚Ⅱ 宇和島市内遺跡における民間開発行為に係る手引き（宇和島市市内遺跡地図 平成20年度・21年度） 愛媛大学 埋蔵文化財調査室 愛媛大学埋蔵文化財調査室年報-2008年度- - 2009年度- 鬼北町教育委員会 史跡等妙寺旧境内保存管理計画策定報告書 史跡の保存整備と利活用ー国史跡等妙寺境内のこれからー
高知県	高知県教育委員会・（財）高知県文化財団埋蔵文化財センター 上ノ村遺跡Ⅰ / 伏原遺跡Ⅰ・Ⅱ / 原遺跡 / 天神溝田遺跡Ⅰ ひびのきサウジ遺跡Ⅲ / クノ丸遺跡 / 史跡高知城跡 / 西弘小路遺跡 高知県埋蔵文化財センター年報 第19号 2009年度	四万十市教育委員会 平成18年度～平成20年度試掘確認調査及び重要遺構確認調査 / フキショウジ遺跡 高知大学人文学部考古学研究室 朝倉古墳発掘調査概要報告書Ⅱ / 坂ノ松古墳測量調査報告書 弥生・古墳時代における太平洋ルートの文物交流と地域間関係の研究
福岡県	福岡市教育委員会 福岡市埋蔵文化財センター年報 Vol.23 / 第28号 「国史跡 福岡城跡」下之橋御門復元整備工事報告書	（財）北九州市芸術文化振興財団 埋蔵文化財調査室年報26 平成20年度 / 研究紀要 第24号 蒲生石棺群 / 丸ノ内遺跡第5次調査 / 古立東遺跡 1（1・3区）・2（2区）

	博多 134・135・136・137・138・139・140 今宿五郎江8 / 有田・小田部47・48 / 板付 10 / 入部 13 笠拔遺跡2 大橋E遺跡7 / 香椎A遺跡3 / 蒲田水ケ元遺跡2 蒲田部木原 10 / コノリ遺跡群 4 / 山王4 / 四箇古川遺跡1 田島B1 / 拾六町ツイジ2 / 田村16 / 野芥大蔵 2 / 草場古墳群2 市道戸切通線工事に伴う発掘調査報告書 2 / 名島城跡3 那珂56・57 / 箱崎 39・40・41 / 羽根戸原B1 / 比恵 57・58・59 ヒワタン遺跡1 / 都地遺跡 5 / 表野C遺跡7 / 元岡・桑原遺跡群16・17	カキ遺跡第5地点（2区の調査） / 黒崎城跡11（18・26区） / 長浜遺跡第2地点3 / 山田遺跡 伊崎遺跡（4区・5区） / 恒見遺跡 / 日の出町遺跡第2地点 / 室町遺跡第11地点 長野小西田遺跡3 / 長野尾登遺跡第2地点（A・B区） / 長野コイトラ遺跡 第2次調査 小倉城三ノ丸跡第6地点2・3 / 小倉城三ノ丸跡第7地点 / 能行遺跡第3地点 / 今村遺跡
	福岡市博物館 平成18年度収集 収蔵品目録24 福岡市博物館研究紀要 第19号 / 年報 第16号（平成19年度）	川崎町教育委員会 戸山原古墳1号墳
	福岡県教育委員会 蒲船津江頭遺跡Ⅱ / 矢加部町屋敷遺跡Ⅱ / 本吉遺跡 / 竹重遺跡3 観音山古墳群平石Ⅲ群 / 藤の尾垣添遺跡Ⅲ-集落編3・墳墓編- 特別史跡大野城跡整備事業V-上巻- / 山門ガラン遺跡 / 山門牛島遺跡 福富小畑遺跡D地点 / 福岡県埋蔵文化財発掘調査年報-平成20年度-	星野村教育委員会 寄遺跡・下小野遺跡
	北九州市教育委員会 上ん山古墳 / 小倉城三ノ丸跡第2地点	福岡教育大学国語教育講座 大分県方言談話資料（2）―大分市戸次― / （3）―大分市一尺屋―
	北九州市立自然史・歴史博物館 研究報告 B類 歴史 第7号	飯塚市教育委員会 飯塚市内埋蔵文化財試掘・確認調査報告書（1）
	久留米市教育委員会 久留米市文化財保護課年報 Vo1.6 / 久留米市埋蔵文化財調査集報ⅩⅡ 筑後国府跡-第230次調査- / 櫛原侍屋敷遺跡 第12次調査 太郎原遺跡第1次調査 / 善導寺境内遺跡Ⅰ-第1・4次調査- 二本木遺跡群Ⅶ / 筑後国府跡-平成21年度発掘調査報告・概要報告- 久留米市城島町遺跡等詳細分布調査報告書 / 平成21年度 久留米市内遺跡群	筑紫野市教育委員会 名越古墳・渠水墳墓群 / 松原遺跡 / 立明寺地区遺跡-C地点 第1次発掘調査- 太宰府条坊跡 第129次 / 第144次 / 第166次 / 第183次 / 第186次
	筑後市教育委員会 九州新幹線関係遺跡 / 高江辻遺跡 / 筑後市内遺跡群Ⅶ・Ⅷ・ⅩⅢ 津島洲崎遺跡 / 志五反田遺跡 / 蔵敷東野屋敷遺跡 / 長浜上八ノ久保遺跡	稲波町教育委員会 小正西古墳
	かんだ郷土史研究会 安政七年 申歳公私諸用日記 / 明和五年 子歳要用日記 安永二年 己歳御用日記	大野城市教育委員会 村下遺跡Ⅱ / 乙金地区遺跡群Ⅱ / 後原遺跡Ⅱ / 日本の郵便制度と雑餉限郵便局
	九州歴史資料館 九州歴史資料館 研究論集 35 / 年報 平成21年度	大牟田市教育委員会 米生遺跡 / 平成19年度 大牟田市市内遺跡発掘調査報告書
	うきは市教育委員会 三春大庭遺跡2 / うきは市遺跡等詳細分布調査報告書	小郡市教育委員会 三沢北中尾遺跡2 / 上岩田遺跡2 / 大板井遺跡24 / 横隈狐塚遺跡7
	添田町教育委員会 中元寺遺跡群Ⅱ	粕屋町教育委員会 大隈丸山古墳 大隈丸山曼荼羅石板碑 / 阿恵原口遺跡第2地点 / 新大間池遺跡
	大刀洗町教育委員会 下高橋遺跡Ⅶ / 高橋井手ノ上遺跡	苅田町歴史資料館 律令時代と豊前国 / 堤遺跡群
	太宰府市教育委員会 筑前国分尼寺跡 4 / 秋山遺跡 1	日韓集落研究会 日韓集落の研究
	筑前町教育委員会 筑前町内遺跡分布地図	東峰村 宝珠山村誌 / 自然編
佐賀県	佐賀県立名護屋城博物館 名護屋城跡-本丸-	豊前市教育委員会 大村天神林遺跡 / 久路土鐘つき田遺跡 久路土芝掛遺跡 久路土高松遺跡
	佐賀市教育委員会 佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書-2007年度- / 西中野遺跡Ⅶ・Ⅷ・Ⅹ・ⅩⅠ・ⅩⅡ 藤木四本杉遺跡Ⅳ / 藤木遺跡Ⅰ / ウー屋敷遺跡Ⅲ / 藤木一本杉遺跡Ⅰ 西洲遺跡Ⅲ / 寺小路遺跡 / 印輪遺跡Ⅰ / 五龍神社遺跡 / 佐賀城跡	宮若市教育委員会 中遺跡群Ⅶ 宮ノ下遺跡Ⅱ-2区
	小城市教育委員会 北小路遺跡1・2区 丁永遺跡1・2・4・5区 / 丁永遺跡3区 八ツ戸遺跡4区 千葉城跡 妙見遺跡 / 八ツ戸遺跡	那珂川町教育委員会 梶原ハル遺跡群 / 雲光遺跡群 / 中原・ヒナタ遺跡群Ⅳ
	唐津市教育委員会 唐津曳山 記録保存 報告書	福津市教育委員会 手光於緑遺跡第2地点
	長崎県	行橋市教育委員会 大谷田瀬遺跡 / 京築地方のあけぼの
長崎県	長崎県教育委員会 「郷土の遺跡展」記録集 / 門前遺跡Ⅲ 武辺遺跡Ⅱ	行橋市歴史資料館 平成22年度企画展 千田家寄贈の書画 / 特別展「生誕二百年記念 村上佛山」展示図録
	長崎市教育委員会 国指定史跡 出島和蘭商館跡 第1分冊 / 第2分冊	佐賀県教育委員会 中原遺跡Ⅳ 11区・13区の弥生時代喪棺墓の調査 / 仁田古墳群Ⅰ / 東田瀬遺跡2 畑瀬城跡
	諫早市教育委員会 中前後谷遺跡	鳥栖市教育委員会 四ツ木遺跡 / 村田三本松遺跡 / 田代太田古墳 / 上天遺跡 鳥栖の歴史と文化-鳥栖のまちづくりと歴史・文化講座報告書- 新鳥栖学-鳥栖の町づくりと歴史・文化講座事業報告書- / Ⅱ
	佐世保市教育委員会 佐世保の洞窟遺跡 Ⅱ / 市内遺跡発掘調査報告書	鳥栖市文化財年報 1994・1995・1996・1997年度版 / 1998・1999・2000・2001年度版 鳥栖市文化財年報 2002・2003・2004・2005年度版 / 2006年度版 / 2007年度版
	南島原市教育委員会 日野江城跡 総集編 / 亀の首遺跡 / 原城跡Ⅳ	神埼市教育委員会 市内遺跡確認調査概要報告書Ⅱ / 神埼の城館跡と環濠集落 / 野田遺跡 利田柳遺跡 利田黒木遺跡
熊本県	熊本県教育委員会 太郎丸遺跡・西屋敷遺跡・瀬萩遺跡 / 舟渡城跡 瀬田池ノ原遺跡 / 小園遺跡 / 二本木遺跡群Ⅲ 宮池小畑遺跡・宮地観行寺遺跡 上小田宮の前・養寺遺跡 小野原遺跡群 第1分冊 / 第2分冊	大村市教育委員会 国名勝 旧円融寺庭園保存整備報告書
	熊本県立装飾古墳館 古代山城 鞠智城を考える	対馬市教育委員会 史跡対馬藩主宗家墓所本堂修理工事報告書 / 旧金石城庭園
		平戸市教育委員会 市内遺跡確認調査報告書Ⅸ / 史跡平戸和蘭商館跡の発掘調査ⅩⅢ
		平戸市史編さん委員会 平戸市史 絵図編 絵図にみる平戸
		平戸市生月町博物館 島の館だより
熊本県		沓岐市教育委員会 車出遺跡
		熊本城総合事務所 特別史跡 熊本城跡 本丸御殿復元整備事業報告書
		熊本大学文学部 ナガラ原東貝塚6 熊本大学埋蔵文化財調査室年報 15 2008年度 熊本大学構内遺跡発掘調査報告 Ⅵ（1999・2000・2001年度）
		玉名市教育委員会 築地池下遺跡 / 浮田溜池関連施設

	歴史公園鞠智城跡・温故創生館 鞠智遺跡―第30次調査報告―	益城町教育委員会 小柳遺跡
	八代市教育委員会 西片稲村遺跡	城南町教育委員会 新史料による天草・島原の乱
大分県	大分県埋蔵文化財センター 丹生遺跡群（第14地点） / 上野遺跡群～矢取坂地区～ 大分県内遺跡発掘調査概報13 / 大分県埋蔵文化財年報18 古墳からみた黄泉の国	大分市歴史資料館 偉人たちの風貌―おおいたの肖像―
	大分県先哲史料館 資料館研究紀要 15号	坂ノ市地区郷土史愛好会 白水郎（あま） 会報第27号
	大分県公文書館 縣治概畧 IV / V / VI	佐賀関町教育委員会 古代のロマン「海部の郷」を語る
	大分県立歴史博物館 研究紀要 11	九重町教育委員会 釘野千軒遺跡Ⅱ / 九重町歴史資料館年報
	臼杵市教育委員会 家野遺跡 / 臼杵城	佐伯市教育委員会 梅平礼遺跡 / 佐伯城下町遺跡
	玖珠町教育委員会 豊後森城下町	中津市教育委員会 中津城跡Ⅰ / 大勢遺跡
		加来居屋敷遺跡 / 市内遺跡発掘調査概報3
	宮崎県	西都市教育委員会 都於郡城跡発掘調査概要報告書IX
	宮崎県埋蔵文化財センター 銀座第1遺跡（五次調査） / 前の田村上第2遺跡（二次・三次調査） 尾花A遺跡Ⅱ 本文編 / 挿図編 / 写真図版編	日南市教育委員会 平成21年度 日南市内遺跡発掘調査概報
	宮崎県立西都原考古博物館 宮崎県立西都原考古博物館 研究紀要 第6号 宮崎県立西都原考古博物館年報 2009（平成21）年度 大地に刻まれた交流史 / 東アジアの石器 西都原169号墳（遺物編）西都原170号墳（遺物編）	小林市教育委員会 山中遺跡 / 市内遺跡発掘調査報告書―平成21（2009）年度―
	宮崎市教育委員会 下北方塚原第1遺跡 / 史跡 穆佐城跡 生目古墳群Ⅰ / 史跡生目5号墳復元整備報告書	新富町教育委員会 上菌遺跡Ⅰ地区 / 町内遺跡26 / 祇園原古墳群 13
	延岡市教育委員会 東原遺跡（第7次）・北久保山遺跡（第2次） 市内遺跡 平成21年度市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	都城市教育委員会 都城市内遺跡 3 / ニタ元遺跡 二本松遺跡 / 池之上城跡 庄内小学校遺跡 / 永田藤東遺跡 王子原遺跡 上安久遺跡 / 都城市内遺跡 4
		えびの市教育委員会 下鶯遺跡
	鹿児島県	鹿児島市教育委員会 武遺跡H地点 / 北麓遺跡F地点
	出水市教育委員会 出水麓遺跡（御假屋跡・旧税所邸）	霧島市教育委員会 大隈国分寺跡―遺構編― / 中柚木遺跡
	伊仙町教育委員会 川嶺辻遺跡 / 中筋川トゥール遺跡 / 奄美大島の重要遺跡の保存・活用に向けて	鹿児島大学埋蔵文化財調査室 鹿児島大学構内遺跡 農学部開学100周年事業 地中からみた農学部のあゆみ
	鹿児島県立埋蔵文化財センター 宮ノ上遺跡 旧石器時代編 尾付野山遺跡 向井原遺跡（薩摩郡さつま町） 油免・本寺遺跡（南さつま市） 芝原遺跡Ⅰ 縄文時代遺構編 / 渡畑遺跡Ⅰ（南さつま市金峰町） 上水流遺跡4【第Ⅰ分冊】 / 【第Ⅱ分冊】（南さつま市金峰町） 狩俣遺跡 建山遺跡 西原段Ⅰ遺跡（曾於市大隈町） 定塚遺跡・稲村遺跡（曾於市大隈町）第1分冊・第2分冊・第3分冊・第4分冊・第5分冊 加治木堀遺跡 宮ノ本遺跡 椿山遺跡 柿木段遺跡 野方前段遺跡A地点（曾於郡大崎町） 椿城跡（いちき串木野市）第1分冊・第2分冊・第3分冊	鹿児島国際大学考古学ミュージアム 鹿児島国際大学考古学ミュージアム調査研究報告 第8集
		天城町教育委員会 塔原遺跡（3）
		指宿市教育委員会 敷領遺跡・大園原遺跡・山王遺跡・森山遺跡 / 南丹波遺跡Ⅱ
	沖縄県	
	沖縄県立博物館・美術館 ハナダガマ遺跡発掘調査報告書	武芸洞遺跡発掘調査概要報告書

大分市埋蔵文化財調査概要2011

平成22年度

平成23年12月28日

編集・発行

大分市教育委員会文化財課

大分市荷揚町2番31号

〒870-0435（097）534-6111